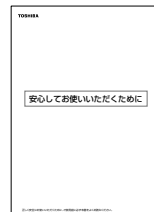
マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

● パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

● Windowsのセットアップ
● パソコンの各部名称
● パソコンの基本機能
● 通信機能
● 周辺機器の接続
● バッテリで使う方法
● システム環境の変更
● 困ったときは
● リカバリ（再セットアップ）　　など

オンラインマニュアル

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

使いかた 「パソコンの画面上で見るマニュアル」

リリース情報

● 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で次の操作を行うと表示されます。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリック

もくじ

3章 パソコンの基本操作を覚えよう 37

6章 バッテリ駆動で使う 85

7章 システム環境の変更 93

10章 登録とケア －廃棄と譲渡－ 169

付録 179

パソコンの画面上で見るマニュアル

① オンラインマニュアル

SXシリーズの場合

Windowsが起動しているときに、「オンラインマニュアル」をパソコン画面上で見ることができます。
冊子のマニュアルと合わせてお読みください。

1 デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコン（ ）をダブルクリックする

「オンラインマニュアル」が起動します。

メモ

- 本書の「参照《オンラインマニュアル（検索）：キーワード》」は、オンラインマニュアルに説明があることを示しています。「（検索）：」の後に記載されているキーワードを、［検索］画面で検索すると、目的のページを探すことができます。

S30シリーズの場合

Windowsが起動しているときに、取扱説明書（本書）をパソコン画面上で見ることができます。
次のように操作すると、「Adobe Reader」が起動し、「オンラインマニュアル」が表示されます。

初めて「Adobe Reader」を起動したときは、［ソフトウェア使用許諾契約書］画面が表示されます。契約内容をお読みのうえ、［同意する］ボタンをクリックしてください。［同意する］ボタンをクリックしないと、「Adobe Reader」をご使用になれません。また、「オンラインマニュアル」を見ることはできません。

1 デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコン（ ）をダブルクリックする

「オンラインマニュアル」が起動します。

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 他のマニュアルへの参照の場合…『　』 オンラインマニュアルへの参照の場合…《　》

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム
特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

Windows XP
特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版またはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版を示します。

XP Proモデル
Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版が搭載されているモデルを示します。

XP Homeモデル
Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版が搭載されているモデルを示します。

Microsoft IME
Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット2003またはMicrosoft® IME 2002／ナチュラルインプット2002を示します。

Office搭載モデル
Microsoft® Office Personal Edition 2003がプレインストールされているモデルを示します。

OneNote搭載モデル
Microsoft® Office OneNote® 2003がプレインストールされているモデルを示します。

Coreモデル
インテル® Core™ Solo プロセッサーが内蔵されているモデルを示します。

Celeronモデル
インテル® Celeron® M プロセッサーが内蔵されているモデルを示します。

無線LANモデル
無線LAN機能が内蔵されているモデルを示します。

無線通信機能モデル
無線LAN機能とBluetooth機能が内蔵されているモデルを示します。

1000BASE-T対応モデル
Gigabit Ethernet（1000BASE-T）に対応しているLAN機能が内蔵されているモデルを示します。

コンパクトフラッシュモデル
コンパクトフラッシュカードスロットが内蔵されているモデルを示します。

TPM搭載モデル
TPM機能を内蔵しているモデルを示します。

SXシリーズ
dynabook SS SXシリーズを示します。

S30シリーズ
dynabook SS S30シリーズを示します。

記載について

・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
・本書をはじめとする取扱説明書では、コントロールパネルの操作方法についてカテゴリ表示を前提に記載しています。クラシック表示になっている場合は、カテゴリ表示に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 カテゴリ表示とクラシック表示
『ヘルプとサポート センター』

Trademarks

・Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、OneNote、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Intel、インテル、インテルCore、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
・Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
・ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
・「駅前探険倶楽部」、「駅探」は登録商標です。
・Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
・駅すぱあとは、株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
・「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
・Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
・gooスティックは、NTTレゾナント株式会社の商標です。
・TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrinoモバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

・インテル Core Solo プロセッサー
・モバイル インテル 945 Express チップセット・ファミリー
・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション・ファミリー

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用する場合
・ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポート0120-97-1048にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

ワイド画面における画面の引き延ばしについて

1. 本製品は、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組等ソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご注意の上、画面モードをお選びください。
2. 本製品を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において、画面モード切り換え機能（ワイドモード、ワイドズーム等）等を利用して、画面の引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますので、ご注意願います。

お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像を、本製品での壁紙以外の用途に使用することを禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。
  HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- 指紋の認識率には、個人差があります。
- 指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されませんが、リカバリを行った場合には使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「10章 1 お客様登録の手続き」

1 章

パソコンの準備 ーセットアップー

この章では、Windows のセットアップ、電源の切りかた／入れかたなど、お買い上げいただいてから実際に使い始めるまでの準備について説明しています。

Windows を使えるようにする

ウィンドウズ

― Windows のセットアップ ―

初めて電源を入れたときは、Windows のセットアップを行う必要があります。
Windows のセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
セットアップには約 10 分かかります。

作業を始める前に、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

お願い セットアップをするときの注意

■周辺機器は接続しないでください■

- セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンタ、マウスなどの周辺機器や LAN ケーブルは接続しないでください。

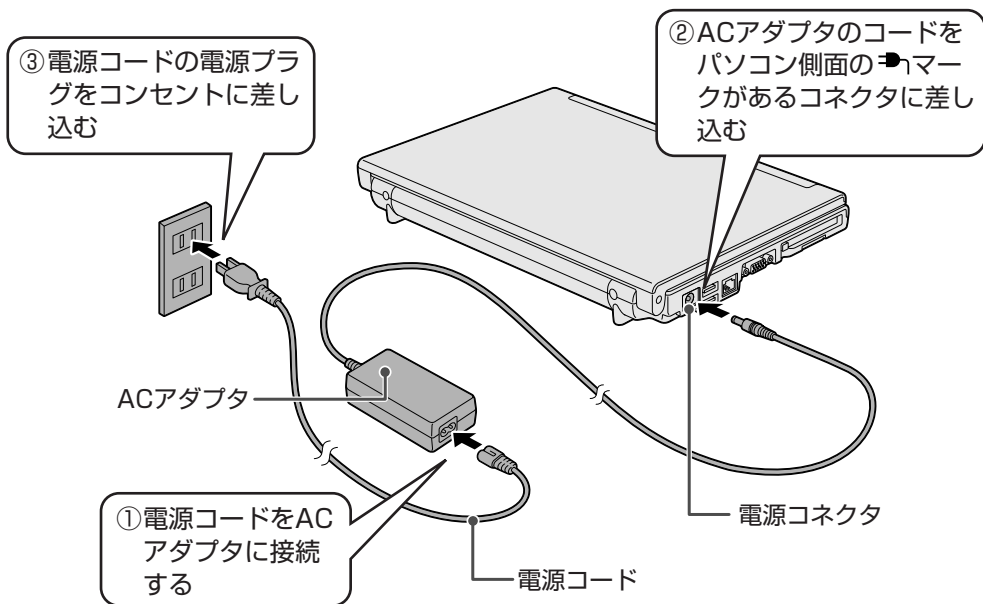
■途中で電源を切らないでください■

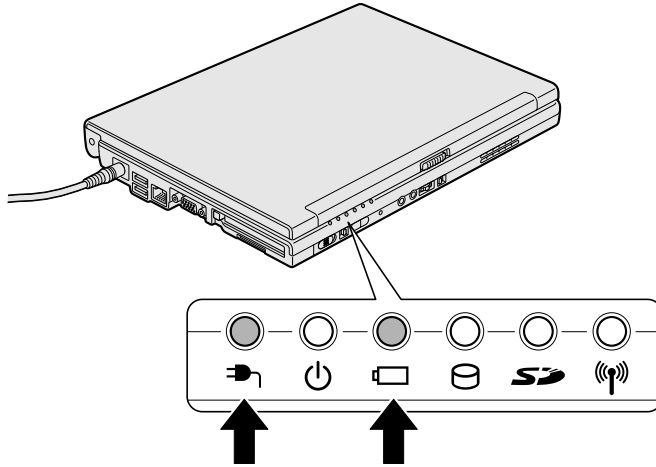
- セットアップの途中で電源スイッチをスライドしたり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり修理が必要となることがあります。

■操作は時間をあけないでください■

- セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなる場合がありますが、故障ではありません。
  もう 1 度表示するには、SHIFT キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

① 電源コードと AC アダプタを接続する

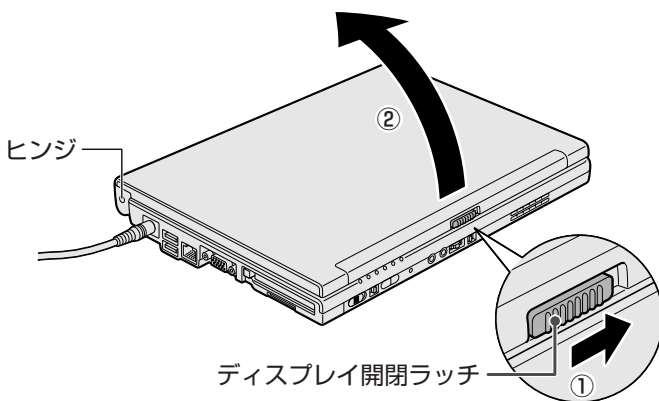
次の図の①→②→③の順で行ってください。

接続すると

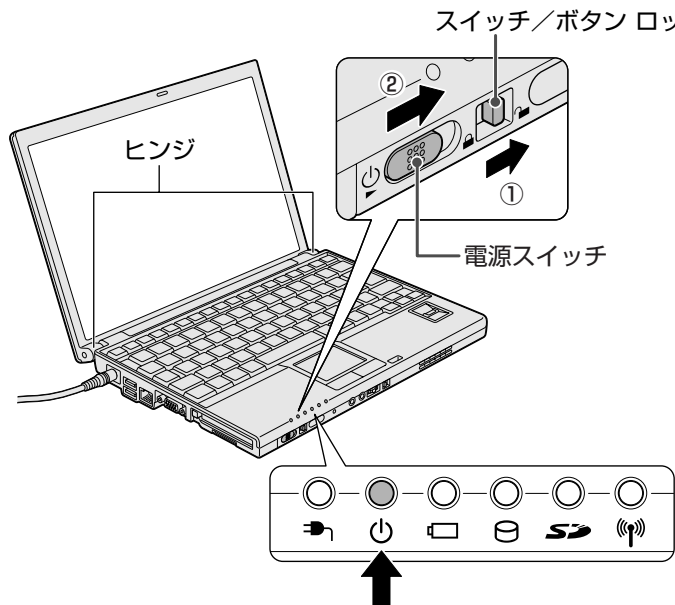
DC IN LEDが緑色に点灯します。また、Battery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

② 電源を入れる

お願い　本体液晶ディスプレイを開けるときは

- 本体液晶ディスプレイを開き過ぎるとヒンジ（手順1、2参照）に力がかかり、破損や故障の原因となります。ヒンジに無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

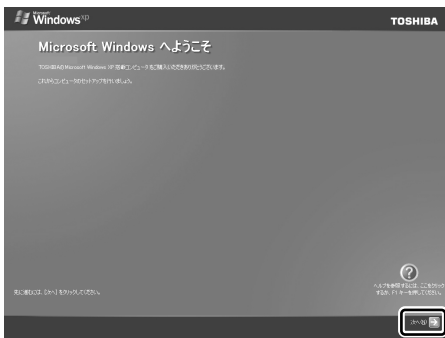
1　パソコン本体正面のディスプレイ開閉ラッチをスライドし①、ディスプレイを開ける②

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ部分には触れないようにしてください。
片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

2 スイッチ／ボタン ロックを解除し①、電源スイッチをスライドする②

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、スイッチをスライドしてください。

③ Windows のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
パソコンが起動したら、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示され、音楽が流れます。

- Windows のセットアップが完了するまで、音量の調節はできません。

1 ［次へ］ボタンをクリックする

［使用許諾契約］画面が表示されます。

画面右下の ? ボタンをクリックするか F1 キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

役立つ操作集

クリックとは？

タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。
目的の位置にポインタをあわせたあと、左ボタンを 1 回押す操作を「クリック」といいます。

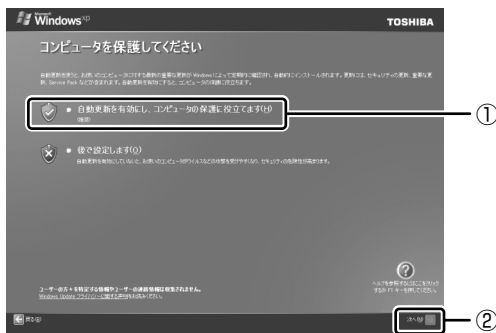
参照 詳しい使いかた 「3 章 3 ポインタを動かす／ファイルを開く」

2 **［使用許諾契約］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

（表示例）

契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windows を使用することはできません。
▼ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。

［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

3 **［自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

4 ［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

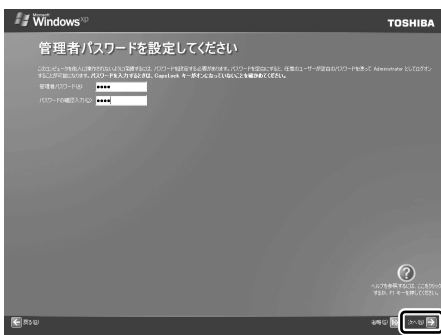
半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
XP Home モデルの場合は、［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。手順８へ進んでください。
XP Pro モデルの場合は、［管理者パスワードを設定してください］画面が表示されます。

5 ［管理者パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力する

Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。
パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 入力に使うキーの位置について 「3 章 2 キーボード」

［管理者パスワード］欄での入力後、(TAB)キーを押すと「｜」が［パスワードの確認入力］欄に移動します。「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

［このコンピュータをドメインに参加させますか？］画面が表示されます。
ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

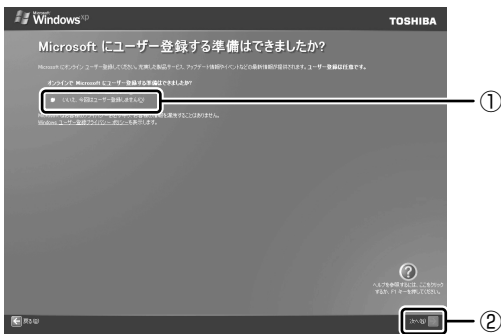
7 ［いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

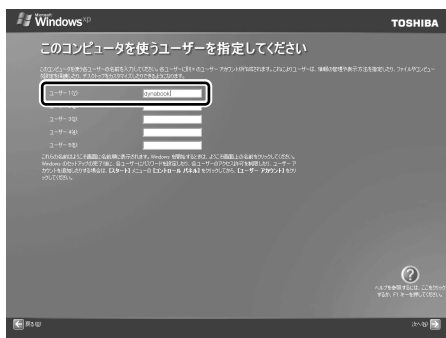
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることもあります。
画面が表示される前に、［インターネット接続を確認しています］画面が表示されることがあります。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

8 ［省略］ボタンをクリックする

［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示された場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。

［Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。
マイクロソフト社へのユーザ登録は、市販の Windows XP を購入された場合のみ必要ですので、ここでは省略した場合について説明します。

9 ［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

10 ［ユーザー 1］欄に使う人の名前を入力する

［ユーザー 1］欄にポインタをあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。

参照 入力に使うキーの位置について 「3 章 2 キーボード」

Windows XP では複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ ローマ字入力で入力する場合

- 半角英数字で「dynabook」と入力したいときは、はじめにキーボードの(半／全)キーを押して、日本語入力システム Microsoft IMEの日本語入力モードをオフにしてから、(D)(Y)(N)(A)(B)(O)(O)(K)と押します。
  キーを押しても文字が表示されない場合は、［ユーザー］欄に「｜」（カーソル）が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、［ユーザー］欄をクリックしてください。
  文字の入力を間違えたら、(BACKSPACE)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

11 ［次へ］ボタンをクリックする

［設定が完了しました］画面が表示されます。

12 ［完了］ボタンをクリックする

（表示例）

Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動します。

役立つ操作集

日付と時刻の設定

購入後初めてセットアップを終えたあとは、次の手順で日付と時刻をあわせます。

①［スタート］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［コントロールパネル］をクリックする
②［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリックする
③［日付と時刻］をクリックする
［日付と時刻のプロパティ］画面が表示されます。

④［日付］欄の または をクリックして年号をあわせる
⑤［日付］欄の をクリックして月をあわせる
⑥［日付］欄のカレンダーで日をクリックする
⑦［時刻］欄の または をクリックして時刻をあわせる
変更する時／分／秒をクリックしてから、 または をクリックします。
⑧［OK］ボタンをクリックする

時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。日付は、時刻表示部分にポインタをあわせるとしばらくして表示されます。正しく設定されているかどうか確認してください。

電源を切る方法と入れる方法

① 電源を切る

パソコンの電源を切るときは、まずWindowsを終了し、そのあとパソコン本体の電源を切ります。
電源を切る手順を覚えましょう。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い　電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED、SD Card LEDが点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ［終了オプション］をクリックする

［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。

3 ［電源を切る］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windowsのシャットダウン］画面で ボタンをクリックし①、［シャットダウン］を選択し②、［OK］ボタンをクリックしてください。

参照 ドメインについて 「本章4-2 ドメインに参加する」

Windowsを終了したあと、パソコン本体の電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LEDが消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。
- パソコンを持ち運ぶときや、かばんなどに収納する際には、誤って電源が入らないように、スイッチ／ボタン ロックをロック側（ 🔒 ）にスライドしてください。
  また、持ち運ぶときに守ってほしいことが、本書に記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

参照 「10章 2-5 ちょっと待って。持ち運びですか？」

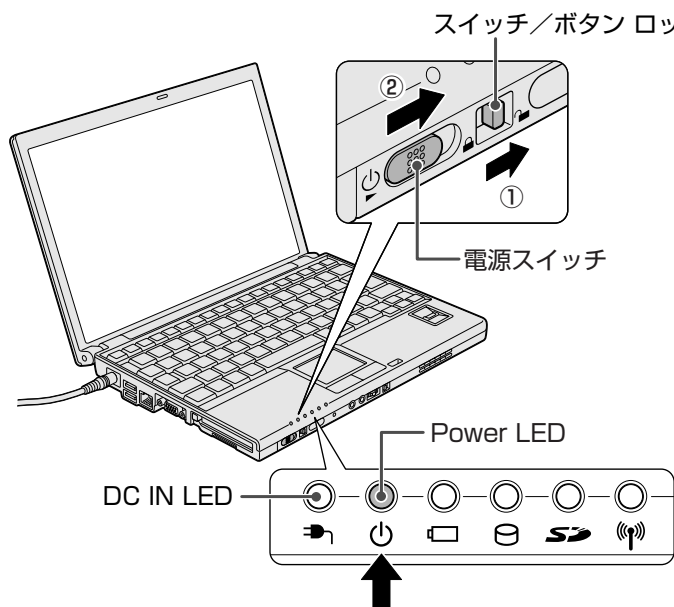
② 電源を入れる

Windows セットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

お願い 電源を入れる前に

- 各スロットにメディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 スイッチ／ボタン ロックを解除し①、電源スイッチをスライドする②

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、スイッチをスライドしてください。

Windows が起動し、デスクトップ画面が表示されます。

電源に関する表示

電源の状態はシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告（AC アダプタ、バッテリまたはパソコン本体の異常）＊1
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	オレンジの点滅 →緑の点滅	メモリの取り付けに問題がある＊2
	消灯	電源 OFF、休止状態

＊1 電源に関するトラブルについては、「8 章 4 Q&A 集」を参照してください。
＊2 メモリの取り付けについては、「5 章 2 パソコンの動作をスムーズにする」を参照してください。

【 S30 シリーズの場合 】
「東芝ピークシフトコントロール」を使用している場合の電源の状態については、『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）または「東芝ピークシフトコントロール」のヘルプを参照してください。

【 パスワードを設定している場合 】

● ユーザパスワードを設定している場合
電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

● 購入時の設定では、パスワードの入力ミスを 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
●「指紋認証ユーティリティ」でパワーオンセキュリティ機能を有効にし、指紋を登録すると、パワーオンセキュリティ機能が有効となり、パスワードを設定している場合に表示される「Password=」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。認証を 5 回失敗するか、一定時間が経過する、またはBACKSPACEキーを押すと、「Password =」が表示されます。指紋認証について詳しくは、「7 章 5 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。
●「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。

・ユーザパスワードが登録されていない場合
設定後の 1 回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。ユーザパスワードの登録を行ってください。
・ユーザパスワードが登録されている場合
設定後の起動時の「Password=」で、ユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。新しいユーザパスワードに変更してください。

「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。

スーパーバイザパスワードについて詳しくは、「7 章 4-② スーパーバイザパスワード」を参照してください。

参照 パスワードについて 「7 章 4 パスワードセキュリティ」

● HDD パスワードを設定している場合
＊ S30 シリーズのみ

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
HDD Password =
```

設定したHDDパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

メモ

● パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
● パスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「7章 4 パスワードセキュリティ」

【メッセージが表示される場合】
不明なメッセージについては、「8章 4 Q&A集 メッセージ」をご覧ください。

1 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【一時的に変更する】
電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 (F12)キーを押しながら電源スイッチをスライドする

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ→ FDD または SD メモリカード → ネットワーク → USB フラッシュメモリ

FDD または SD メモリカードアイコンを選択すると、別売りのフロッピーディスクドライブが接続されている場合、フロッピーディスクドライブが優先されます。

2 起動したいドライブを(←)または(→)キーで選択し、(ENTER)キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【あらかじめ設定しておく】
「東芝HW セットアップ」の［OS の起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更 「東芝HW セットアップ」のヘルプ

SD メモリカードから起動する

「SD メモリブートユーティリティ」では、SD メモリカードで起動ディスクを作成することができます。
詳細については、「SD メモリブートユーティリティ」のヘルプを参照してください。

【SD メモリブートユーティリティの起動方法】

1 SD カードスロットに SD メモリカードをセットする

参照 「3章 7-②-1 セットする」

2 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SD メモリブートユーティリティ］をクリックする

［東芝 SD メモリブートユーティリティ］画面が表示されます。ヘルプを参照し、起動ディスクを作成してください。

【SD メモリブートユーティリティのヘルプの起動方法】

1 「SD メモリブートユーティリティ」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

パソコンの使用を中断する／電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチをスライドする、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

中断する前に
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは
- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリの取り付け／取りはずしをすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少したときも同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しないときは、電源スイッチを５秒以上スライドしていったん電源を切った後、もう一度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。

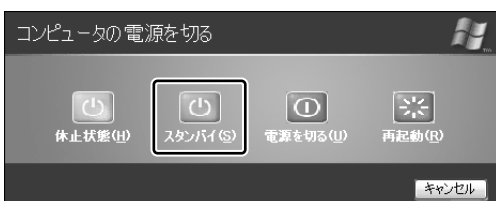
① スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチをスライドすると、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

2 ［スタンバイ］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［スタンバイ］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power ⏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

- (FN)＋(F3)キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

② 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を復元できます。
購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効な場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されています。

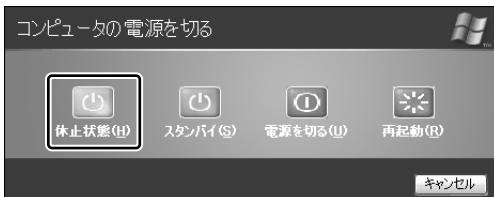
1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする
　休止状態が有効になります。

2 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

ドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。

3 ［休止状態］をクリックする

ドメイン参加している場合は、［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし、［休止状態］を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。

Disk LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

- (FN)＋(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチをスライドしたときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節 ②-1 手順 1」を参照して、設定してください。

1 電源スイッチをスライドする

1 電源スイッチをスライドしたときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック➡［東芝省電力］をクリックする
② ［アクション設定］タブの［電源ボタンを押したとき］で［入力を求める］［スタンバイ］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
③ ［OK］ボタンをクリックする

2 電源スイッチをスライドする

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の②で［入力を求める］を選択したときは、［Windows のシャットダウン］画面または［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。［何もしない］を選択したときは、電源スイッチをスライドしても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には［休止状態］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック➡［東芝省電力］をクリックする
② ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［スタンバイ］［休止状態］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
③ ［OK］ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の②で［スタンバイ］または［休止状態］を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

Windows のワンポイント

1 わからない操作があったとき

Windows XP の使いかたについては、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
Windows XP の最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/
- Windows XP のアップデート
  URL：http://windowsupdate.microsoft.com/

2 ドメインに参加する

＊ XP Pro モデルのみ

企業内など、ある 1 つにまとまったネットワークをドメインと呼びます。
ここでは、本製品をドメインに参加させる方法を説明します。
ドメインのユーザ名やパスワードなど、詳しい設定方法がわからない場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。
本製品を複数のユーザで使用している場合は Administrator と呼ばれる管理者のユーザに切り替えてから設定を行ってください。

ドメインの設定方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

3 ［コンピュータの基本的な情報を表示する］をクリックする

［システムのプロパティ］画面が表示されます。

4 ［コンピュータ名］タブで［変更］ボタンをクリックする

5 ［ドメイン］の左にある○をクリックしてから接続するドメインの名前を入力し、［OK］ボタンをクリックする

6 ドメインの［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］ボタンをクリックする

7 ［OK］ボタンをクリックする

8 ［OK］ボタンをクリックする

パソコンを再起動してください。

3 ちょっと便利な補助機能

画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XP では［ユーザー補助の設定ウィザード］または［ユーザー補助のオプション］でユーザを補助します。

ユーザー補助の設定ウィザード

［ユーザー補助の設定ウィザード］では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。
質問の回答にあわせ、自動的にパソコンを設定します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

3 ［Windows を構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する］をクリックする

ユーザー補助のオプション

［ユーザー補助のオプション］では、直接設定することができます。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

3 ［ ユーザー補助のオプション］をクリックする

詳しくは、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして『ヘルプとサポート センター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の［ユーザー補助］をクリックして、説明をお読みください。

2章

買い替えのお客様へ

すでに使っていたパソコンの使用環境を、新しいパソコンでも引き続き利用するために必要な手順や、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC 引越ナビ」について説明します。

1 パソコンを買い替えたときは

新しいパソコンに買い替えたかたは、今まで使っていたパソコンと同じように使うために使用環境を整えましょう。
Windows セットアップを完了してから行ってください。また、インターネット接続やアプリケーションのインストール、データの移行を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

周辺機器を使えるようにする

【 仕様を確認する 】
今まで使っていた周辺機器を本製品に接続して使用するには、次の点を確認してください。

①本製品の仕様を確認する
　本製品に、その周辺機器を使用するためのインタフェース（コネクタなど）が装備されているか、確認してください。
②Windows XP に対応している機器か確認する
　『周辺機器に付属の説明書』や機器のメーカのホームページで、その周辺機器が対応しているシステムを確認してください。Windows XP に対応していない場合は、本製品に接続して使用できません。

参照 使用できる周辺機器について 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

【 周辺機器を接続する 】
①今まで使っていたパソコンから周辺機器を取りはずす
　『周辺機器に付属の説明書』や『パソコンに付属の説明書』を確認し、周辺機器を取りはずしてください。
②本製品にドライバやソフトをインストールする
　機器に CD などでドライバが添付されている場合や、メーカのホームページで Windows XP 用のドライバがダウンロードできる場合は、本製品にダウンロードしてください。
③本製品に周辺機器を取り付ける
　「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を確認し、周辺機器を取り付けてください。

周辺機器を取り付けたあと、動作に問題ないか確認してください。

メールやインターネットの設定をする

Windows セットアップが完了したばかりの状態では、メールやインターネットは使用できません。
プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを確認し、もう一度設定してください。

アプリケーションをインストールする

今まで使っていたパソコンで使用していたアプリケーションを引き続き使用する場合は、インストールします。
『アプリケーションに付属の説明書』やメーカのホームページで、そのアプリケーションが対応しているシステムを確認してください。
Windows XP に対応していない場合は、本製品では使用できません。また、本製品に最新版のアプリケーションが入っている場合は、本製品のアプリケーションを使用することをおすすめします。

①今まで使っていたパソコンからアプリケーションをアンインストールする
②本製品にインストールする
　アンインストール／インストール手順は、『アプリケーションに付属の取扱説明書』を確認してください。

データの移行をする

データの移行とは、パソコンに保存されているデータを CD ／ DVD などのメディアやネットワークを介して別のパソコンに移すことをさします。データのコピーともいいます。

今まで使っていたパソコンで作成したデータやフォルダを本製品にコピーします。データを作成したアプリケーションが本製品にインストールされていることを確認してください。

- 本製品には、「Internet Explorer」や「Outlook Express」の設定、作成したデータなどをまとめて移行できる「PC 引越ナビ」が用意されています。

前のパソコンのデータを移行する

－ PC 引越ナビ －

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC 引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間が簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

【 前のパソコンの動作環境を確認する 】
「PC 引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- システム＊1
  Windows 98 SE ／ Windows Me ／ Windows 2000 ／ Windows XP Home Edition ／ Windows XP Professional

＊ 1 マイクロソフト社が提供している最新の Service Pack を適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000 ..... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版

参照 「Internet Explorer」のバージョン確認とバージョンアップ方法について
「付録 5 Internet Explorer のバージョンについて」

お願い

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

【 使用できるメディアや環境を確認する 】
設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- メディアを使用する
- ネットワーク（LAN）を使用する
- クロスケーブル（LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

「PC 引越ナビ」で使用できるメディアは次のとおりです。＊1 ＊2

- CD-R
- CD-RW
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
- USB フラッシュメモリ

＊ 1 本製品で CD ／ DVD を使用するには、別売りの CD ／ DVD ドライブを接続してください。CD ／ DVD ドライブにより、使用できる CD ／ DVD は異なります。
＊ 2 USB フラッシュメモリは別売りです。

前のパソコンでどのメディアが使用できるかを確認し、移行に使用するメディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なメディアは、あらかじめフォーマットしておいてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のメディアを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC 引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

- Internet Explorer の設定
  ・［お気に入り］フォルダの設定
  ・ホームページ（スタートページ）の設定
  ・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定

- Outlook Express の設定
  初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
  ・アドレス帳の内容
  ・メールデータ
  ・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）
- Microsoft Outlook の設定
  ＊「Microsoft Outlook」は Office 搭載モデルにのみ同梱およびインストールされています。
  Office が搭載されていないモデルの場合、以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC 引越ナビ」をご使用の前に市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
  ・個人用フォルダに含まれるデータ
  ・電子メールアカウント設定（ExchangeServer、POP3、IMAP、HTTP）
  ・その他の設定（個人アドレス帳、仕訳ルール、署名）
- ［マイドキュメント］フォルダに保存されているファイル
  「PC 引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［マイドキュメント］を移行できます。
- デスクトップ上のファイル
  「PC 引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。
- 任意のフォルダに含まれるファイル
  移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC 引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC 引越ナビ　機能説明］画面で［詳細説明］ボタンをクリックすると表示されます。

お願い　操作にあたって

注意制限事項については、「PC 引越ナビ ご使用にあたっての注意制限事項」を参照してください。
次の手順で、表示することができます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
②［セットアップ画面へ］をクリックする
③［東芝ユーティリティ］タブをクリックする
④画面左側の［PC 引越ナビ］をクリックし、画面右側の［「PC 引越ナビ」をご使用の前にお読みください（注意制限事項）。］をクリックする

- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大 2GB となります。
- 「PC 引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大 65,000 ファイルです。
- 「こん包プログラム」からこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約 2.3 倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

1 インストールする

「PC 引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

3 **［東芝ユーティリティ］タブをクリックする**

4 **画面左側の［PC 引越ナビ］をクリックし、画面右側の［「PC 引越ナビ」のセットアップ］をクリックする**

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。
［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［PC 引越ナビ］をクリックする**

［PC 引越ナビ使用許諾］画面が表示されます。内容を確認してください。

2 **［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

使用許諾契約に同意しないと、「PC 引越ナビ」を使用することはできません。
「PC 引越ナビ」が起動し、説明画面が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

移行方式を決める　＊本製品で操作します。
いくつかある移行方式のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方式を選択します。

▼

「こん包プログラム」をコピーする　＊本製品で操作します。
「こん包プログラム」は複数のファイルを一つにまとめるプログラムです。移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。

▼

「こん包プログラム」を実行する　＊前のパソコンで操作します。
コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

▼

「こん包ファイル」をコピーする　＊前のパソコンで操作します。
作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。
すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

▼

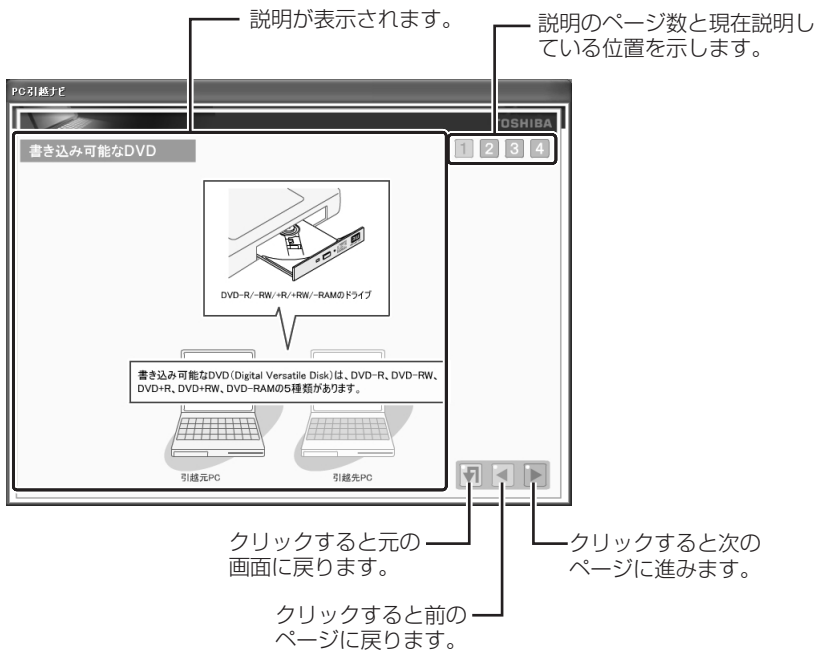
「こん包ファイル」を開こんする　＊本製品で操作します。
コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

説明画面について

【 操作に困ったとき 】

［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

【 説明画面の操作方法 】

画面の構造は、次のとおりです。

3章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

各部の名称

－ 外観図 －

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

メモ

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

① 前面図

システムインジケータ
次頁の説明を参照してください。

タッチパッド（➲ P.48）
パッドの上を指でなぞって、パソコンを操作します。

左ボタン（➲ P.48）
項目を選択します。

右ボタン（➲ P.48）
メニューを表示します。

指紋センサ（➲ P.109）

スピーカ

次頁の「拡大図A」を確認してください。

PCカードスロット（➲ P.82）
PC カードをセットします。

SDカードスロット（➲ P.57）
SDメモリカードをセットします。

ディスプレイ（➲ P.54）

キーボード（➲ P.42）

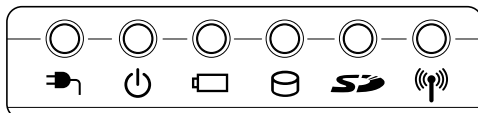
DC IN XXV 電源コネクタ

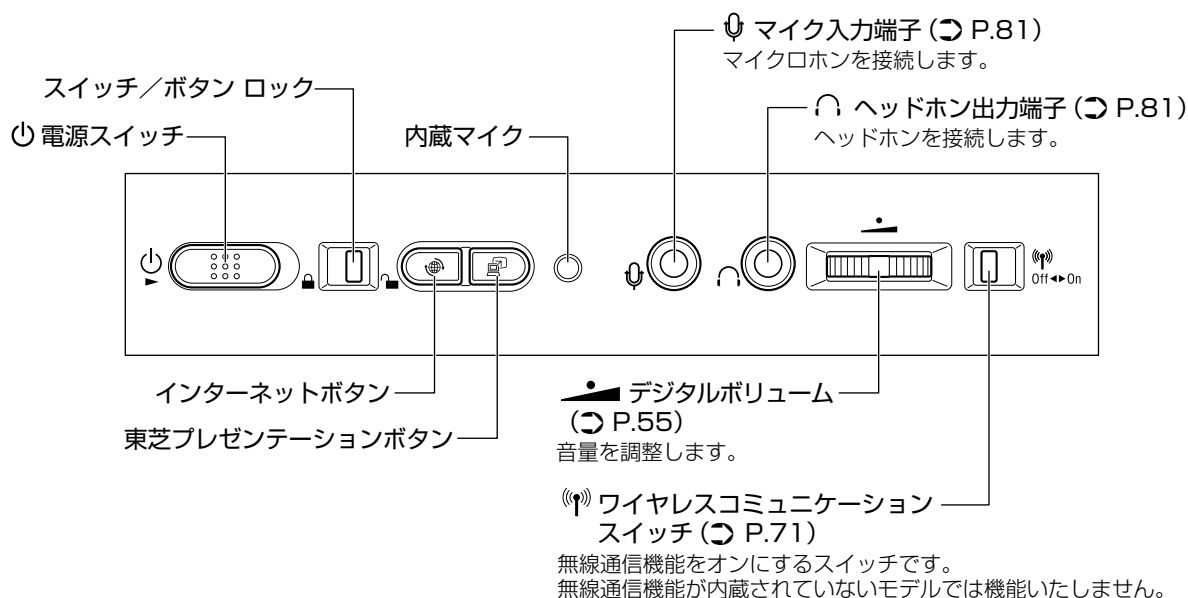
USBコネクタ（➲ P.77）
USB対応機器を接続します。

LANコネクタ（➲ P.64）
ADSLモデムなどを使うときに、LANケーブルを接続します。

RGBコネクタ（➲ P.78）
外部ディスプレイと接続して、パソコンの映像を外部ディスプレイに表示します。

1 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

	DC IN LED	電源コード接続の状態	参照 P.24
	Power LED	電源の状態	参照 P.24
	Battery LED	バッテリの状態	参照 P.86
	Disk LED	ハードディスクドライブの状態	参照 P.51
	SD Card LED	SD カードスロットにアクセスしている	参照 P.58
	ワイヤレスコミュニケーション LED	無線通信機能の状態	参照 P.71

2 拡大図A

パソコンを持ち運ぶときや、かばんなどに収納する際には、誤って電源が入らないように、スイッチ／ボタン ロックをロック側（ 🔒 ）にスライドしてください。電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンの動作を無効にできます。
また、本体液晶ディスプレイを閉じている状態での、電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンの動作は、「東芝 HW セットアップ」の［ボタン設定］タブで有効／無効に設定できます。

参照 「東芝 HW セットアップ」について「7 章 2 東芝 HW セットアップを使う」

ボタンの操作方法

1 スイッチ／ボタン ロックを解除し、操作するボタンを指で押す

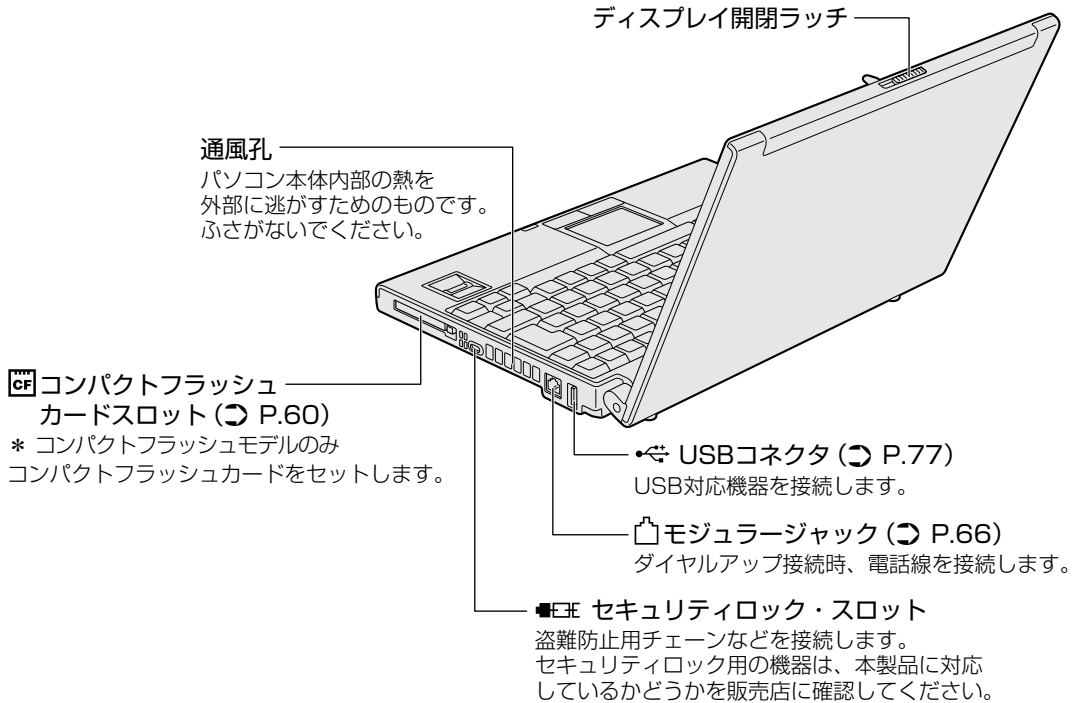
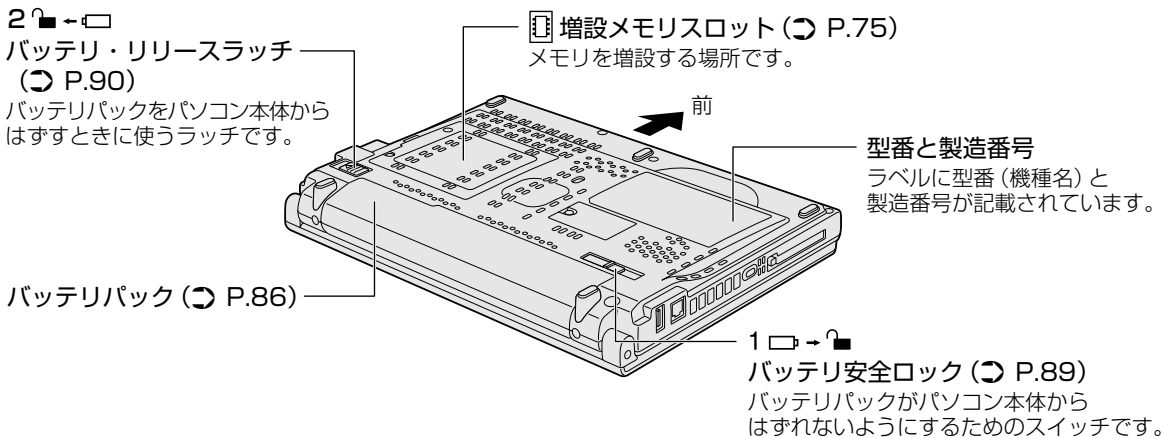
押したボタンに割り当てられている機能を実行します。

ボタンに割り当てられている機能は「東芝コントロール」で変更できます。「東芝コントロール」は、コントロールパネルで［プリンタとその他のハードウェア］→［東芝コントロール］をクリックして起動できます。

ボタンの機能

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

インターネットボタン	「Internet Explorer」を起動します。
東芝プレゼンテーションボタン	パソコンの画面を外部ディスプレイに映します。 参照 P.80

② 背面図

③ 裏面図

通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

電源コードと AC アダプタについて

⚠警 告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用すること
  本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず「1 章 1 Windows を使えるようにする」に記載してある順番を守って接続すること
  順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠注 意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
  電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【 電源コードの仕様 】
本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
使用できる電圧（AC）は、100V です。必ず AC100V のコンセントで使用してください。

＊ 取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

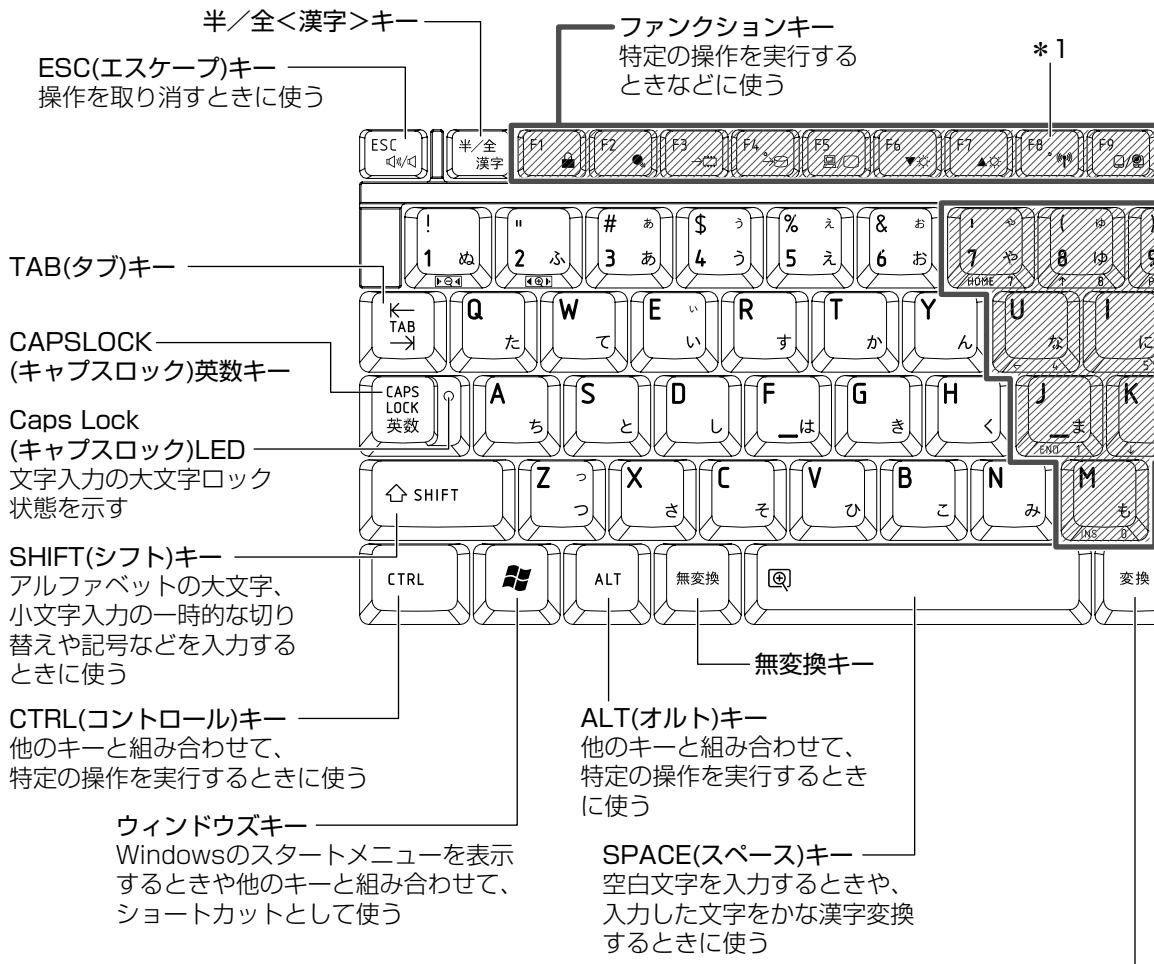
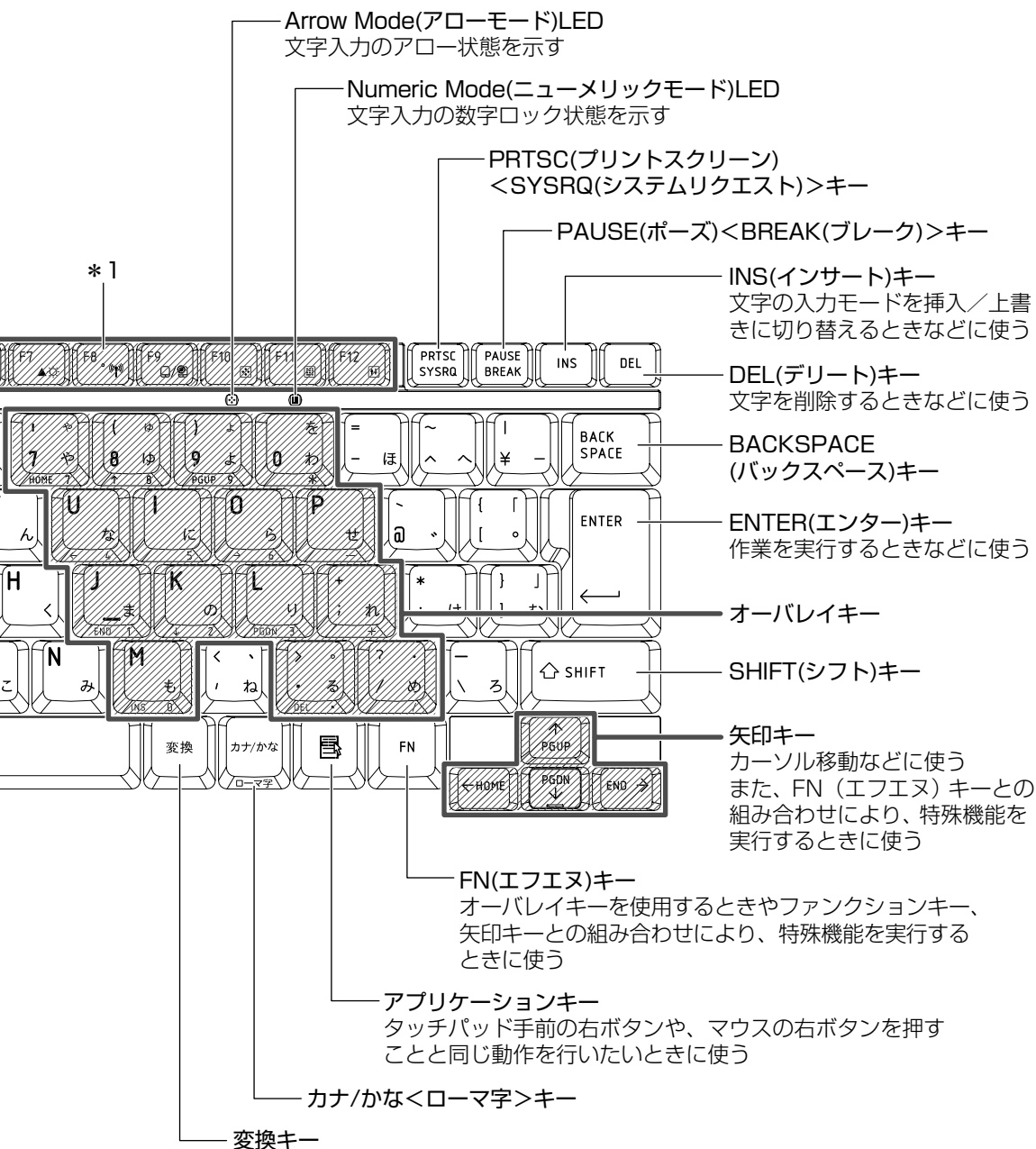
【 AC アダプタの仕様＊[1] 】
入力　　　：AC100-240V、1.5A、50-60Hz

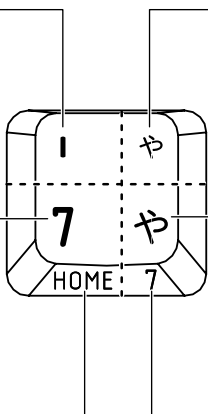
＊1 詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S30 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

① キーボード図

＊ モデルによっては、キーボードのマーク（アイコン）や文字のサイズが異なるものがあります。

＊1 (FN)+(F8)の機能は、無線通信機能モデルのみサポートしています。

【 文字キー 】
文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている２～６種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

参照 アロー状態、数字ロック状態 「本節 ② -FNキーを使った特殊機能キー」

② キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【 FNキーを使った特殊機能キー 】

キー	内容
FN＋ESC 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。 元に戻すときは、もう 1 度FN＋ESCキーを押します。
FN＋SPACE 〈本体液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN＋F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、SHIFTキーやCTRLキーを押す、またはタッチパッドを操作してください。 ユーザ名選択画面、または［コンピュータのロックの解除］画面が表示されます。 以降の手順は、表示された画面によって異なります。 ● ユーザ名選択画面が表示された場合 ① ユーザ名をクリックする Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、インスタントセキュリティ機能が解除されます。 Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。 ② パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押す ● ［コンピュータのロックの解除］画面が表示された場合 ① ユーザ名を入力する ② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、何も入力しないでください。 ③［OK］ボタンをクリックする インスタントセキュリティ機能は、Windows のログオンパスワードを設定しているとセキュリティを強化できます。

キー	内容
FN+F2 〈省電力モードの設定〉	FN+F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力」の省電力プロファイルが表示されます。 FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力プロファイルが切り替わります。
FN+F3 〈スタンバイ機能の実行〉	FN+F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。＊1
FN+F4 〈休止状態の実行〉	FN+F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます。＊1
FN+F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「5章4 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」
FN+F6 〈本体液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
FN+F7 〈本体液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
FN+F8＊2 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、FNキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。
FN+F9 〈タッチパッド オン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度FN+F9キーを押します。 参照「本章3-② タッチパッドをもっと使いやすくしよう」
FN+F10 〈オーバレイ機能〉	キー前面左に印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度FN+F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
FN+F11 〈オーバレイ機能〉	キー前面右に印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度FN+F11キーを押します。 アプリケーションによっては異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。
FN+F12 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度FN+F12キーを押します。
FN+↑ 〈PGUP（ページアップ）〉	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN+↓ 〈PGDN（ページダウン）〉	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN+← 〈HOME（ホーム）〉	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN+→ 〈END（エンド）〉	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN+1＊3 〈縮小〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN+2＊3 〈拡大〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

＊1 表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。
＊2 無線通信機能モデルのみ
＊3「TOSHIBA Smooth View」をインストールしている場合のみ、使用できます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。
初めて使用するときには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。［東芝ユーティリティ］タブに用意されています。
インストール後、起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックしてください。以降は自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

「Fn-esse」

「Fn-esse」は、FNキーと特定のキーを押すと、簡単にアプリケーションを起動できるアプリケーションです。あらかじめ特定のキーと起動するアプリケーションの設定が必要です。
起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Fn-esse］をクリックしてください。
「Fn-esse」でFN＋1キーまたはFN＋2キーに何かの動作を登録していても、「TOSHIBA Smooth View」をインストールすると使用できなくなります。

【 (Windows)キーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
(Windows)＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
(Windows)＋M	すべての画面を最小化する
SHIFT＋(Windows)＋M	(Windows)＋Mで最小化したすべての画面を元に戻す
(Windows)＋F1	『ヘルプとサポート センター』を起動する
(Windows)＋E	［マイコンピュータ］画面を表示する
(Windows)＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
CTRL＋(Windows)＋F	他のコンピュータを検索する
(Windows)＋TAB	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows)＋BREAK	［システムのプロパティ］画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	CTRL＋ALT＋DEL	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。＊1 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

＊1 ドメインに参加しているとき、ユーザアカウントで「ようこそ画面を使用する」のチェックをはずした場合には、［Windows のセキュリティ］画面が表示されますので、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。

③ キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。
各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LEDが点灯します。

【 キーシフトインジケータ 】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(SHIFT)+(CAPS LOCK 英数)	**大文字ロック状態** 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(FN)+(F10)	**アロー状態** オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(FN)+(F11)	**数字ロック状態** オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押して LED を消灯します。
すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合は、アロー状態と数字ロック状態は解除してください。

④ 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム Microsoft IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。(半／全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、Microsoft IME ツールバーは次のように表示されます。

Office 搭載モデルでは、Microsoft Office OneNote などを起動すると、日本語入力が Microsoft IME からナチュラル インプットに切り替わります。ナチュラル インプットは日本語入力時の文字変換を快適にする入力システムです。
詳しくは「Microsoft ナチュラル インプット」のヘルプをご覧ください。

入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力は(ALT)+(カナ／かな)キーを押すと切り替えられます。
または、次の方法で設定することもできます。

①ツールバーの［ツール］アイコン（ ）をクリックして表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
②［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、(SPACE)キーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度(SPACE)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。
(↑)(↓)キーで選択し、(ENTER)キーを押します。

ヘルプの起動方法

1 **［ヘルプ］ボタン（ ）をクリック→［Microsoft(R)IME スタンダード］→［目次とキーワード］をクリックする**

ポインタを動かす／ファイルを開く

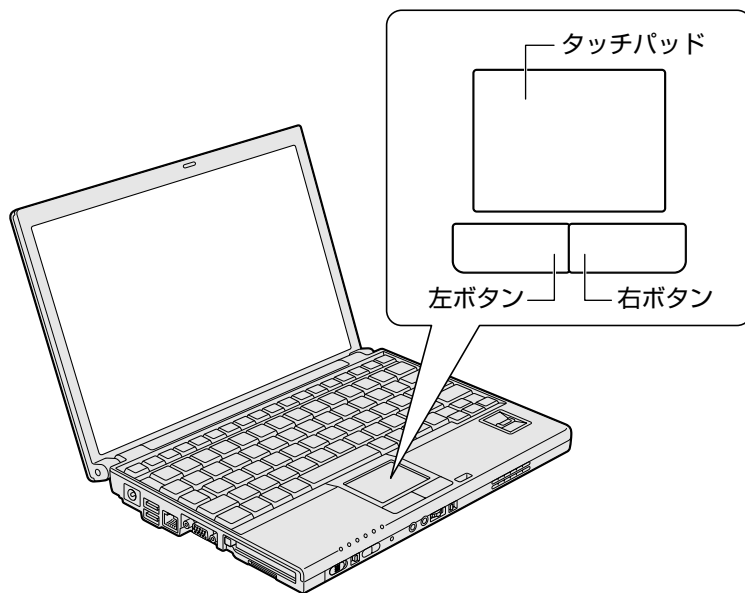
– タッチパッド –

① タッチパッドで操作する

電源を入れて Windows を起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。
ここでは、タッチパッドの基本的な使いかたや左ボタン／右ボタンの設定を変更する方法などについて説明します。

お願い 操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

② タッチパッドをもっと使いやすくしよう

タッチパッドやポインタの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 この画面で設定する

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

3 ［ マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

4 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

各機能の設定については、ヘルプを参照してください。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

［タッチパッドON/OFF］タブで［無効］をクリックすると、タッチパッドからの操作ができなくなります。［有効］をクリックすると、タッチパッドが使用可能になります。

（表示例）

タッチパッドの無効／有効は、FN＋F9キーでも切り替えることができます。

FN＋F9キーについて
「本章 2-②-FNキーを使った特殊機能キー」

USBマウスを接続したときにタッチパッドを無効にするには

別売りのUSBマウスの着脱に連動して、タッチパッドを自動的に無効／有効に切り替えることができます。
次の手順で、機能を有効にできます。

①［マウスのプロパティ］画面を表示する
②［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする
　［拡張機能の設定］画面が表示されます。
③［その他］タブで、［USBマウス接続時の動作］の［タッチパッドを無効にする］をチェックする
④［OK］ボタンをクリックする

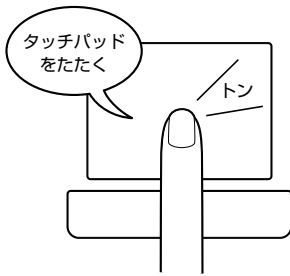
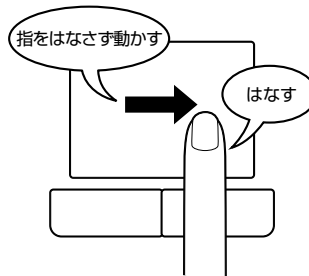
［タッチパッドON/OFF］タブ、FN＋F9キーによる、タッチパッド無効／有効切り替え機能とは連動していません。

＊東芝製ではないUSBマウスを接続した場合は、本機能が動作しない場合があります。

③ タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

【 クリック / ダブルクリック 】
タッチパッドを 1 回軽くたたくとクリック、
2 回たたくとダブルクリックができます。

【 ドラッグアンドドロップ 】
タッチパッドを続けて 2 回たたき、
2 回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、
指をはなします。

役立つ操作集

PadTouch 機能を使う

本製品には、「PadTouch（パッドタッチ）」が搭載されています。「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、画面に表示された「テーブル」を使ってさまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。次のようなときに使用すると便利です。

・ウィンドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
・Internet Explorer の［お気に入り］に登録されているホームページを開きたい
・現在実行中のウィンドウの一覧を表示して、アクティブなウィンドウを切り替えたい

「PadTouch」を初めて使用するときには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。［東芝ユーティリティ］タブに用意されています。

「PadTouch」は、パソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

詳しい操作方法については「PadTouch」のヘルプを参照してください。
ヘルプを起動するには、通知領域の［PadTouch］アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックします。

ヘルプの起動方法

1 ［マウスのプロパティ］画面を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

4 ハードディスクドライブ

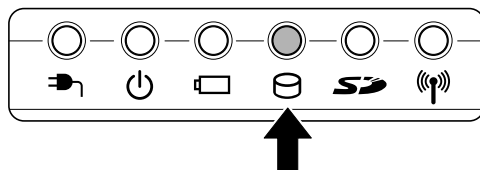
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）や、USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

① ハードディスクドライブについて

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD ／ DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD ／ DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

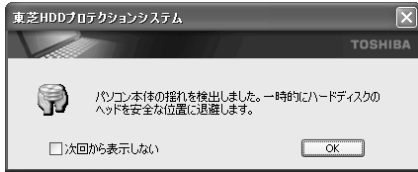
ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。

PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

② 東芝 HDD プロテクションについて

＊ Windows XP モデルのみ

「東芝 HDD プロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況にあわせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると､次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDD のヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝 HDD プロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

お願い　使用にあたって

- 東芝 HDD プロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出すると HDD のヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によって HDD が損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などにより HDD の記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任を一切負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

メモ

- 購入時の状態では、東芝 HDD プロテクションが ON に設定されています。
- パソコン起動時、スタンバイ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝 HDD プロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。

設定方法

東芝 HDD プロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDD プロテクションの設定］をクリックする

［東芝 HDD プロテクション］画面が表示されます。

2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。
東芝 HDD プロテクションを「ON」に設定すると、電源（AC アダプタ）接続時とバッテリ使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDD プロテクション	東芝 HDD プロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリで使用中	「OFF」、「レベル 1」、「レベル 2」、「レベル 3」のいずれかを選択できます。 「レベル 3」が最も検出レベルが高いため、東芝 HDD プロテクションを有効に使用するには、「レベル 3」をおすすめします。 なお使用に応じてレベルを低く設定できます。*1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁に HDD プロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度優先する場合は、設定を下げてご使用することもできます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。

さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 6 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

AC アダプタを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約 10 秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDD プロテクション動作時メッセージを表示する	東芝 HDD プロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

6 ［東芝 HDD プロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

● 東芝 HDD プロテクションの各設定は、通知領域の［東芝 HDD プロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

3章 パソコンの基本操作を覚えよう

画面を見やすく調整する

－ ディスプレイ －

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1280×800ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について 「5章 4 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」

表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

① 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。
購入時の設定では、「東芝省電力」で、ACアダプタ接続時は「8」（最高輝度）に、バッテリ駆動時はバッテリの残容量に応じて「4」から「2」に変化するように設定されています。
明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。
なお、本製品では、ACアダプタ接続時とバッテリ駆動時では、同じ設定値でも明るさ（輝度）が異なります。最大の明るさでご使用になるには、ACアダプタを接続してください。

【 輝度の調整方法 】

FN+F6 ： FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

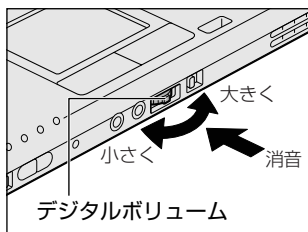
FN+F7 ： FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

6 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

① スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、デジタルボリューム、またはWindowsのボリュームコントロールで調整できます。

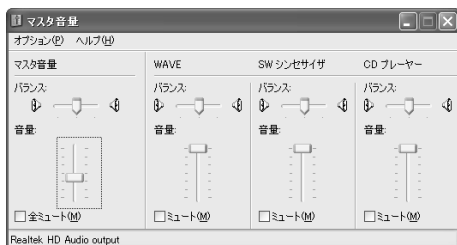
1 デジタルボリュームで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。
デジタルボリュームを押すと、消音（Mute）になります。もう1度デジタルボリュームを押すと、消音は解除されます。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする**

2 **それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する**

（表示例）

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音（ミュート）となります。

詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

【 音楽／音声を再生するとき 】
ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3ファイル、Waveファイル、音楽CD（Windows Media Playerの場合）＊1、DVD-Video＊1など
CDプレーヤー	音楽CD（Windows Media Player以外の場合）＊1

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

＊1 CD／DVDドライブは別売りです。

② 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 メニューバーの［オプション］→［プロパティ］をクリックする

3 ［ミキサー デバイス］で［Realtek HD Audio Input］を選択する

4 ［表示するコントロール］で表示項目を確認する

［マイク ボリューム］または［ステレオ ミキサー］がチェックされていることを確認します。

5 ［OK］ボタンをクリックする

6 ［録音コントロール］画面で、使用するデバイスの［選択］をチェックする

［マイク ボリューム］：マイクから録音するとき
［ステレオ ミキサー］：パソコン上で再生されている音声を録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの［WAVE］対応の場合、録音するときも［WAVE］の音量により影響を受けます。

SD メモリカードを使う

― SD カードスロット ―

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

① SD メモリカードを使う前に

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、2GB までの SD メモリカードを使用できます。
- SD カードスロットに miniSD メモリカードをセットするときは、必ず miniSD アダプタを装着した状態で行ってください。
  miniSD メモリカードに miniSD アダプタが同梱されている場合は、同梱の miniSD アダプタをご使用ください。
- SD カードスロットから miniSD メモリカードを取りはずすときは、必ず miniSD アダプタに装着したままの状態で行ってください。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
「東芝 SD メモリカードフォーマット」については、「本項 - 東芝 SD メモリカードフォーマットを使ってフォーマットする」をご覧ください。

お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）で SD メモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用した SD メモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝 SD メモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

「東芝 SD メモリカードフォーマット」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントのみ使用できます。

お願い

- 「東芝 SD メモリカードフォーマット」以外の、SD メモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモリカードをセットする

参照 SDメモリカードのセット「本節 ② SDメモリカードのセットと取り出し」

2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [SDメモリカードフォーマット] をクリックする

3 [ドライブ] で、SDメモリカードのドライブを選択し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する

- 簡易フォーマット
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
  SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 [スタート] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

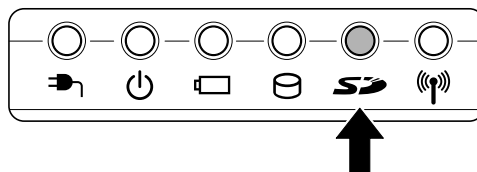
フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
「東芝SDメモリカードフォーマット」を終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。

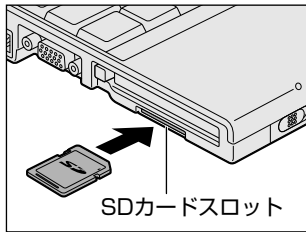
② SDメモリカードのセットと取り出し

SDカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SDカードスロットに挿入したSDメモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

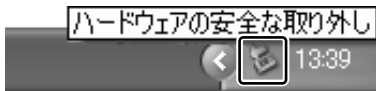
- SD Card LEDが点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、SDメモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- SDメモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、SDメモリカードが壊れるおそれがあります。

1 セットする

1 SD メモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SD カードスロットに挿入する

SD メモリカードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードが壊れたりするおそれがあります。

2 取り出す

1 SD メモリカードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす SD メモリカード）- ドライブを安全に取り外します］をクリックする
XXXX 部分は、SD メモリカードの種類によって異なります。
SD メモリカード：SD Memory Card

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

SD メモリカードに保存しているファイルなどを開いていると、取りはずしができません。ファイルを閉じてから、操作をやり直してください。

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 セットした SD メモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

［マイコンピュータ］画面が表示されます。

2 SD メモリカードのアイコンをダブルクリックする

SD メモリカード：SD 記憶装置デバイス

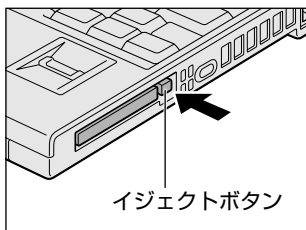
セットした SD メモリカードの内容が表示されます。

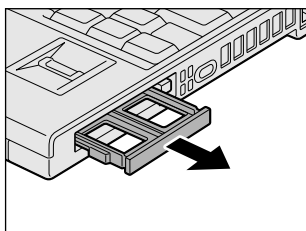
8 コンパクトフラッシュカードを使う

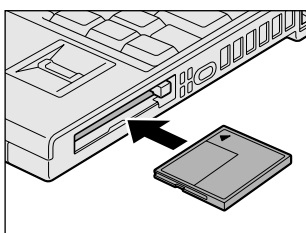
ー コンパクトフラッシュカードスロット ー　＊コンパクトフラッシュモデルのみ

コンパクトフラッシュカードスロットに、CFA（Compact Flash Association）準拠のTYPE Ⅰ／Ⅱ対応コンパクトフラッシュカードを取り付けて使用できます。
詳しい使いかたなどについては『コンパクトフラッシュカードに付属の説明書』をご覧ください。

1 セットする

1 コンパクトフラッシュカードスロットのイジェクトボタンを2回押す

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度カチッと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

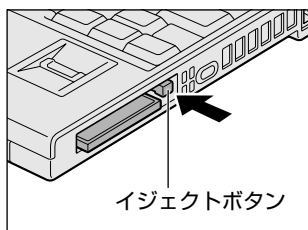
2 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように保管してください。

3 コンパクトフラッシュカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、コンパクトフラッシュカードを使用できない、またはコンパクトフラッシュカードが壊れることがあります。

2 取り出す

1 コンパクトフラッシュカードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすコンパクトフラッシュカード）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 コンパクトフラッシュカードスロットのイジェクトボタンを２回押す

１回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう１度カチッと音がするまで押してください。コンパクトフラッシュカードが少し出てきます。

3 コンパクトフラッシュカードをしっかりとつかみ、抜く

4 ダミーカードを挿入する

お願い

- コンパクトフラッシュカードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。
  ホコリやゴミなどがコンパクトフラッシュカードスロットに入り、故障するおそれがあります。

4章

ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

インターネットへ接続する

インターネットにパソコンをつなぐと、ホームページを閲覧したり、オンラインショッピングやメールのやりとりができるようになります。
インターネットへの接続は、ADSLや光ファイバーなどを使った高速の「ブロードバンド接続」と一般の電話回線を使った低速の「ダイヤルアップ接続」などがあります。
接続に必要なネットワーク機器や設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ウイルスバスター」が用意されています。必ずウイルスチェックソフトの設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

① ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN（ラン）機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムなどをLANケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。

また、本製品のLAN機能は、Gigabit（ギガビット） Ethernet（イーサネット）（1000BASE-T）*1、Fast（ファスト） Ethernet（イーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。リンク速度（10／100／1000*1Mbps）は、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

＊1　1000BASE-T対応モデルのみ

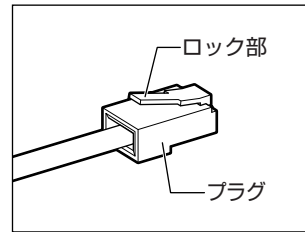
1 LANケーブルを接続する

お願い　LANケーブルの使用にあたって

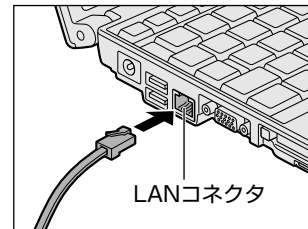
- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格*1は、エンハンストカテゴリ5（CAT5E）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
100BASE-TX規格は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
10BASE-T規格は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。

＊1　1000BASE-T対応モデルのみ

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 **パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る**

2 **LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む**

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、LANケーブルのほうが大きいです。ケーブルを接続するときは、LANコネクタとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

3 **LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む**

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

2 ADSL接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダに ADSL 接続するための一般的な方法について説明します。接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
プロバイダから、接続に必要な CD-ROM などが支給されている場合は、そちらをご利用ください。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

1 **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする**

2 **［ ネットワーク接続］をクリックする**

3 **画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする**

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

4 **［次へ］ボタンをクリックする**

［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

5 **［インターネットに接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

［準備］画面が表示されます。

6 **［接続を手動でセットアップする］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

［インターネット接続］画面が表示されます。

7 **ご契約のタイプにあわせて項目を選択し、［次へ］ボタンをクリックする**

- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が必要な場合：（例:フレッツ ADSL など）
［ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する］をチェックしてください。
- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が不要の場合：（例:Yahoo! BB など）
［常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する］をチェックしてください。こちらを選択した場合、以降は表示される画面の指示に従ってください。

［接続名］画面が表示されます。

8 **［ISP名］に任意の名前を入力し、［次へ］ボタンをクリックする**

［インターネットアカウント情報］画面が表示されます。

9 **［ユーザー名］にプロバイダのアカウント名、［パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力し、［次へ］ボタンをクリックする**

アカウント名、パスワードなどについては契約しているプロバイダに問い合わせてください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

［新しい接続ウィザードの完了］画面が表示されます。

10 **［完了］ボタンをクリックする**

［XXXXX へ接続］画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は［接続］ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

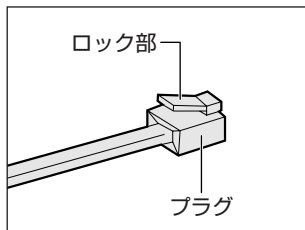
② ダイヤルアップで接続する

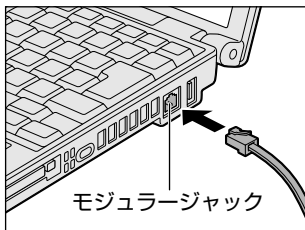
本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 モジュラーケーブルを接続する

モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、モジュラージャックとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

2 もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。
設定に必要なアカウント名、パスワード、アクセスポイントの電話番号などについては契約しているプロバイダに問い合わせください。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ］

2 ［ ネットワーク接続］をクリックする

3 画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

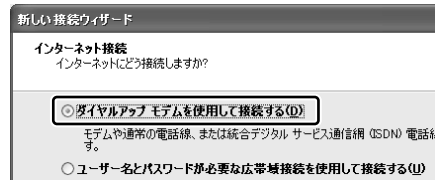
［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

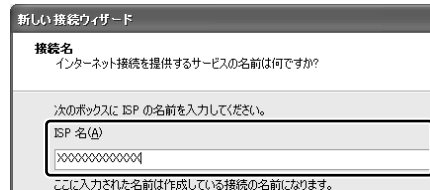
5 ［インターネットに接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［準備］画面が表示されます。

6 ［接続を手動でセットアップする］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［インターネット接続］画面が表示されます。

7 ［ダイヤルアップモデムを使用して接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［接続名］画面が表示されます。

8 ［ISP名］に任意の名前を入力し、［次へ］ボタンをクリックする

［ダイヤルする電話番号］画面が表示されます。

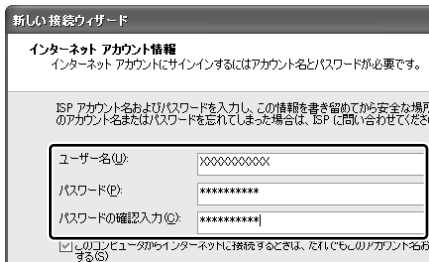
9 **［電話番号］にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、［次へ］ボタンをクリックする**

電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。

［インターネットアカウント情報］画面が表示されます。

10 **［ユーザー名］にプロバイダのアカウント名、［パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力し、［次へ］ボタンをクリックする**

アカウント名、パスワードなどについては、契約しているプロバイダに問い合わせください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

新しい接続ウィザード
インターネット アカウント情報
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。
ユーザー名(U): XXXXXXXXXX
パスワード(P): **********
パスワードの確認入力(C): **********

［新しい接続ウィザードの完了］画面が表示されます。

11 **［完了］ボタンをクリックする**

［XXXXX へ接続］画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は［ダイヤル］ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

3 海外でインターネットに接続するときには

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 3 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

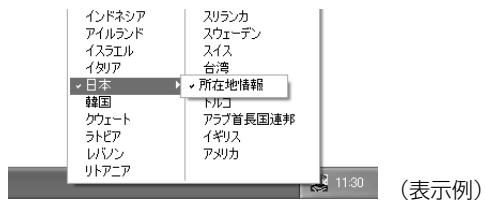
地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

設定方法

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする**

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

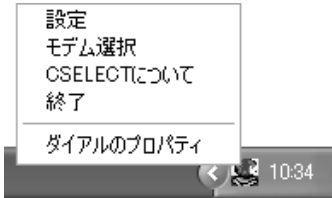
2 **通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする**

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

3 **使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする**

［地域名を選択した場合］
　［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。
　新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］
　その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
　選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

1 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【 設定 】
チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合にメッセージ画面を表示します。

【 モデム選択 】
COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【 ダイアルのプロパティ 】
［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線 LAN デバイスを検出したり、LAN ケーブルをはずすと自動的に無線 LAN に切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

- ファーストユーザーズガイドの起動方法
  ①［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする
- 「ConfigFree」の起動方法
  購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ①［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

＊ SX シリーズの場合は、《オンラインマニュアル（検索）：ConfigFree》も参照してください。

家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ別のパソコンでインターネットやプリンタを使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

① LAN接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っていて、家庭内に複数のパソコンがあったり、ひとりで複数のパソコンを持っている場合には、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
パソコン同士をつないでLANを構築すれば、SDメモリカードなどのメディアを介さずにパソコン同士で直接データのやりとりができたり、インターネットやプリンタ、スキャナーなどの周辺機器を複数のパソコンで共有して、同時に使うことができます。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。
有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本章1-① ブロードバンドで接続する」を参照してください。
ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

② ワイヤレス（無線）LANを使う

＊ 無線LANモデルのみ

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに合った説明をご覧ください。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree」を使って確認できます。

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

2 表示されたメニューから［デバイス］→［設定を開く］をクリックする

3 ［デバイス設定］タブの［デバイスリスト］で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を選択し、［詳細］でアダプタ名を確認する

アダプタ名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- 「Atheros AR5006EX Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11a（J52/W52/W53）、IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Atheros a/b/gモジュール」または「IEEE802.11abgモジュール」と呼びます。
- 「Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection」の場合
  IEEE802.11a（J52/W52/W53）、IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Intel a/b/gモジュール」または「IEEE802.11abgモジュール」と呼びます。
- 「Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Atheros b/gモジュール」または「Atheros IEEE802.11bgモジュール」と呼びます。

2 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a（J52／W52／W53）、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11a/11gの場合）＊1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）＊1
- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- 暗号化機能（WEP、TKIP、AES）

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【 無線 LAN の種類 】
無線 LAN は、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11a は、屋外では使用できません。
- IEEE802.11a、IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11b では「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

お願い　無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
　　メールの内容
　などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
・不正に侵入される
　悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
　　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
　　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
　　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
　　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
　などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い　セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
  不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名（SSID）の設定や、暗号化機能（WEP、WPA）を設定されることを強くおすすめします。
  また、お使いの無線 LAN アクセスポイントで、登録した MAC アドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。
  公共の無線 LAN アクセスポイントなどで使用される場合は、「Windows セキュリティセンター」の「Windows ファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

お願い　無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4 無線 LAN について」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を確認してください。

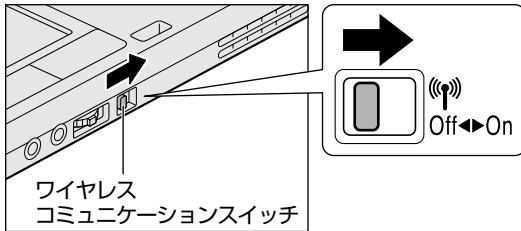
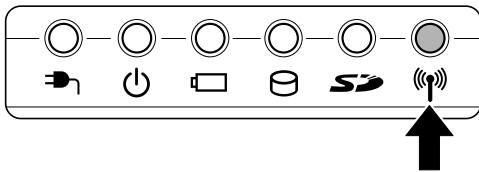
⚠ 警 告

- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること**
  ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い　操作にあたって

- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

ここでは、無線LANの一般的な設定方法について説明します（Windows XP Service Pack2が適用された環境の設定方法です）。

1 **本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする**

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

無線LAN機能が起動します。
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

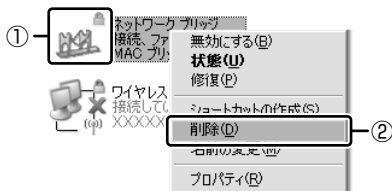
2 **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする**

3 **［ ネットワーク接続］をクリックする**

4 **［ネットワーク接続］画面に［ネットワークブリッジ］アイコンがあるか確認する**

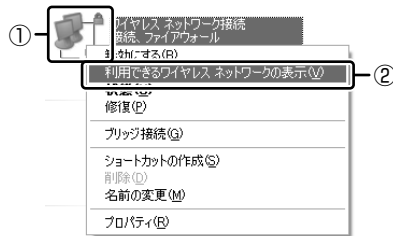
［ネットワークブリッジ］アイコンが表示されている場合は手順5へ、表示されていない場合は、手順7へ進んでください。

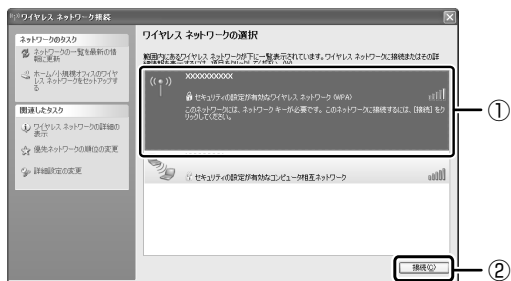
5 **［ネットワークブリッジ］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［削除］をクリックする②**

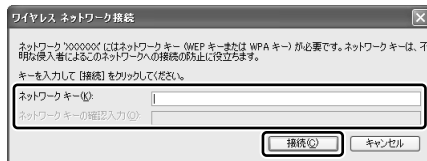
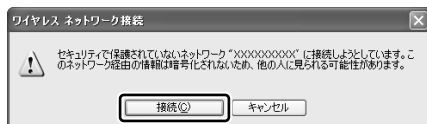
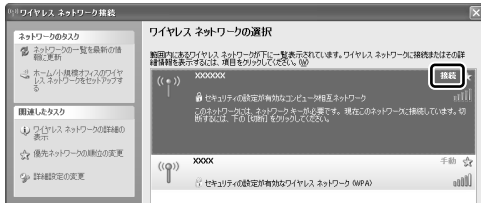
通常ネットワークブリッジは使用しませんが、設定を行なっている場合は削除しないでください。ここでの手順は一般的な無線LANの設定方法になります。

［接続の削除の確認］画面が表示されます。

6 **［はい］ボタンをクリックする**

削除には約30秒かかります。

7 **［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする②**

［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

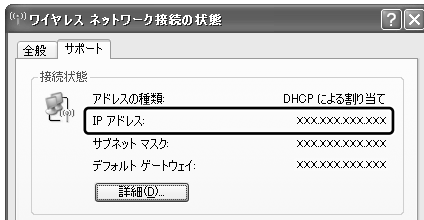
8 **［ワイヤレスネットワークの選択］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②**

［ワイヤレスネットワークの設定］に使いたいネットワークが表示されない場合は、［コントロールパネル］→［ネットワークとインターネット接続］→［ワイヤレスネットワーク セットアップウィザード］から設定を行ってください。

【 暗号化機能を設定している場合 】
「ネットワーク 'XXXXXX（接続するネットワーク名）' にはネットワークキー（WEPキーまたはWPAキー）が必要です・・・」のメッセージ画面が表示されます。［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。

【 暗号化機能を設定していない場合 】
「セキュリティで保護されていないネットワーク ' XXXXXX（接続するネットワーク名）' に接続しようとしています・・・」のメッセージ画面が表示されます。［接続］ボタンをクリックしてください。

正常に接続されるとネットワーク名の右側に「接続」または「接続済み」と表示されます。

9 ［ワイレスネットワーク接続］画面を閉じる

10 ［ネットワーク接続］画面で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをダブルクリックする

［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示されます。

11 ［サポート］タブで［IP アドレス］で取得している IP アドレスが正常な範囲のものか確認する

一般的に正常な範囲のアドレスは「192.168.XXX.XXX」の範囲です。

役立つ操作集

通信状態を確認する

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックし、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

5章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器には、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものと、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものがあります。

本製品に接続して使うことができる周辺機器には、おもに次のようなものがあります。

【 外付け方式のもの 】
- キーボード
- フロッピーディスクドライブ
- ディスプレイ
- スキャナ
- ハブ
- モデム
- テンキーパッド
- マウス
- プリンタ
- プロジェクタ
- オーディオ機器（音楽プレイヤ）
- フラッシュメモリ
- ハードディスク
- トラックボール

【 内蔵方式のもの 】
- メモリ
- バッテリ

周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、その周辺機器で何をしたいのか、目的をはっきりさせて、その目的にあった周辺機器をお選びください。そして、本製品に対応しているかどうかを、その周辺機器のメーカに確認したうえで、ご購入ください。

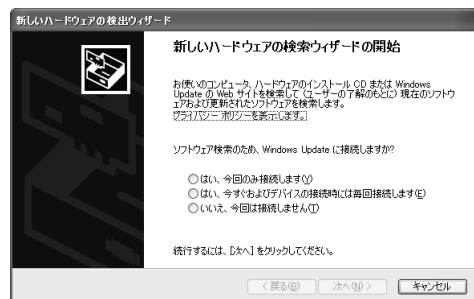
お願い 取り付け／取りはずしにあたって

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
  - ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

参照 コネクタの種類について
「付録 2 各インタフェースの仕様」

① ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールを行います。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合 】
Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。
［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】
［ハードウェアの追加ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。［ハードウェアの追加ウィザード］は、次のように起動します。

①［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
②［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする

パソコンの動作をスムーズにする

－ メモリの増設 －

ハードディスクの大きさがデータの保存容量を決めるのに対し、メモリ容量はハードディスクからデータを取り出し、作業するエリアの大きさに影響します。画像編集など、一度に大きなデータを扱う作業を行う場合は、メモリ容量が大きいほうがスムーズに作業を行うことができます。メモリを増設して、快適なパソコンにしましょう。
増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品にはPC2-4200対応、DDR2 SDRAM仕様の2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があります。
ご購入のモデルによって、あらかじめ取り付けられているメモリの容量が異なります。
メモリが取り付けられていないスロットに別売りの増設メモリを取り付けたり、取り付けられているメモリを別売りの増設メモリと付け換えることができます。
増設メモリは、容量によって次の4タイプがあります。

2GB　：PAME2004
1GB　：PAME1003
512MB：PAME5123
256MB：PAME2563

メモリを4GBに増設しているとき、モデルやシステム構成によってはメモリの一部をシステムが使用することがあります。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠注 意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと**
  火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い　操作にあたって

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、Power ⏻ LEDが次のように点滅します。

・仕様に合わない増設メモリが
　スロットAに取り付けられた場合：
　　オレンジ2回点滅→緑1回点滅→繰り返し
・仕様に合わない増設メモリが
　スロットBに取り付けられた場合：
　　オレンジ1回点滅→緑2回点滅→繰り返し
・仕様に合わない増設メモリが
　スロットAとスロットBに取り付けられた場合：
　　オレンジ2回点滅→緑2回点滅→繰り返し

お願い　静電気について

- 増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け／取りはずし

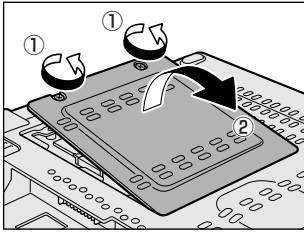
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照　電源の切りかた「1章2-① 電源を切る」

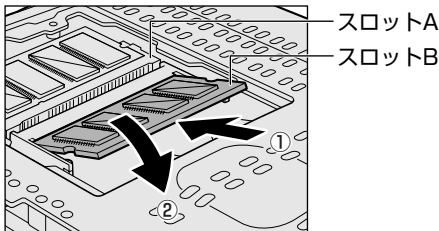
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

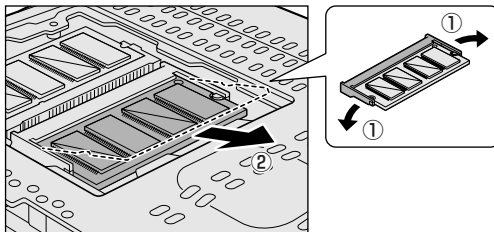
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

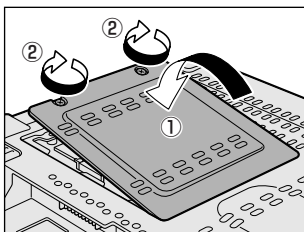
バッテリパックの取りはずし
「6章1-④ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ2本をゆるめ①、カバーをはずす②

本体内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを取り付け、または取りはずす

- 取り付け
  増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。
フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

- 取りはずし
  増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけ①、手順4でゆるめたネジ2本をしめる②

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け
「6章 1-④ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について
「本節 2 メモリ容量を確認する」

2 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「東芝PC診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】
①［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC診断ツール］をクリックする
②［基本情報］タブの［物理メモリ］の数値を確認する

USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USBフラッシュメモリ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い　操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

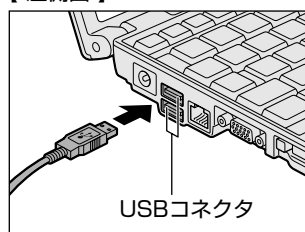
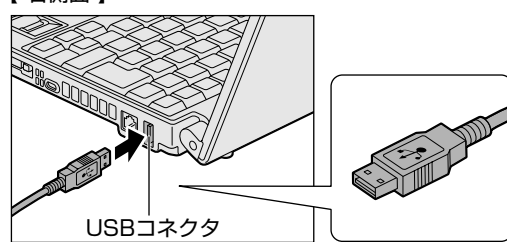
1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【 左側面 】

【 右側面 】

2 取りはずし

お願い　取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

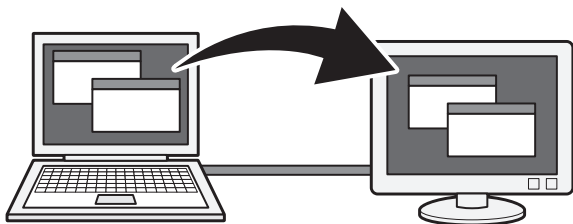
＊ 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順1の①～③は必要ありません。

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

5章 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンの画面を外部ディスプレイに映す

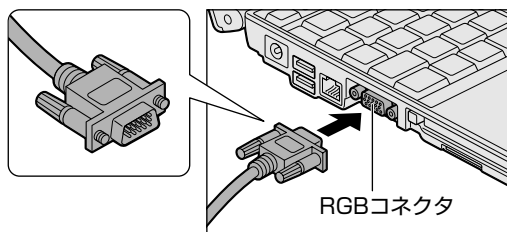
－ 外部ディスプレイの接続 －

RGBコネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

メモ

● 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

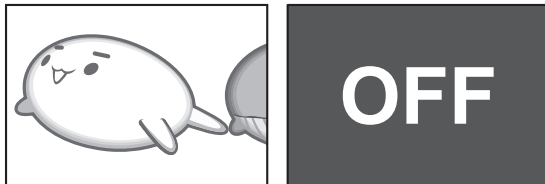
外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

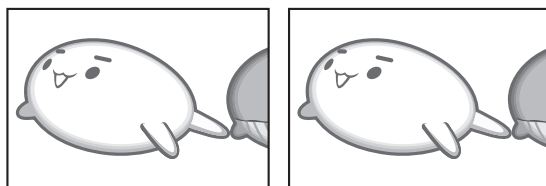
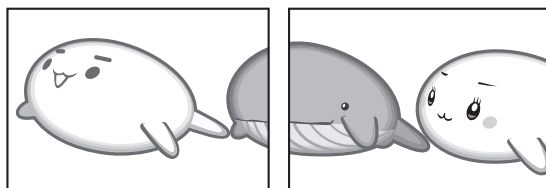
1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

【 本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示 】
いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

【 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示 】

● クローン表示
2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

● 拡張表示
2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、外部ディスプレイには表示されません。

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチをスライドしてください。
表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

メモ

● 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

方法 1 －［画面のプロパティ］で設定する

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

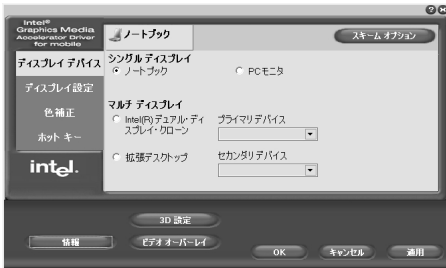
3 ［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

4 ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

5 ［Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile］タブで［グラフィックプロパティ］ボタンをクリックする

6 画面左側の［ディスプレイデバイス］をクリックし、表示する装置を選択する

（表示例）

チェック（ ）がついている項目が現在の表示装置です。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
  ［ノートブック］をクリックしてください。
- 外部ディスプレイだけに表示
  ［PC モニタ］をクリックしてください。
- クローン表示
  2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
  ①［Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン］をクリックする
  ② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでクローン表示	ノートブック	PC モニタ

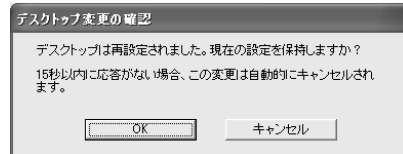
- 拡張表示
  2 つの表示装置を 1 つの大きなデスクトップ画面として使用できます。
  本体液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイの両方にクローン表示しているとき、［画面のプロパティ］から拡張表示を設定できない場合があります。そのときは、(CTRL)＋(ALT)＋(F12)キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。
  ①［拡張デスクトップ］をクリックする
  ② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ

メモ

- 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
  設定は、クローン表示または拡張表示に設定したあと、［ディスプレイ設定］をクリックし、表示される画面で行います。

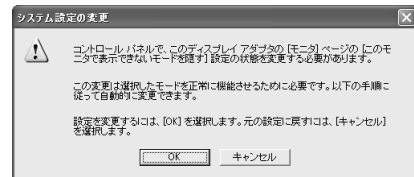
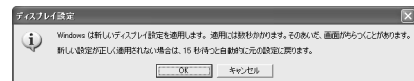
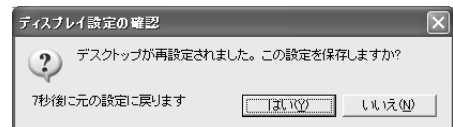
7 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

8 ［OK］ボタンをクリックする

9 ［OK］ボタンをクリックする

10 ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

- メッセージについて
  設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

・［システム設定の変更］画面

・［ディスプレイ設定］画面

・［ディスプレイ設定の確認］画面

方法２－FN＋F5キーを使う

FNキーを押したままF5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。FNキーを押したままF5キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法
  現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

【 表示装置を選択する画面 】

- LCD .... 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD1 ／ CRT1 .... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT .... 外部ディスプレイだけに表示
  外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD1 ／ CRT2 .... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに拡張表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

- 拡張表示でプライマリモニタを切り替える方法
  現在の表示装置が拡張表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが表示されます。
  プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンにカーソルが移動したら、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは［Windowsのログオフ］画面で［ログオフ］を選択して切り替えてください。［ユーザーの切り替え］で切り替えた場合は、FN＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

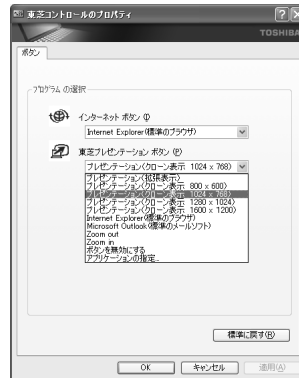
方法３－東芝プレゼンテーションボタンを使う

東芝プレゼンテーションボタンを押すと、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えることができます。
外部ディスプレイを接続し、パソコン本体に電源を入れてから、次の手順を行ってください。

1 スイッチ／ボタン ロックを解除し、東芝プレゼンテーションボタンを押す

ご購入時の状態では、1024 × 768 ドットの解像度でクローン表示します。
もう１度、東芝プレゼンテーションボタンを押すと、本体液晶ディスプレイだけの表示に戻ります。

【ボタンの機能を変更する】
東芝プレゼンテーションボタンを押したときの動作は、「東芝コントロール」で変更できます。

①［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする
②［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
③［東芝コントロール］をクリックする
④東芝プレゼンテーションボタンに割り当てる機能を選択する

パソコンの画面を外部ディスプレイに映すには、次の項目から選択してください。クローン表示または拡張表示が選択できます。クローン表示は解像度ごとに項目が用意されていますので、使用する環境に応じて選択してください。

- プレゼンテーション（拡張表示）
- プレゼンテーション（クローン表示　800 x 600）
- プレゼンテーション（クローン表示　1024 x 768）
- プレゼンテーション（クローン表示　1280 x 1024）
- プレゼンテーション（クローン表示　1600 x 1200）

⑤［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝プレゼンテーションボタンを使用した後に、FN＋F5キーを押して本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えると、東芝プレゼンテーションボタンの設定と同じ解像度で表示されます。
- 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに、1024 × 768 ドットまたは 800 × 600 ドットの解像度でクローン表示した場合、ご購入時の状態では、デスクトップ画面が本体液晶ディスプレイの画面全体に拡大して表示されます。デスクトップ画面を本体液晶ディスプレイの中央に表示したい場合は、CTRL＋ALT＋F11キーを押すと切り替えることができます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

4 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る

2 RGB コネクタからケーブルを抜く

5

インターネットチャットや音声ソフトを使う

－ マイクロホンやヘッドホンの接続 －

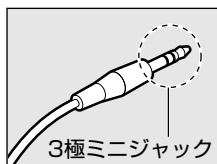
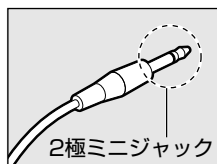
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

① マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

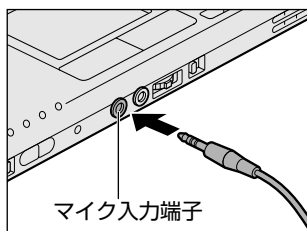
参照 サウンド機能について 「3章 6 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い 操作にあたって

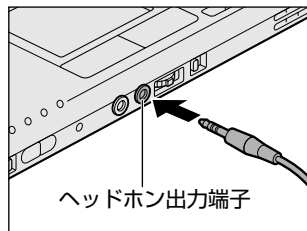
- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
ヘッドホンの音量はデジタルボリューム、またはWindowsのボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

PC カードを使う

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PC カードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード（PHS、携帯電話）
- フラッシュメモリカード用アダプタカード
- 外付けハードディスクドライブ、
  CD ／ DVD ドライブ用アダプタカード　　など

① PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE Ⅱ対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

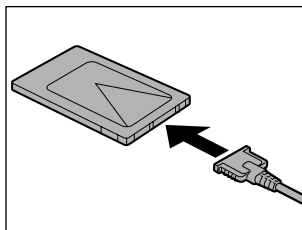
お願い　操作にあたって

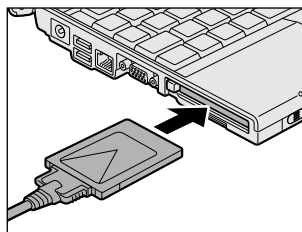
- ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

② PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける

SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

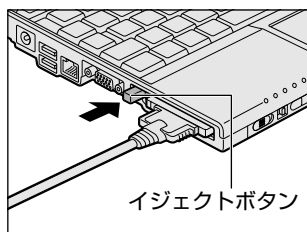
2 取りはずし

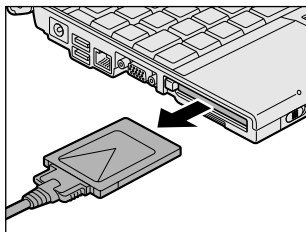
お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 イジェクトボタンを 2 回押す

1 回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう 1 度カチッと音がするまで押してください。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。
カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

4 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

6章

バッテリ駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。バッテリパックの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

- バッテリパック
- 大容量バッテリパック

バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- **バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
  寿命などで交換する場合は、次のいずれかの東芝製バッテリをお買い求めください。
  ・バッテリパック（PABAS094）
  ・大容量バッテリパック（PABAS095）
  指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリパックを分解・改造しないこと**
  分解・改造すると、火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

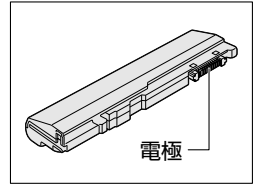
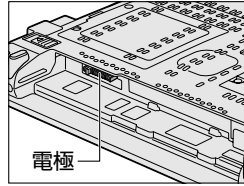
⚠警 告

- **別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠注 意

- **バッテリパックの充電温度範囲内（5 ～ 35℃）で充電すること**
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

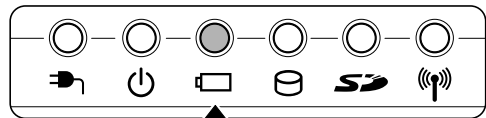
お願い

- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、AC アダプタを接続してバッテリと時計用バッテリを充電してください。

① バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

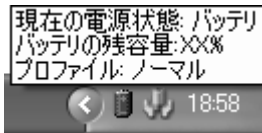
1 Battery LEDで確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery ▭ LED が点灯します。

Battery ▭ LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリの充電について「本節 ② バッテリを充電する」
消灯	・バッテリが接続されていない ・AC アダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

2 通知領域の［省電力］アイコンで確認する

通知領域の［省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。

現在の電源状態: バッテリ
バッテリの残容量:XX%
プロファイル: ノーマル
18:58

参照 省電力設定について
「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power LED が緑色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

② バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い 操作にあたって

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは 5 ～ 35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON ／ OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間＊1 】
バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

【 バッテリの駆動時間＊1 】
バッテリ駆動時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

【 バッテリを節約する 】
バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 「1 章 3-② 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 「1 章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力のプロファイルを設定する

参照 「本章 2 省電力の設定をする」

＊1 詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S30 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 使っていないときの充電保持時間*1 】
パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。

＊1 詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S30 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

③ バッテリの状態を診断する

バッテリパックは、消耗品です。
バッテリパックは、使用環境や使用頻度によってバッテリ充電能力が低下するため、バッテリ駆動時間が正しく表示できなくなる場合があります。「東芝バッテリチェッカー」では、バッテリ駆動時間の補正や、現在のバッテリの『充電能力』を診断してバッテリパックを交換する目安をお知らせします。

＊バッテリ診断には数時間かかります。

1 「東芝バッテリチェッカー」のインストール方法

「東芝バッテリチェッカー」はご購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［東芝ユーティリティ］タブをクリックする

4 画面左側の［東芝バッテリチェッカー］をクリックし、［「東芝バッテリチェッカー」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 診断方法

「東芝バッテリチェッカー」の診断方法は、次のとおりです。

お願い

- バッテリの充電能力の診断は、接続されているバッテリに対し、満充電になるまで充電をした後、完全放電を行います。そのため診断が終了するまで数時間かかります。その間はパソコンを使用しないでください。
- 診断は、パソコン本体に、診断したいバッテリパックを装着した状態で実行してください。

参照 バッテリパックの取り付け
「本節 ④ バッテリパックを交換する」

- 診断前に、他のアプリケーションはすべて終了してください。
- 診断前に、AC アダプタを接続し、診断中は AC アダプタ、およびバッテリを抜かないでください。
- 診断中は、ディスプレイを閉じないでください。
- 診断中は、キーボードやマウスに触れたり、操作しないでください。
- 診断後は、バッテリが放電された状態になっているので、バッテリを利用する前に必ず充電を行ってください。

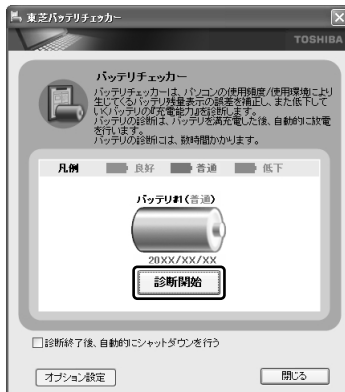
1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［バッテリチェッカー］をクリックする

「東芝バッテリチェッカー」が起動します。

2 ［診断開始］をクリックする

このとき、［診断終了後、自動的にシャットダウンを行う］をチェックすると、診断が終了したあと、自動的にパソコンの電源を切ります。「東芝バッテリチェッカー」を起動すると診断結果の確認ができます。
「診断を始める前に必ずお読みください」の内容をご確認ください。

- 標準バッテリ搭載時

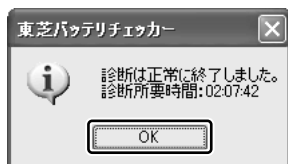
（表示例）

- 標準バッテリ＋オプションバッテリ搭載時

（表示例）

【 診断中 】
診断中は、次の画面が表示されます。

（表示例）

診断が終了すると、メッセージが表示されます。

3 ［OK］ボタンをクリックする

（表示例）

診断終了後、測定結果が表示されます。次の内容をバッテリ状態の目安としてください。

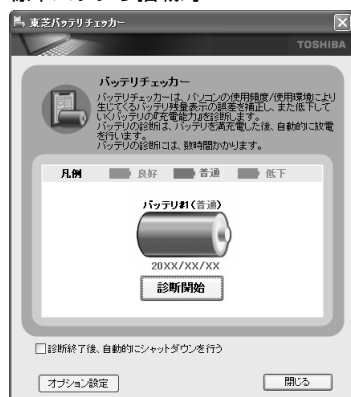
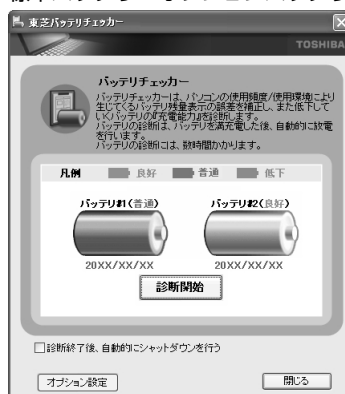
良好：バッテリ充電能力は良好です。
普通：バッテリ充電能力容量が少し低下していますが、まだ使用できます。
低下：バッテリ充電能力が半分以下になっています。そろそろ交換をおすすめします。

【 測定結果表示 】

● 標準バッテリ搭載時

（表示例）

● 標準バッテリ＋オプションバッテリ搭載時

（表示例）

3 バッテリの消耗を抑えるには

- 1ヵ月以上の長期間パソコンを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- パソコン本体の電源を切った状態で充電してください。

＊ バッテリチェッカーを頻繁に使用するとバッテリが消耗する原因になります。

④ バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

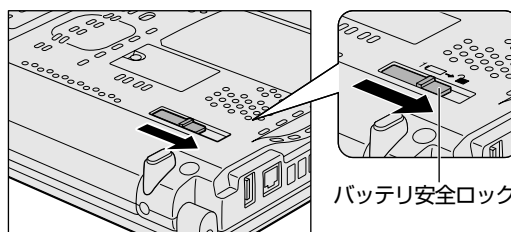
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

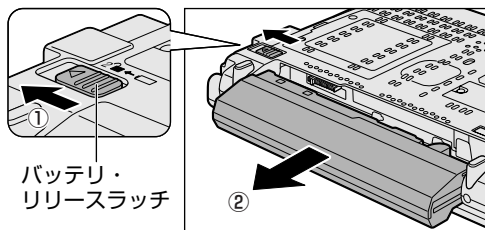
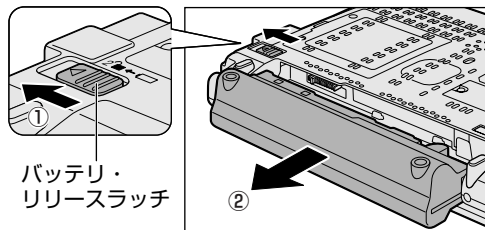
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ安全ロックを矢印の方向に引く

バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

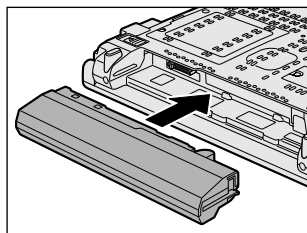
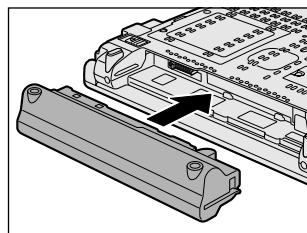
6章 バッテリ駆動で使う

5 **バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②**

【 バッテリパック 】

【 大容量バッテリパック 】

6 **交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む**

新しいあるいは充電したバッテリパックを、バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がするまで注意して差し込んでください。

【 バッテリパック 】

【 大容量バッテリパック 】

省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

① 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

2 ［ 東芝省電力］をクリックする

［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

ヘルプの該当するページが表示されます。

- 「画面のプロパティ」から画面のリフレッシュレートを 40Hz に設定することで、更にバッテリ駆動時間を延ばすことができますが、画面のちらつきが気になる、または使用中に疲れを感じる場合には、設定を 60Hz にしてお使いください。

② 東芝ピークシフトコントロール

＊ S30 シリーズのみ

1 東芝ピークシフトコントロールとは

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的に AC 電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたノートパソコンのバッテリで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。
またこの機能を実現するには、「東芝ピークシフトコントロール」のインストールが必要です。

使用方法については、『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）またはヘルプを参照してください。

2 「東芝ピークシフトコントロール」のインストール方法

「東芝ピークシフトコントロール」のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［東芝ユーティリティ］タブをクリックする

4 画面左側の［東芝ピークシフトコントロール］をクリックし、［「東芝ピークシフトコントロール」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

3 PDF マニュアルのインストール方法

『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

［東芝ユーティリティ］タブの［東芝ピークシフトコントロール］に用意されています。

4 PDF マニュアルの起動方法

『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ピークシフトコントロール取扱説明書］をクリックする

5 ヘルプの起動方法

ヘルプの起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ピークシフトコントロールヘルプ］をクリックする

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」
パスワード セキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 「本章 4- ① ユーザパスワード」
	スーパーバイザ パスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 「本章 4- ② スーパーバイザパスワード」
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 「6 章 2 省電力の設定をする」

東芝HWセットアップを使う

東芝HWセットアップは、BIOSセットアップと連動してWindows上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝HWセットアップ］をクリックする

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 ［東芝HWセットアップ］を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが ?? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

BIOSセットアップを使う

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境
（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

メモ BIOSセットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

① 起動と終了／BIOSセットアップの操作

BIOSセットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 FN＋→キーを押す

本製品では、FN＋→キーがENDキーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 ESCキーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

BIOSセットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑、↓、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SPACE または BACKSPACE
画面を切り替える	FN＋↓ または FN＋↑ 本製品では、FN＋↓ がPGDNキー、FN＋↑ がPGUPキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	FN＋← 本製品では、FN＋← がHOMEキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ● SYSTEM DATE/TIME ● PASSWORD ● HDD PASSWORD ● Execute-Disable Bit Capability ● TPM

② BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の 2 頁の画面があります。

＊1 Core モデルのみ表示されます。
＊2 S30 シリーズのみ表示されます。
＊3 1000BASE-T 対応モデルでは表示されません。

＊4 次のように表示されます。
2.5 型ハードディスクドライブの場合「Serial ATA Port0」
1.8 型ハードディスクドライブの場合「Primary IDE (1F0H/IRQ14)」
＊5 TPM 搭載モデルのみ表示されます。

（注）画面は標準設定値の表示例です。

③ 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

【 Total 】
本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は(SPACE) または (BACKSPACE)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】
日付を設定します。

【 Time 】
時刻を設定します。

3 BATTERY

【 Battery Save Mode 】
バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）
Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Super-Bright＊1
Cooling Method
= Maximum Performance

●Low Power
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright＊1
Cooling Method
= Battery Optimized

●User Setting（設定例）
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright＊1
Cooling Method
= Battery Optimized

＊1 AC アダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「LCD Brightness」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed
処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
・ High .... 処理速度を高速に設定する
・ Low .... 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode
CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
・ Enabled .... 電力消費を低減する
・ Disabled .... 電力消費を低減しない

● LCD Brightness（LCD 輝度）
画面の明るさを選択します。
・ Semi-Bright .... 低輝度に設定する
・ Super-Bright ..... 最高輝度に設定する
・ Bright .... 高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU 熱制御方式）
CPU の熱を冷ます方式を選択します。CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

・ Cooling Optimized
 .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
・ Maximum Performance
 .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げます。
・ Performance
 .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
・ Battery Optimized
 .... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主に CPU の処理速度を落として冷却します。［Performance］より消費電力は少なくなります。

【 PCI Express Link ASPM 】
PCI Express の省電力機能を設定します。

・ Auto .... バッテリ動作中かつ PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
・ Disabled .... 省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
・ Enabled（標準値）.... PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

【 Enhanced C-States 】
＊ Core モデルのみ

Enhanced C-States では、電力消費の低減を設定します。

・ Enabled（標準値）.... 消費電力を低減する
・ Disabled .... 消費電力を低減しない

4 PASSWORD

【 Not Registered 】
ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】
ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録 ■
ユーザパスワードの登録は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 「本章 4- ① -1 ユーザパスワードの登録」

■ ユーザパスワードの削除 ■
ユーザパスワードの削除は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 「本章 4- ① -2 ユーザパスワードの削除」

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

参照 「本章 4- ③ -1 パスワードを忘れてしまった場合」

■ ユーザパスワードの変更 ■
ユーザパスワードの変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 「本章 4- ① -3 ユーザパスワードの変更」

5 HDD PASSWORD

＊ S30 シリーズのみ

【 HDD 】
パスワードを設定するハードディスクです。

・ Built-in HDD ..... 内蔵ハードディスクに設定されます。

【 HDD Password Mode 】
登録する HDD パスワードを選択します。HDD パスワード（ユーザ HDD パスワード、マスタ HDD パスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDD パスワードが登録されている場合は、いったん HDD パスワードを削除してから選択してください。

・ User Only（標準値）... ユーザ HDD パスワードのみ設定する
・ Master+User .... マスタ HDD パスワードとユーザ HDD パスワードを設定する

【 User Password 】
ユーザ HDD パスワードを設定します。

【 Master Password 】
マスタ HDD パスワードを設定します。
「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスタ HDD パスワードを設定し、続けてユーザ HDD パスワードの設定を行います。

参照 HDD パスワードの設定方法
「本章 4- ④ HDD パスワード」

6 BOOT PRIORITY

【 Boot Priority 】
システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。通常は「HDD→FDD→CD-ROM→LAN」に設定してください。

- HDD→FDD→CD-ROM→LAN（標準値）
- FDD→HDD→CD-ROM→LAN
- HDD→CD-ROM→LAN→FDD
- FDD→CD-ROM→LAN→HDD
- CD-ROM→LAN→HDD→FDD
- CD-ROM→LAN→FDD→HDD

（FDD→HDD→CD-ROM→LAN 以下：指定のドライブ順に起動する）

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続していない場合、SD メモリカードが起動します。
本製品では、SD メモリカードの起動ディスクを作成することができます。

参照 SD メモリカードの起動ディスクについて
「1 章 2-②-1- SD メモリカードから起動する」

【 HDD Priority 】
「USB Memory BIOS Support Type」で HDD を選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD→USB（標準値）
  .... 内蔵ハードディスク→USB フラッシュメモリの順で起動する
- USB→Built-in HDD
  .... USB フラッシュメモリ→内蔵ハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】
＊ 1000BASE-T 対応モデルでは表示されません。

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）......... PXE プロトコルに設定する
- RPL .... RPL プロトコルに設定する

7 OTHERS

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】
＊ Core モデルのみ

- Dynamically Switchable（標準値）
  .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替えます。
- Always High
  .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- Always Low
  .... CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

【 Execute-Disable Bit Capability 】
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

- Available .... 有効にする
- Not Available（標準値）....... 無効にする

【 Auto Power On（タイマ・オン機能）】
自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

- Disabled（標準値）..... Auto Power On 機能が設定されていない
- Enabled .... Auto Power On 機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入った後は設定が解除されます。
Windows XP を使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になります。
Windows のタスクスケジューラを使用してください。

Auto Power On 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、↑↓キーで行います。

- **Alarm Time**
  自動的に電源を入れる時間を設定します。
  - Disabled .... 時間を設定しない
- **Alarm Date Option**
  自動的に電源を入れる月日を設定します。
  「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
  - Disabled .... 月日を設定しない

● Wake-up on LAN
ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
[15]「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリを使っていないときの充電保持時間が、別紙『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S30 シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。

・ Enabled ....Wake up on LAN 機能を使用する
・ Disabled（標準値）...Wake up on LAN 機能を使用しない

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、Auto Power On 機能を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定
「本章 1 システム環境の変更とは」

【 Front Buttons when Display Closed 】
本体液晶ディスプレイを閉じている状態での、電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンの動作を設定します。
持ち運んでいる最中などに誤って電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンに触れても、電源が入らないように設定できます。

・ Enabled（標準値）
..... ディスプレイの開閉状態に関係なく、常に電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンを使用できる
・ Disabled for Battery use
..... ディスプレイが閉じていて、AC アダプタと電源コードを接続していない場合、電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンは動作しない
・ Disabled
..... ディスプレイが閉じている場合、電源スイッチ／インターネットボタン／東芝プレゼンテーションボタンは動作しない

【 Performance/Battery Life Setting 】
メモリバス周波数を指定します。

・ Battery Life
..... バッテリ駆動時間を優先します。
・ Performance（標準値）
..... メモリバスの周波数を上げて処理能力を向上させます。

それぞれの設定において、メモリバス周波数は、次のとおりです。

	Battery Life	Performance（標準値）
メモリバス周波数	400MHz	533MHz

【 Beep Volume 】
警告音（ビープ音）の音量を設定します。
Off、Low、Medium（標準値）、High のいずれかを選択できます。

【 Diagnostic Mode 】
BIOS のハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

・ Disabled（標準値）..... ハードウェア診断テスト機能を無効にする
・ Enabled .... ハードウェア診断テスト機能を有効にする

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】
ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

・ Setup by OS（標準値）... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
・ All Device .... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。

9 DRIVES I/O

【 Built-in HDD 】
ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

10 PCI BUS

【 PCI BUS】
PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 SECURITY CONTROLLER

＊ TPM 搭載モデルのみ

【 TPM 】
TPM（Trusted Platform Module）を有効にするかどうかの設定をします。

・ Disabled（標準値）..... TPM を有効にしない
・ Enabled .... TPM を有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。

①カーソルバーを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」にあわせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す
画面下部に「Save changes to Security Controller now? (Y/N)」と表示されます。
② Y キーを押す
設定が変更されます。

【 Clear TPM Owner 】
「TPM」で「Enabled」に設定した場合のみ、表示されます。

所有者登録とユーザ登録を削除します。
本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPM の使用を中止する場合に行ってください。

①カーソルバーを［Clear TPM Owner］に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す
画面下部に「Press a key in the turn of [Y], [E], [S] and [Enter].」と表示されます。
②「YES」と入力し（YESキーを押す）、ENTERキーを押す
「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更され、「Clear TPM Owner」は表示されなくなります。

お願い 操作にあたって

- 所有者登録とユーザ登録を削除すると、TPM に関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザが「SECURITY CONTROLLER」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

- 所有者登録とユーザ登録を削除した後に、TPM の使用を再開する場合は、もう 1 度 TPM へ所有者登録やユーザ登録を行う必要があります。

12 DISPLAY

【 Power On Display 】
起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

- Auto-Selected（標準値）
  .... システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- LCD ＋ Analog RGB
  .... 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD ＋ Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

【 LCD Display Stretch 】
本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

- Enabled(標準値) .... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- Disabled .... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

13 PERIPHERAL

【 Internal Pointing Device 】
タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- Enabled（標準値）....... 使用する
- Disabled .... 使用しない

14 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】
USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled（標準値）
  .... レガシーサポートを行う
  ドライバなしで USB キーボード／ USB マウスが使用できます。
- Disabled
  .... レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- Enabled（標準値）
  .... レガシーサポートを行う
  ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- Disabled
  .... レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、［6］「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

【 USB Memory BIOS Support Type 】
コンピュータの起動に使用する USB フラッシュメモリに関する設定をします。

- HDD（標準値）... USB フラッシュメモリを HDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での HDD の順位になります。他の HDD との優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
- FDD .... USB フラッシュメモリを FDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での FDD の順位になります。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】
内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled（標準値）....... 有効にする
- Disabled .... 無効にする

パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windows のログオンパスワード
  Windows にログオンするとき
  インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能
「3章 2-②- FN キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
  電源を入れたときや休止状態から復帰するとき、東芝パスワードユーティリティを起動して設定するとき
  ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザパスワードを登録してください。
  スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
- HDD パスワード
  ＊ S30 シリーズのみ
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードやHDD パスワードの設定方法、トークン＊[1]の作成方法について説明します。

＊1 パスワードの代わりに使用できる SD メモリカードです。

メモ

- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDD パスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】｜（バーチカルライン） ¥（エン）など ・他のキー （SHIFT キーや CAPSLOCK英数 キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

① ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。

登録したいパスワードを入力するときには、パスワードの文字列をASCIIコード入力や、クリップボードから貼り付けたりせずに、キーボードから文字を入力してください。
また登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの登録

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

2 ［登録］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［入力］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字
「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。
メッセージの内容に従って、もう1度パスワードを入力してください。

4 ［確認入力］に手順3で入力したパスワードをもう1度入力する

＊ S30シリーズのみ

- ［ユーザパスワードの登録］画面で［同時にHDDユーザパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをしておくと、ここで設定したユーザパスワードがHDDパスワードとしても登録され、手順5で登録の確認画面が表示されます。

参照 HDDパスワード 「本節 ④ HDDパスワード」

5 ［登録］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順3から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。
① メディアをセットする
② ［保存する場所］で保存先を選択する
③ ［ファイル名］にファイル名を入力する
④ ［保存］ボタンをクリックする

8 必要に応じて、［パスワードの注釈］を入力する

［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
設定できる文字数は511文字以内、使用できる文字列はユーザパスワードと同様です。
パスワード文字列そのものを登録しないでください。

9 ［OK］ボタンをクリックする

お願い

- パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

【 トークンの作成 】
トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモリカードです。トークンは、ユーザアカウントをコンピュータの管理者に設定しているユーザのみ作成できます。
トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。
また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。
対応していないSDメモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモリカードを使用するか、「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。

参照 SDメモリカードのフォーマット
「3章 7-① SDメモリカードを使う前に」

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

2 ［作成］ボタンをクリックする

3 表示されたメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

［トークンの作成認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。
［ユーザトークンの作成］画面が表示されます。

4 SD メモリカードをセットする

5 ［SD カードのドライブ］で SD メモリカードのドライブを選択する

6 ［作成］ボタンをクリックする

トークンが作成されます。

7 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

お願い

- トークンで認証した後は、忘れずに SD カードスロットから SD メモリカードを抜き、安全な場所に保管してください。

BIOS セットアップでの登録

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

4 ENTER が確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 もう 1 度パスワードを入力する

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう 1 度入力してください。

6 ENTER キーを押す

パスワードが登録され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

【 BIOS セットアップの終了方法 】
BIOS セットアップの終了方法は、次のとおりです。

1 FN＋→キーを押す

本製品では、FN＋→が END キーの機能を持ちます。
「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 Y キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

2 ユーザパスワードの削除

東芝パスワードユーティリティでの削除

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

2 ［削除］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの削除］画面が表示されます。

3 ［削除］ボタンをクリックする

確認画面が表示されます。

4 ［OK］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの削除認証］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

BIOS セットアップでの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTER キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「Verify Password」が「Not Registered」に変わって表示されます。
手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 1- BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

3 ユーザパスワードの変更

東芝パスワードユーティリティでの変更

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

2 [変更] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。

3 [入力] に新しいパスワードを入力する

4 [確認入力] に手順3で入力したパスワードをもう1度入力する

5 [変更] ボタンをクリックする

確認画面が表示されます。

6 [OK] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更認証] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されておりませんので、今回手順3、4で入力したものではなく、登録済みのパスワードまたはトークンを使用してください。

参照 認証について 「本節 ③ パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティを起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

7 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1- 東芝パスワードユーティリティでの登録」の手順7を確認してください。

BIOSセットアップでの変更

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。
手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 1- BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

② スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。
なお、BIOSセットアップでは設定できません。

メモ

- 先にユーザパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザパスワードの登録はできません。スーパーバイザパスワードとユーザパスワードを両方登録する場合は、1度ユーザパスワードを削除し、スーパーバイザパスワードを登録してからもう1度ユーザパスワードを登録してください。
- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- スーパーバイザパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザでパソコンを使用している場合の、各ユーザの権限を設定する機能です。

起動方法

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SvpwTool¥TOSPU.EXE」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードを登録している場合はパスワードまたはトークンで認証を行ってください。

4 ［スーパーバイザパスワード］タブをクリックする

メモ

- スーパーバイザパスワードを設定している状態で、F12キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［HW セットアップ／BIOS セットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。チェックをはずしていると、F12キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 F12キーで起動ドライブを変更する方法
「1 章 2-②-1 起動するドライブを変更する場合」

- 「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。
  - ・ユーザパスワードが登録されていない場合
    設定後の 1 回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
    ユーザパスワードの登録を行ってください。
  - ・ユーザパスワードが登録されている場合
    設定後の起動時の「Password=」で、ユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
    新しいユーザパスワードに変更してください。

  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。

③ パスワードの入力

パスワードの代わりにトークンを使うこともできます。

パソコンまたは BIOS セットアップを起動したとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたは BIOS セットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。この場合は、次の手順を行ってパソコンまたは BIOS セットアップを起動します。

【 パスワードを入力する 】

1 設定したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

【 トークンを使う 】

1 トークンをセットする

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

【 指紋認証を使う 】

1 タッチパッドの横にある指紋センサに指をのせ、手前側にすべらせる

参照 指紋認証 「本章 5 指紋認証を使う」

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。
トークンでの認証は、ユーザアカウントをコンピュータの管理者に設定しているユーザのみ行うことができます。

【 パスワードを入力する 】

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 ［確認］ボタンをクリックする

【 トークンを使う 】

1 認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- パスワードファイルを確認する
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。
- トークンを使用して登録したパスワードを解除する

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

④ HDD パスワード

＊ S30 シリーズのみ

HDD パスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDD パスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。HDD パスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDD パスワードは、ユーザ HDD パスワードとマスタ HDD パスワードの 2 つを設定することが可能です。

【 ユーザ HDD パスワード 】
各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
マスタ HDD パスワードを削除すると、同時にユーザ HDD パスワードも削除されます。

【 マスタ HDD パスワード 】
管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
マスタ HDD パスワードはユーザ HDD パスワードの代わりに使えます。ユーザ HDD パスワードを忘れた場合でも、マスタ HDD パスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスタ HDD パスワードを使用してユーザ HDD パスワードを変更することもできます。
なお、マスタ HDD パスワードのみを登録することはできません。

組織などでマスタ HDD パスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者が BIOS セットアップでマスタ HDD パスワードと仮のユーザ HDD パスワードを設定しておく必要があります。

ユーザ HDD パスワードとマスタ HDD パスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、ユーザ HDD パスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスタ HDD パスワード（Master Password）の項目は、BIOS セットアップの「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスタ HDD パスワードを設定し、続けてユーザ HDD パスワードの設定を行います。

1 **BIOS セットアップを起動する**

2 **カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 **パスワードを入力する**

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字
「本節 - パスワード として使用できる文字」

パスワードは 1 文字ごとに＊が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 **ENTER キーを押す**

パスワードが確認され、「User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 **パスワードを入力する**

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう 1 度入力してください。

6 **ENTER キーを押す**

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本節 ①-1-BIOS セットアップの終了方法」を確認してください。

- 「東芝パスワードユーティリティ」でユーザパスワードを設定している場合、同じパスワードを使えば HDD パスワードを設定することができます。

4 HDDパスワードの削除

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

パスワードが削除されます。
手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。
ユーザHDDパスワードのみを削除することはできません。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 ①-1-BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で選択している状態によって異なります。

【「User Only」の場合】
ユーザHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。

【「Master+User」の場合】
マスタHDDパスワードを変更する場合は、マスタHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。
マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。
ユーザHDDパスワードのみ変更する場合は、次の手順を行ってください。

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

ユーザHDDパスワードを入力してください。またはユーザHDDパスワードの代わりに、マスタHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスタHDDパスワードを使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順3で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 ①-1-BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「HDD Password =」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。
［Password:］と表示されます。

指紋認証を使う

本製品には「指紋センサ」と「指紋認証ユーティリティ」が用意されています。
ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

① 指紋認証とは

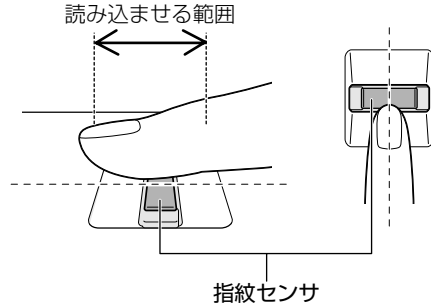
指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。
キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバの解除
- パソコン本体起動時のユーザパスワードまたは HDD パスワードの入力
- スタンバイからの復帰
- ファイルやフォルダの暗号化

詳しくは指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

お願い

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサ表面を強く押す
  - ・濡れた手で指紋センサ表面を触る
    指紋センサの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサ表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサ表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサ表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサの上に第一関節がくるように置く
  - ・スライドするときにはゆっくりと一定のはやさで手前にスライドさせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・次の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサ表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、他の指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、他の指を登録してください。
  - ・指紋の認識率には、個人差があります。
  - ・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

② Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、Windows ログオンパスワードを設定しておく必要があります。Windows ログオンパスワードを設定していない場合は、次の手順で設定してください。
すでにWindows ログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 ③指紋を登録する」に進んでください。

1 操作方法

1 **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ユーザーアカウント］をクリックする**

Office が搭載されていない場合、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順４へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順５へ進んでください。

3 **［ユーザーアカウント］をクリックする**

Office 搭載モデルの場合、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザは手順４ へ、「制限付きアカウント」のユーザは手順５ へ進んでください。

4 **パスワードを設定するアカウント（ユーザ名）のアイコンをクリックする**

5 **［パスワードを作成する］をクリックする**

［アカウントのパスワードを作成します］画面が表示されます。

6 **［新しいパスワードの入力］にパスワードを入力する**

パスワードは半角英数字で、127 文字まで入力できます。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。入力した文字は「●●●●」で表示されます。指紋認証の利便性、安全性のメリットを生かすために、より長いパスワードを設定してください。登録されたパスワードは、忘れたときのために必ず控えておき、安全な場所に保管してください。

お願い

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザアカウントが他にあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。
  管理者アカウントで設定した他のユーザアカウントが無い場合は、リカバリをしてください。リカバリをすると、購入した後に作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 「9 章 リカバリをする」

7 **TAB キーを押す**

カーソルが［新しいパスワードの確認入力］に移動します。

8 **もう１度パスワードを入力する**

必要であれば、パスワードを忘れたときにパスワードのヒントになる語句を［パスワードのヒントとして使う単語や語句の入力］欄に入力してください。
ヒントを入力しておくと、パスワード入力画面でヒントを見ることができます。ヒントを見て思い出すようなパスワードにしておけば、わからなくなる心配はありません。

9 **［パスワードの作成］ボタンをクリックする**

10 **「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで［ファイルやフォルダを個人用にしますか？］画面が表示された場合は、［はい、個人用にします］ボタンをクリックする**

ファイルやフォルダを共有する場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。

③ 指紋を登録する

Windows ログオンパスワードを設定したら、「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、２本以上の指を登録してください。

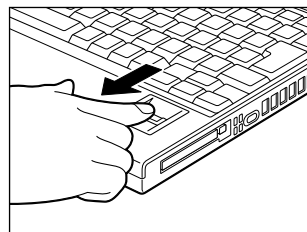
参照 「本節 ② Windows ログオンパスワードを登録する」

指紋センサには、最大21 パターンの指紋を登録できます。複数のユーザでパソコンを使用している場合は、全ユーザあわせて21 パターン登録できます。例えば１人で10 パターンの指紋を登録した場合、他のユーザが登録できるのは、計11 パターンまでです。

指紋センサに指紋をうまく読み取らせるには

1 **指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第１関節を軽く指紋センサ中央の上におく**

2 **第１関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く**

指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第１関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、ゆっくりとスライドさせてください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windows のユーザアカウントとそのログオンパスワードを登録した後、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録した Windows ログオンパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

メモ

- Windows ログオンパスワードは指紋認証の代わりに使用できますが、指紋のユーザ登録など一部の機能は Windows ログオンパスワードで代用することはできません。

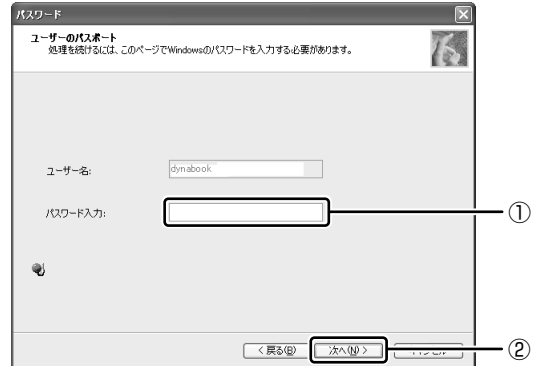
1 **指紋を登録するユーザアカウントでログオンする**

2 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［Protector Suite QL］→［ユーザー登録］をクリックする**

［ユーザー登録］画面が表示されます。
通知領域の［Protector Suite QL］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから［指紋を編集］を選択しても［ユーザー登録］画面を起動することができます。

3 **［次へ］をクリックする**

［ユーザーのパスポート］画面が表示されます。
このとき、既に指紋を登録してある場合は［パスワード］画面が表示されます。指紋センサに指紋登録済みの指を滑らせるか、パスワードを入力して［次へ］をクリックしてください。その場合、手順４へ進みます。

4 **［パスワード入力］欄に Windows ログオンパスワードを入力し①、［次へ］をクリックする②**

［指紋登録のヒント］画面が表示されます。
画面に表示される指紋登録のヒントを、よくお読みください。

5 **［対話型チュートリアルを実行する］がチェックされていることを確認し、［次へ］をクリックする**

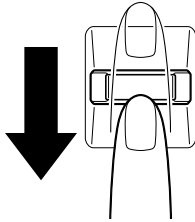
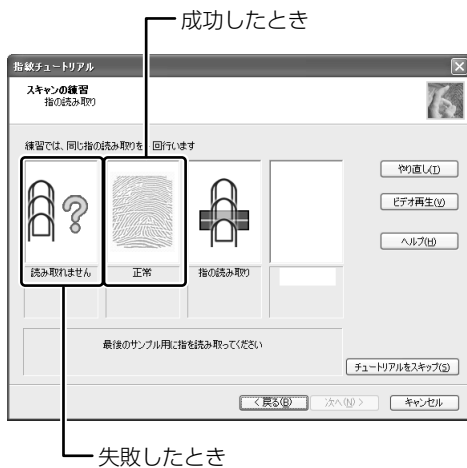
［正しい読み取り手順］画面が表示されます。

6 **画面に表示される説明と動画をよく見て、［次へ］をクリックする**

動画は 1 回再生した後停止しますが、［ビデオ再生］をクリックするともう 1 度再生されます。

［スキャンの練習］画面が表示されます。

7 タッチパッドの右にある指紋センサに指を軽くのせ、手前側にすべらせる

第１関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。

同じ指を４回認識させてください。指紋センサに指をすべらせると、画面の４つのボックスに、１回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
このとき［ビデオ再生］をクリックすると、手順５で見た動画を見ることができます。

４回実行した後、何回かうまく読み取りができなかった場合は、やり直しを勧めるメッセージが画面下部に表示されます。
［やり直し］をクリックし、もう１度手順６を実行してください。

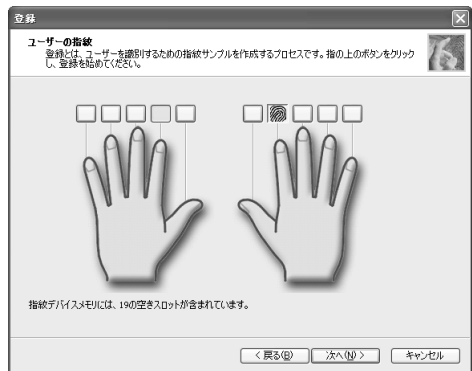
４回とも指紋データの読み取りに成功すると、「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました。」と画面下部に表示されます

8 ［次へ］をクリックする

［ユーザーの指紋］画面が表示されます。

9 登録する指を示すボックスをクリックし、タッチパッドの右にある指紋センサに登録したい指の第１関節を軽くのせ、手前側にすべらせる

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することをおすすめします。

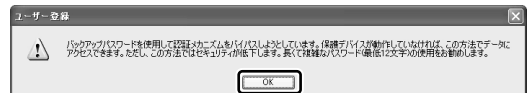
第１関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。同じ指を３回読み取らせます。
画面中央に読み取り画面が表示され、１回指紋読み取りが成功するごとにチェックがつきます。
３回とも指紋の読み取りができたら、「成功」と認識画面の下部に表示され、登録した指を示すボックスに指紋イラストが表示されます。

［ユーザーの登録］画面が表示されてから２分以内に指紋登録を行わないとエラーメッセージが表示されます。
［OK］をクリックして、指紋登録を行ってください。
以前登録した指を再び登録した場合は、新しく登録した指紋データで上書きされます。

10 違う指で手順８を繰り返す

最低でも２本の指を登録してください。

11 ［次へ］をクリックする

パスワードの登録を勧める画面が表示されます。

12 ［OK］をクリックする

［拡張セキュリティ］画面が表示されます。

13 拡張セキュリティを使用する場合、必要な設定をする

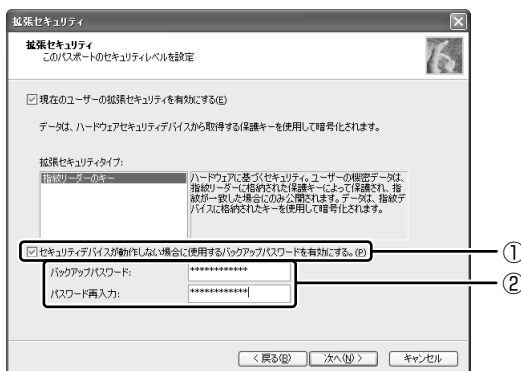
拡張セキュリティ機能を有効にすると、登録したユーザデータなどを保護キーを使って暗号化し、セキュリティを強化することができます。
この機能を使用しない場合は、［現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする］のチェックをはずし、手順15へ進んでください。
TPM＊1を使用する拡張セキュリティ方式を選択するには、事前にTPMを利用可能な状態にしておく必要があります。TPMを利用可能にしてあると、画面中央の［拡張セキュリティタイプ］にTPMを使う拡張セキュリティ方式が追加されます。

＊1 TPM搭載モデルのみ

参照 TPMのインストールと詳細
「本章 6 TPMを使う」
『Trusted Platform Module 取扱説明書』
（PDFマニュアル）

拡張セキュリティ方式を有効にするには［現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする］をチェックし①、［拡張セキュリティタイプ］で使用したい項目を選択してください②。

14 ［セキュリティデバイスが動作しない場合に使用するバックアップパスワードを有効にする］をチェックし①、パスワードを入力する②

ここでバックアップパスワードを設定しておくと、拡張セキュリティを設定している状態で指紋センサがうまく動作しない場合や指紋をうまく読み取れない場合に、キーボードからのパスワード入力で認証させることができます。

拡張セキュリティ機能を使用する場合、バックアップパスワードを設定しておくことを強くおすすめします。推測しにくい、長いパスワードを設定してください。
拡張セキュリティ機能を使用している場合、指紋認証の代わりに使用できるパスワード入力は、次のようになります。

B：バックアップパスワードで代用
W：Windowsパスワードで代用
×：パスワード入力による代用不可能

	指紋データ削除	インポート／エクスポート	ユーザ設定
バックアップパスワード有り	B	B	×
バックアップパスワード無し	W	×	×

いずれも、指紋認証をキャンセルしたときにパスワード入力画面が表示されます。

参照 拡張セキュリティ機能の詳細
《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：拡張セキュリティ》

15 ［次へ］をクリックする

［終了］画面が表示されます。

16 ［完了］をクリックする

指紋登録が完了し、［ようこそ］画面が表示されます。さまざまなメニューが表示されるので、知りたい情報をクリックしてお読みください。すぐに読まない場合は、［閉じる］をクリックして［ようこそ］画面を終了してください。

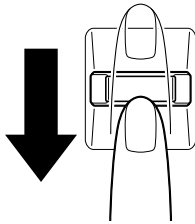
④ 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサに指紋を指をスライドさせることで、Windows へログオンできます。また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンに電源を入れる

Windows が起動し、［ログオン認証］画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第 1 関節を指紋センサの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されると指紋認証画面に［成功］と表示され、Windows にログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、警告メッセージが表示されます。また指紋認証を連続して 10 回以上失敗すると、約 1 分の間、指紋認証を使用できなくなります。
指紋認証がうまくいかない場合は、キーボードからパスワードを入力して、Windows にログオンしてください。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

【 パソコンの起動時 】
パソコンの起動時に、ユーザパスワードや HDD パスワード*1 の代わりに、指紋認証を使用することもできます。

＊1 HDD パスワードは、S30 シリーズにのみ搭載されている機能です。

事前にユーザパスワードや HDD パスワードを登録しておいてください。

参照 ユーザパスワード、HDD パスワードの登録方法
「本章 4 パスワードセキュリティ」

また、指紋認証をユーザパスワードや HDD パスワードの代わりに使用するための設定も必要です。

参照 設定の詳細 《指紋認証ユーティリティのヘルプ
（検索）：パワーオンセキュリティ》

ユーザパスワードや HDD パスワードの指紋認証に続けて 5 回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザパスワードや HDD パスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

【 スクリーンセーバの解除 】
［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで、「パスワードによる保護」または「再開時にようこそ画面に戻る」をチェックしてある場合に実行できます。

＊ パソコン本体に複数のユーザが登録されている場合は、「再開時にようこそ画面に戻る」が表示されます。

【 スタンバイからの復帰 】
［東芝省電力］の［アクション設定］タブで、「スタンバイ / 休止状態 復帰時にパスワードを求める」の「する」をチェックしてある場合に実行できます。

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細 《指紋認証ユーティリティのヘルプ
（検索）：登録のエクスポート / インポート》

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、指紋データの登録を削除することをおすすめします。

参照 指紋データの登録削除
《指紋認証ユーティリティのヘルプ
（検索）：既存の登録の削除
（検索）：既存の指紋サンプルを削除するには》

メモ

- PasswordBank（インターネットのホームページで指紋認証による ID、パスワードを入力する機能）は、Internet Explorer で動作します。
- Windows XP Pro の暗号化ファイル システム (EFS) で暗号化したファイルを、指紋認証の暗号化機能「Mysafe」フォルダへコピーすることはできません。
- 指紋認証のエクスポート機能では、Mysafe の中のデータをエクスポートすることはできません。
  Mysafe の中のファイルは、ファイルのコピーと貼り付けなどの方法で、必要に応じてバックアップをとることをおすすめします

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Protector Suite QL］→［ヘルプ］をクリックする

TPMを使う

＊ TPM搭載モデルのみ

本製品には、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
詳しくは、『Trusted Platform Module取扱説明書』（PDFマニュアル）とヘルプを参照してください。

お願い 操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windowsログオンパスワードやユーザパスワードとは別にTPMに対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でもTPMで保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、必ず前もって外部記憶メディアに最新の緊急時復元用アーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルをバックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもTPMが交換される場合があります。その場合、バックアップしておいた緊急時復元用アーカイブファイルと緊急時復元用トークンを使用して、TPMの設定を復元してください。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 所有者登録とユーザ登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザがBIOSセットアップの［SECURITY CONTROLLER］の項目を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

- 所有者登録とユーザ登録を削除した後に、TPMの使用を再開する場合は、もう1度TPMへ所有者登録やユーザ登録を行う必要があります。

2 TPMを有効にする方法

TPMを使用するには、まずBIOSセットアップでTPMを有効に設定する必要があります。
TPMを有効にする方法は、「本章 3-③-11 SECURITY CONTROLLER」を参照してください。

- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザに操作制限を加えることをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

3 TPMのインストール方法

TPMを有効にした後、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［ドライバ］タブをクリックする

4 画面左側の［Infineon TPM Software Professional Package］をクリックし、［「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。
TPMを使用するための設定や使用方法は、PDFマニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』(PDF マニュアル)のインストール方法は、次のとおりです。

1 **[スタート]→[すべてのプラグラム]→[アプリケーションの再インストール]をクリックする**

2 **画面のメッセージに従ってインストールする**

[ドライバ]タブの[Infineon TPM Software Professional Package]に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』(PDF マニュアル)の起動方法は、次のとおりです。

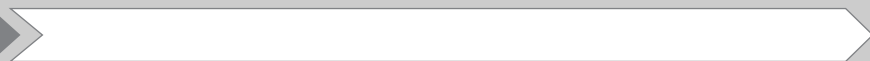
1 **[スタート]→[すべてのプログラム]→[Trusted Platform Module 取扱説明書]をクリックする**

6 ヘルプの起動方法

1 **通知領域の[Security Platform]アイコン( )をクリックし、表示されるメニューから[ヘルプ]をクリックする**

8章

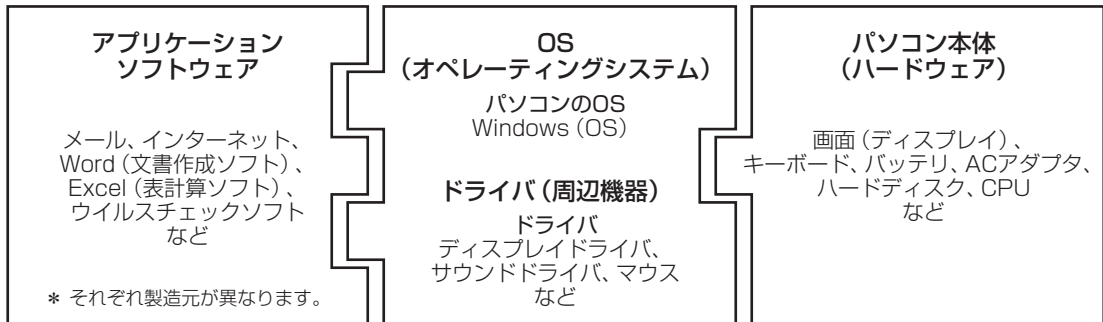
パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

① トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

【 パソコンを構成する３つの部分 】

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→ OS、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

STEP 1　アプリケーションソフトウェアのチェック

例１：メールやインターネットがつながらない
アクセスポイントやメールサーバ、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダごとに異なります。契約プロバイダから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

例２：使いかたがわからない
同梱されているマニュアルやオンラインマニュアル*[1]を読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

次頁Aへ

STEP 2　OS やドライバのチェック

例３：正常に画面が表示されない、音が出ない、設定があっているのにインターネットにつながらない

例４：青い画面で「STOPOX********」（一般に「STOP エラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」とよばれる画面）が表示された
周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解決する場合が少なくありません。

次頁Bへ

STEP 3　パソコン本体のチェック

例５：電源ランプが点灯せず、パソコンがまったく動かない。ドライバを入れ直しても機器が動かない
パソコン本体が動作する場合は、「リカバリ（再セットアップ）」を行ってください。「リカバリ」は、ハードディスクのデータが消えるため、バックアップを行うことをおすすめします。

次頁Cへ

A 各アプリケーションのトラブル解消法／プロバイダへのお問い合わせ

例 1： プロバイダへのお問い合わせについて
お客様ご契約のプロバイダの窓口へお問い合わせください。

例 2： アプリケーションの使いかたについて
オンラインマニュアル*1や、各アプリケーションのヘルプをご確認いただくか、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 「本章 5 問い合わせ先」

B OS、ドライバのトラブル解消法

例 3： ドライバの入れ直しについて
「5 章 1-① ドライバをインストールする」を参照してください。

例 4： トラブル解消によく使う操作について
「本章 2 トラブル解消によく使う操作」や「本章 3 問題の切り分け方法」を参照してください。

例 4： 周辺機器の取りはずしについて
「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照してください。

追加した周辺機器をはずしてみてはどうか、追加したソフトを削除してはどうかなどと試してみてください。

それでもトラブルが解消しない場合には、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

C パソコン本体のトラブル解消法

例 5： 必要なデータのバックアップをとる操作について
必要なデータについては巻末の「リカバリ（再セットアップ）チェックシート」を参照してください。

例 5： リカバリについて
「9 章 リカバリをする」を参照してください。

それでもトラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動かない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。
パソコンの操作について、困ったときや修理のご依頼は、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

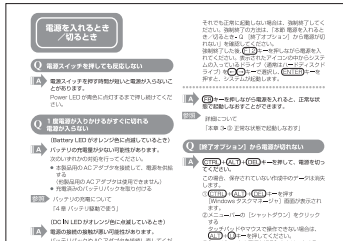
参照 「本節 ④ 修理に出す」
参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

＊1　SX シリーズのみ

Q&Aや同梱マニュアル、FAQの紹介

パソコンのトラブルの原因は多岐にわたるため、ここですべてを紹介することはできません。それぞれのお問い合わせ先／サポート窓口にご連絡いただく前に、次に紹介する情報をご活用ください。

Q&A 形式での説明は、本書、オンラインマニュアル＊[1]、「よくあるご質問 FAQ」にあります。

【「Q&A集」】

よくお問い合わせのあるパソコントラブルの解決方法を、Q&A 形式で説明しています。

参照 「本章 4 Q&A 集」

【 オンラインマニュアル 】＊[1]

＊1 SX シリーズのみ

オンラインマニュアルは、アプリケーションの紹介や知っておくと便利なこと、Q&A 形式の「困ったときは」など、さまざまな情報を検索できます。オンラインマニュアルは本製品の電源を入れた状態でデスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコン（ ）をクリックすると起動できます。

【 よくあるご質問 FAQ 】
インターネットへ接続して、東芝パソコンのサポート情報ページにある「よくあるご質問 FAQ」で解決方法を検索できます。

参照 「本節 ② トラブル事例を見てみる」

モジュールのダウンロード

インターネットへ接続して、東芝パソコンのサポート情報ページからドライバ、BIOS、アプリケーションなどさまざまなモジュールを検索し、ダウンロードすることができます。最新モジュールをインストールすることで、パソコンのトラブルを解決できるケースがあります。

参照 「本節 ② トラブル事例を見てみる」

② トラブル事例を見てみる

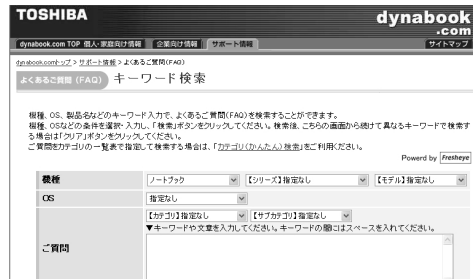
「dynabook.com」では、「よくあるご質問 FAQ」や、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。サポート窓口や修理についても案内しています。
次の方法で表示できます。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［インターネット］をクリックする

Internet Explorer が起動します。
購入時の状態では、起動して最初に本製品のサポート情報のページが表示されるように設定されています。

【 パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 FAQ」】
「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

（表示例）

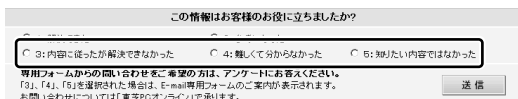
キーワード検索では、条件を選択したり、キーワードや文章を入力して、検索できます。

（表示例）

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【メールで質問する「東芝PCオンライン」】
「よくあるご質問 FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24 時間 365 日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 「10 章 1-① 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ」

1「よくあるご質問 FAQ」で解消方法を探す

2「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

3［送信］ボタンをクリックする

東芝 PC オンラインへのリンク画面が表示されます。

4「東芝 PC オンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。メールにてご回答させていただきます。
質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。
この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて
「本章 5 問い合わせ先」

【モジュールのダウンロード】
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。「ダウンロード」から検索できます。［キーワード検索］では、本製品のシリーズ名などを選択すると、モジュールの情報が一覧表示されます。
OS をアップグレードしたい場合は、OS にあったモジュールをダウンロードしてください。

（表示例）

メモ

- 相談窓口や PC のリサイクル、お客様登録については、本章の以降のページや「10 章 登録とケア」にも詳しく紹介されています。

③ 電話で問い合わせる

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC あんしんサポート 技術相談窓口に連絡してください。技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

全国共通電話番号

0120-97-1048

（通話料・電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。
技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で①をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間：9:00 ～ 19:00（年中無休）

［電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください］

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。
その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

●東芝 PC 電話サポート予約サービス

19:00 ～ 24:00 の時間帯に電話サポートをご希望のお客様には、サポートスタッフからご希望の時間帯にお電話を差し上げます。
インターネットから電話サポート予約サービスをご利用ください。（定員制）
電話サポート予約サービスは、次のアドレスから接続できます。

http://dynabook.com/assistpc/

本サービスのご利用には「お客様登録」が必要です。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC あんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm）にてお知らせいたします。

1 トラブルチェックシート

東芝PCあんしんサポート 技術相談窓口では電話での本製品の技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

Q.1 使用しているパソコンの型番は？
型番は本体裏面のラベルに記載されています。

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？
Windows XPなど、使用しているシステムとアプリケーションは？
システムのバージョンやCPUの種類を「東芝PC診断ツール」で確認してください。

Q.3 どのような症状が起こりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？
表示された場合、表示内容をお知らせください。

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？
□ 一度発生したが、その後発生しない
□ 常に発生する
□ 電源を切らないと発生するが、
　電源を切ってから再起動すれば発生しない
□ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する
□ その他：

Q.7 無線LAN使用時　＊無線LANモデルのみ
アクセスポイントの製造元と型番：
アクセスポイントのSSID
（ワイヤレスネットワーク名）：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合
プロバイダ名：
使用モデム名：
使用回線：□ ブロードバンド
□ ダイヤルアップ接続
□ ISDN接続
□ 携帯電話・PHS接続

Q.9 周辺機器に関する相談の場合
機器名（製品名）：
メーカー名：

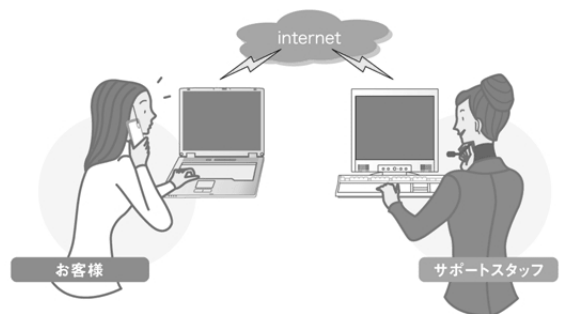
2 遠隔支援サービス

URL：http://dynabook.com/assistpc/remote/index_j.htm

「遠隔支援サービス」は、お客様のパソコン画面をサポートスタッフがインターネット経由で拝見しながら、技術サポートを行うサービスです。実際のパソコン操作は、サポートスタッフからの電話とお客様のパソコンに表示されるマーカの指示に従い、お客様ご自身で行っていただきます。

メモ

- 本サービスの利用を希望される場合は、事前に東芝PCあんしんサポートの技術相談窓口にご相談をお願いします。ご相談されずに本サービスを利用することはできません。
- 画面の画像情報を通信するためにブロードバンド回線（ADSLなど）が必要となります。また、電話にてサポートを行うため、インターネットと同時に電話が接続できることも必須となります。
- 本サービスでは、画面情報のみ送信されます。画面に表示されない限り、スタッフがパソコン本体に保存されている情報を見ることはできません。また、本サービスはセキュリティ対策を行っております。情報は暗号化されて送られ、個人情報の漏えいなどのおそれはありません。
- 本サービスでは、お客様のパソコンに操作案内用のマーカを表示するためのデータを送りますが、お客様のパソコンの内部データを書き換えることは一切ありません。
- 本サービスは登録が不要です。同意事項を了承いただくことで、利用できます。本サービスは無償サービス*です。

＊ インターネットに接続するための費用などは、お客様の負担となります。

お客様
電話やマーカなどによる案内に従い、お客様ご自身でパソコンを操作していただきます。

サポートスタッフ
お客様のパソコンの画面をサポートスタッフ側で拝見します。その画面を見ながら、的確な操作方法を電話でお伝えします。

④ 修理に出す

パソコンの修理のお申し込みは、東芝PCあんしんサポートの修理相談窓口に連絡してください。
修理のお申し込み方法には、次の3つがあります。

お申し込み方法

■インターネット

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm

からお申し込みください。

■FAX

「修理依頼シート」（同梱の『東芝PCサポートのご案内』に記載）に必要事項を記入のうえ、

FAX 043–278–8137 に送付してください。

＊FAX番号は、おまちがえのないよう、お確かめのうえおかけください。

「修理依頼シート」は当センタのホームページ

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm

からも印刷できます。

■電話

全国共通電話番号

0120-97-1048

（通話料・電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。
修理に関するご相談は、アナウンスの後で②をプッシュしてください。

修理相談窓口 受付時間：9:00～22:00
（年末年始12/31～1/3を除く）

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。
その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

ピックアップサービス

修理の際は、簡単・便利な「ピックアップサービス」をご利用ください。
輸送業者がパソコン輸送専用の梱包箱を持参してご自宅まで伺い、面倒な梱包から引き取り、修理完了後の納品まで行います。
※「保証修理」「有料修理」ともに「ピックアップサービス」料金は「無料」です。

【お申し込みの際、必ずご確認ください】

- 保証期間中に故障した場合、保証書に記載の「保証修理規定」に従い、無料修理をさせていただきます。
- 修理依頼の際は、記憶装置内の内容は保証いたしません。必ずバックアップをお取りください。また、修理にともなうハードディスクの修理・データの初期化（標準出荷状態）の際は、記憶装置内の内容が消去されることをあらかじめご了承ください。
- その他詳細につきましては、当センタのホームページ（http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm）に記載の「修理規約」をご覧ください。
- お客様のプライバシー・個人情報の保護については、「個人情報保護方針」（http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm）をご覧ください。

役立つ操作集

東芝PCあんしんサポートについて

「東芝PCあんしんサポート」では、下記の電話番号よりご相談を承っております。

全国共通電話番号

0120-97-1048

（通話料・電話サポート料無料）

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。
その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

おかけいただくとアナウンスが流れます。アナウンスに従ってご希望の窓口に該当する番号をプッシュしてください。

① 使いかた・購入前のご相談窓口
受付時間：9:00～19:00（年中無休）

② 修理に関するご相談窓口
受付時間：9:00～22:00
（年末年始12/31～1/3を除く）

③ 不足品などのご相談窓口
受付時間：10:00～18:00
（年末年始12/31～1/3を除く）

2

トラブル解消によく使う操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。

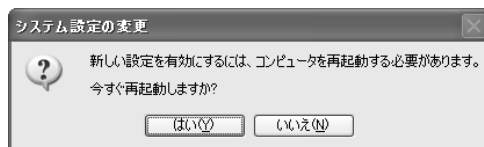
メモ コントロールパネルを開くには

- コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。
  コントロールパネルを開くには、［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。
  ［コントロールパネル］画面には、目的のカテゴリを選択する画面（カテゴリ表示）と、すべてのオプションから選択する画面（クラシック表示）の2種類があります。
  2つの画面は互いに切り替えることができます。
  ＊ 本書では、カテゴリを表示しているという前提で、操作の説明をしています。

① パソコンを再起動する

再起動とは、1度パソコン本体の電源を切り、自動的に再び電源を入れることです。設定を変更した後に、設定を有効にするにはパソコンの再起動が必要な場合があります。システムが次に起動したときから設定が適用されます。

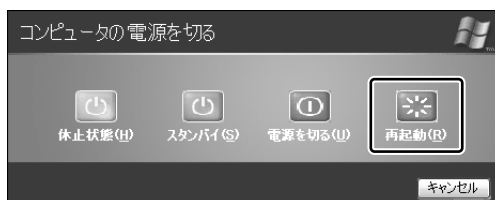
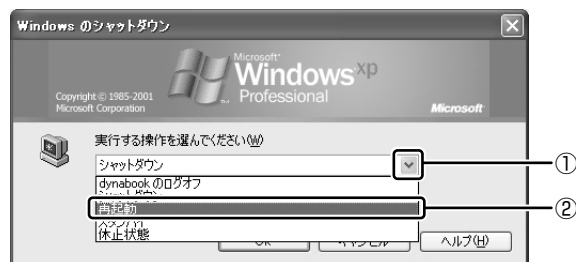
1 「再起動しますか？」と表示された場合の方法

設定を変更した後に、次のようなメッセージが表示される場合があります。

1 ［はい］ボタンをクリックする

パソコンが再起動します。

2 自分で再起動する方法

1 ［スタート］①→［終了オプション］をクリックする②

2 ［再起動］をクリックする

【 XP Pro モデルでドメインに参加している場合 】
［Windows のシャットダウン］画面で ボタンをクリックし①、［再起動］を選択し②、［OK］ボタンをクリックしてください。

パソコンが再起動します。

問題の切り分け方法

① パソコンの情報を見る／状態を診断する

使用中のパソコンにどのような機能があるか、また調子が悪い場合はどこに問題があるのかを「東芝 PC 診断ツール」で調べることができます。

1 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC 診断ツール］をクリックする

「東芝 PC 診断ツール」が起動します。

2 パソコンを診断する

1 ［診断ツール］タブで診断する項目をチェックし①、［診断開始］ボタンをクリックする②

確認のメッセージが表示されます。

2 ［はい］ボタンをクリックする

チェックした項目を上から順番に診断します。
チェック項目によっては、診断中にメッセージが表示されますので、確かめて［はい］または［いいえ］／［OK］または［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
診断が終了すると、メッセージが表示されます。［OK］ボタンをクリックしてください。結果が表示されます。
問題があった場合は、［ヘルプ］ボタンをクリックしてください。ヘルプファイルが起動し、主な解決方法が表示されます。
［ハードディスク］を診断すると、フォーマットされていない装置は「問題あり」と表示されます。必要に応じて、フォーマットしてください。

3 診断結果を保存する

診断結果をファイルに保存できます。

1 ［ファイルに保存］ボタンをクリックする

2 ファイルの保存場所とファイル名を指定し、［保存］ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 ［はい］ボタンをクリックする

指定した場所にファイルが保存されます。

4 システムに関する情報を表示する

1 ［東芝 PC 診断ツール］画面で、［基本情報］タブをクリックする

本製品の基本情報が表示されます。

表示される内容は、「東芝 PC 診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、パソコン本体を起動しなおすと変更後の設定内容が表示されます。ただし、［CPU］の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

ヘルプの起動方法

1 「東芝 PC 診断ツール」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

② システム構成ユーティリティを使う

Windows XP の動作が不安定な場合や動きが遅い場合、常駐アプリケーションや不要なサービスが影響を与えている場合があります。
「システム構成ユーティリティ」を使用し、これらのプロセスを停止することで影響の有無を確認することができます。

お願い 操作にあたって

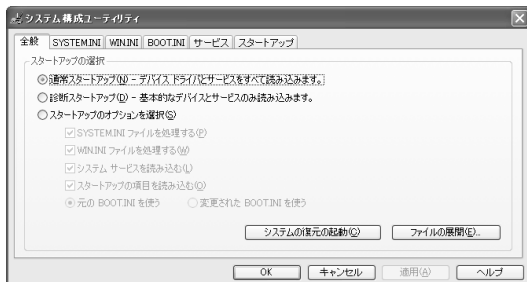
- 表示されるサービスやプログラムの中には、Windows の動作に必要不可欠なものもあり、停止すると、Windows が正常に機能しなくなる場合があります。操作が不安な場合は東芝 PC あんしんサポートまでお問い合わせください。

システム構成ユーティリティの操作方法

1 **［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする**

2 **「MSCONFIG」と入力する**

3 **［OK］ボタンをクリックする**

次の画面が表示されます。

4 **［診断スタートアップ］を選択し、［OK］ボタンをクリックする**

Windowsを再起動します。
必要最低限のシステム構成でWindowsが起動しますので、動作の確認を行います。
［サービス］タブ、［スタートアップ］タブを開くと、一つ一つのサービスや、プログラムを選択することができます。
チェック（☑）をはずしたプロセスは、次回Windows起動時より常駐しなくなります。不要なサービスやプログラムを選択して停止することができます。

③ 正常な状態で起動しなおす

周辺機器のドライバの更新中やシステム（OS）のアップデート中にトラブルが発生した場合、次の手順を行うと、前回正常に起動したときの構成でWindowsを起動できます。

1 操作方法

1 **F8キーを押しながら、電源を入れる**

2 **画面に「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、F8キーから指をはなす**

「Windows拡張オプションメニュー」が表示されずにオペレーティングシステムの選択画面が表示された場合は、もう1度F8キーを押すと、「Windows拡張オプションメニュー」が表示されます。

3 **↑または↓キーで［前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）］を選択し、ENTERキーを押す**

4 **［Microsoft Windows XP Professional］または［Microsoft Windows XP Home Edition］が反転していることを確認し、ENTERキーを押す**

前回正常に起動したときの構成でWindowsが起動します。場合によっては、起動までに時間がかかります。

役立つ操作集

回復コンソールについて

Windows XPに重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。
回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用方法は［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

［回復コンソールのインストール］

①［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする
②「C:¥WINDOWS¥I386¥WINNT32.EXE /cmdcons」と入力する
③［OK］ボタンをクリックする
［Windows セットアップ］画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。
「ファイル XXXX....を読み込めなかったため、アップグレードオプションは現在利用できません。....」というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。回復コンソール開始の確認画面が表示されます。
インターネットに接続できない場合は、更新されたWindowsセットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続行することができます。

［回復コンソールの操作方法］

①電源スイッチをスライドする
パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
通常、システムを起動する場合は、「Microsoft Windows XP Professional」または「Microsoft Windows XP Home Edition」を選択してください。
②「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、ENTERキーを押す
③コマンドを入力する
「C:¥WINDOWS>_」が表示されているときに「help」と入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。
回復コンソールを終了したい場合は、「exit」と入力してください。パソコンが再起動します。

Q&A集

メモ

- SXシリーズでは、《オンラインマニュアル》にQ&A集が用意されていますので、あわせてご覧ください。

電源を入れるとき／切るとき

Q 電源スイッチをスライドしても反応しない

A 電源スイッチをスライドする時間が短いと電源が入らないことがあります。

Power LEDが緑色に点灯するまでスライドし続けてください。

A 電源スイッチがロックされている可能性があります。

スイッチ／ボタン ロックをオフ側にスライドし、ロックを解除してから電源スイッチをスライドしてください。

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery LEDがオレンジ色に点滅しているとき）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について
「6章 バッテリ駆動で使う」

（DC IN LEDがオレンジ色に点滅しているとき）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。

バッテリパックやACアダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
「6章 バッテリ駆動で使う」

参照 ACアダプタの接続
「1章 1 Windowsを使えるようにする」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入っているメディアと取り替えるか、またはドライブからメディアを取り出してから、何かキーを押してください。
それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。強制終了の方法は、「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q ［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない」を確認してください。
強制終了した後、F12キーを押しながら電源を入れてください。表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を←→キーで選択し、ENTERキーを押すと、システムが起動します。

A F8キーを押しながら電源を入れると、正常な状態で起動しなおすことができます。

参照 詳細について
「本章 3-③ 正常な状態で起動しなおす」

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。
次の手順で設定を変更できます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
②設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
③［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチをスライドしなくても自動的に電源を入れる機能です。
次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［何もしない］を選択する
③［OK］ボタンをクリックする

Q ［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない

A CTRL＋ALT＋DELキーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

①CTRL＋ALT＋DELキーを押す
［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。
②［シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、ALT＋Sキーを押してください。
③［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↑キーで［シャットダウン］を選択し、ENTERキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

● ドメイン参加していない場合

①CTRL＋ALT＋DELキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
②メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、ALT＋Uキーを押してください。
③［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A CTRL＋ALT＋DELキーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを５秒以上スライドしてください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

A バッテリ駆動で使用している場合、バッテリの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用の AC アダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について
「6 章 バッテリ駆動で使う」

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LED が緑色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチをスライドしないでください。
SHIFTキーやCTRLキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10 秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチをスライドしてください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
②［東芝省電力］をクリックする
③［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
④［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
⑤［OK］ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンを終了する場合は、［スタート］→［終了オプション］または［シャットダウン］をクリックします。

パソコンが処理をしている最中（Disk LED が点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。
正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

参照 エラーチェックの方法
「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。
次の手順でプログラムを削除できます。

①［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［開く］をクリックする
②［プログラム］アイコンをダブルクリックする
③［スタートアップ］アイコンをダブルクリックする
［スタートアップ］画面が表示されます。
④削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを削除する］をクリックする
［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。*1
⑤［はい］ボタンをクリックする
⑥［スタートアップ］画面の［閉じる］ボタンをクリックする

*1 ［ショートカットの削除の確認］画面が表示されることもあります。その場合は［ショートカットの削除］ボタンをクリックし、手順⑥に進んでください。

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。
次の手順で設定を変更できます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
②設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
③［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

Q パソコンが休止状態にならない

A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

A ［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。

［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法 「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

A 休止状態の設定になっていない可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［電源オプション］をクリックする
［電源オプションのプロパティ］画面が表示されます。
②［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
③［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について 「1章3-② 休止状態」

Q F12キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブを変更できない

A 「東芝パスワードユーティリティ」の設定が変更されている可能性があります。

スーパーバイザパスワードを設定している状態で、F12キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［HWセットアップ／BIOSセットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。
チェックをはずしていると、F12キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 スーパーバイザパスワード
「7章4-② スーパーバイザパスワード」

画面／表示

Q 画面に何も表示されない

（Power LEDが消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていないか、スタンバイまたは休止状態になっています。

電源スイッチをスライドしてください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power LEDが緑色に点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチをスライドしないでください。
SHIFTキーやCTRLキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

SHIFTキーやCTRLキーを押す、またはタッチパッドを操作してください。
ユーザ名選択画面、または［コンピュータのロックの解除］画面が表示されます。
以降の手順は、表示された画面によって異なります。

- ユーザ名選択画面が表示された場合
  ① ユーザ名をクリックする
  Windowsのログオンパスワードを設定していない場合は、インスタントセキュリティ機能が解除されます。
  Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
  ② パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押す
- ［コンピュータのロックの解除］画面が表示された場合
  ① ユーザ名を入力する
  ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する
  Windowsのログオンパスワードを設定していない場合は、何も入力しないでください。
  ③［OK］ボタンをクリックする

参照 Windowsログオンパスワード
『ヘルプとサポート センター』

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について
「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A FN＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1

FN＋F6キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。FNキーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「東芝省電力」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳細は、「東芝省電力」のヘルプを参照してください。購入時の設定では、AC アダプタの接続時の明るさレベルは「レベル 8」（最高）に、バッテリ駆動時の明るさレベルはバッテリの残容量に応じて「レベル 4」から「レベル 2」に変化するように設定されています。
次の手順で設定を変更してください。＊1

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブで［画面の明るさ］を設定する
［設定］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。［解除］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとの設定は無効になります。
④［OK］ボタンをクリックする

A 設定を変更しても明るくならない場合は、ディスプレイに取り付けられているバックライト用 LED が消耗している可能性があります。

バックライト用 LED は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。バックライト用 LED のみの交換はできませんので、本体液晶ディスプレイの交換となります。本体液晶ディスプレイは有寿命部品（有償修理）となります。＊2

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。
＊2 有寿命部品については「10 章 4 アフターケアについて」をご覧ください。

Q 画面の表示や色がはっきりしない

A 本体液晶ディスプレイ（画面）の解像度をパソコン本体のディスプレイサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。

次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［画面］をクリックする
②［設定］タブで設定を変更する
- 表示がはっきりしない場合
［画面の解像度］をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
［画面の色］を［最高（32 ビット）］に設定してください。

③［OK］ボタンをクリックする

Q 画面の表示が遅い

A 画面の解像度または色数を高く設定していると、アプリケーションによっては表示が遅くなります。

［画面のプロパティ］で［画面の解像度］や［画面の色］を変更してください。

Q 外部ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。

パソコンと電気製品との距離を離してください。

Windows

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

①［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリック→［日付と時刻を変更する］をクリックする
②［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
③デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う
④［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。

パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。

保守サービスに連絡してください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力」の設定で、CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。

また、ご購入時の状態のプロファイルは、AC アダプタを接続しているときは［AC 最適化］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。
CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブの［CPU の処理速度］をスライダーバーで設定する
数字が大きいほど、高速で処理します。
Core モデルでは、先に［基本設定］タブの［CPU の制御方法］で［自動］または［固定］をチェックしてください。
④［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力プロファイルについて
「6 章 2 省電力の設定をする」

A パソコンの CPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。

しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。
CPU が高温になった場合の対処方法については「東芝省電力」で設定できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブの［CPU の熱制御方法］をスライダーバーで設定する
④［OK］ボタンをクリックする
「東芝省電力」で設定していても、パソコン使用中の CPU の過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコン本体を放置してから使用してください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。
定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。

不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

バッテリ駆動で使用するとき

Q Battery LED が点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存しておいてください。

参照 バッテリの充電方法
「6 章 1-② バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。

もう 1 度充電してください。
バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について
「6 章 1-① バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。復帰させるには、電源スイッチをスライドしてください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

キーボード

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（ ⌛ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

(FN)+(F9)キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

参照 詳細について 「3章 3-②
タッチパッドをもっと使いやすくしよう」

Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。

(ろ) を押すと￥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

Q ひらがなや漢字の入力ができない

A 日本語入力システムが起動していない状態になっています。

(半／全)キーを押してください。日本語入力システムが起動すると、Microsoft IMEツールバーが表示されます。

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

(SHIFT)+(CAPS LOCK英数)キー	大文字ロック状態
(ALT)+(カナ／かな)キー	ローマ字入力／かな入力の切り替え
(FN)+(F10)キー	アロー状態
(FN)+(F11)キー	数字ロック状態

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバを再設定してください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
②［システム］をクリックする
［システムのプロパティ］画面が表示されます。
③［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
④［キーボード］をダブルクリックする
⑤表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
⑥［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［ハードウェアの更新ウィザード］が起動します。
⑦［いいえ、今回は接続しません］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑧［一覧または特定の場所からインストールする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑨［検索しないで、インストールするドライバを選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑩［互換性のあるハードウェアを表示］のチェックをはずす
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。
⑪［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語PS/2キーボード（106／109キー Ctrl＋英数)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［ドライバの更新警告］画面が表示されます。
⑫［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。
⑬［完了］ボタンをクリックする
⑭キーボードのプロパティ画面で［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
⑮［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A [スタート] メニューから再起動してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

A [スタート] メニューから再起動できない場合は、(CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

● ドメイン参加している場合

①(CTRL)+(AL)+(DEL)キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
②[シャットダウン] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(ALT)+(S)キーを押してください。
③[再起動] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(↑)キーや(↑)キーで [再起動] を選択し、(ENTER)キーを押してください。再起動します。

● ドメイン参加していない場合

①(CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
②メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(ALT)+(U)キーを押してください。
③[再起動] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(R)キーを押してください。再起動します。

A (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上スライドしてください。

電源が切れます。この場合、保存されていないデータは消失します。
しばらくしてから電源を入れ直してください。
強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

参照 エラーチェックの方法
「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスにご相談ください。

保守サービスへの相談は『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q タッチパッドやマウスを動かしても 画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（ ⌛ ）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

(FN)+(F9)キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 タッチパッドについて
「3 章 3 ポインタを動かす／ファイルを開く」

サウンド機能

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のデジタルボリュームで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。

(FN)+(ESC)キーを押してミュートを解除してください。

A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする
②［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。
③［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を正しく設定する
④［OK］ボタンをクリックする

上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってサウンドドライバを再インストールしてください。

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

インターネット

Q ホームページが表示できない

A ホームページが使用しているプロトコルがパソコンの設定と一致していない可能性があります。

ご購入時は、HTTP1.0 プロトコルを使用しているホームページには接続できない設定になっています。次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［ネットワークとインターネット接続］をクリックする
②［インターネットオプション］をクリックする
［インターネットのプロパティ］画面が表示されます。
③［詳細設定］タブで［プロキシ接続で HTTP1.1 を使用する］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

ただし、［プロキシ接続で HTTP1.1 を使用する］チェックをはずすと、利用できないインターネット接続サービスもありますので、接続先によって設定を変更してください。

A Microsoft® VirtualMachine for Java を必要とするホームページの可能性があります。

本製品には Microsoft® VirtualMachine for Java は搭載されていないので、Microsoft® VirtualMachine for Java を必要とする一部のホームページは表示できません。

Q 「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています…」というようなメッセージが書いてある、［情報バー］画面が表示された

A Internet Explorer を使用するアプリケーションを起動しているとき、セキュリティ保護のためブロックされていると、［情報バー］画面が表示され、画面が正常に表示されない場合があります。

この場合、アプリケーションで使用しているコンテンツがセキュリティ保護のためブロックされています。次の手順で「危険性の説明」をご覧ください。

①［情報バー］画面の「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください…」をクリックする
②［危険性の説明］をクリックする

コンテンツの危険性に関する説明が表示されます。必ず内容をご確認ください。

通信機能

Q 無線 LAN 機能が使えない

＊無線 LAN モデルのみ

無線 LAN 機能が Off になっている可能性があります。

次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- ConfigFree でデバイスを有効に切り替えてください。

  次の操作を行ってください。

  ① 通知領域の［ConfigFree］アイコンをクリックする
  「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。
  ② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから［有効］をクリックする

周辺機器

周辺機器については「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

［ハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

参照 「5章 1-① ドライバをインストールする」

A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

接続ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 周辺機器の接続について
「5章 1 周辺機器を使う前に」

A システム（OS）に対応していない可能性があります。

周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

Q 増設メモリが認識されない

A メモリを増設しても「東芝PC診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。

「5章 2 パソコンの動作をスムーズにする」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう1度取り付けてください。

Q 外部記憶メディアをセットしても自動的に起動しない

A 自動起動に対応している外部記憶メディアでも、自動的に起動しない場合があります。

起動しているすべてのアプリケーションを終了し、外部記憶メディアをセットし直してください。それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

①［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする
②外部記憶メディアのアイコンをダブルクリックする

A 自動起動に対応していない外部記憶メディアを挿入している可能性があります。

自動起動に対応していない外部記憶メディアの場合は、自動起動できません。『外部記憶メディアに付属の説明書』などで確認してください。

PCカード

Q PCカードが認識されない

A PCカードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PCカードの接続について
「5章 6-② PCカードを使う」

Q PCカードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PCカードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。

使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

A 本製品はWindows専用モデルです。コマンドプロンプト上でのPCカードの使用はサポートしていません。

Q PCカードは認識されるが使用できない

A IRQが不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［システム］をクリックする
②［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
③使用しない装置の種類をダブルクリックする
④表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする
⑤メッセージが表示されたら［はい］ボタンをクリックする
⑥［デバイス マネージャ］を閉じる
⑦［システムのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

USB対応機器

Q USB対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について 「5章 3 USB対応機器を使う」

A 電源を入れる必要のある機器の場合、USB対応機器の電源が入っているかどうか確認してください。

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器を認識していない可能性があります。

Windowsを再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順でインストールしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。
③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

Q 休止状態から復帰後、USB対応機器が正常に動作しない

A 休止状態に対応していないUSB対応機器を接続している可能性があります。

USB対応機器をUSBコネクタから取りはずし、もう1度接続してください。
それでもUSB対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

アプリケーション

Q アプリケーションが使えない

A 正しくインストールしていない可能性があります。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。

アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

A メモリ容量が足りない可能性があります。

アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。
また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 メモリの増設について
「5章 2 パソコンの動作をスムーズにする」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① (CTRL)＋(ALT)＋(DEL)キーを押す
［Windowsタスクマネージャ］画面が表示されます。
［Windowsのセキュリティ］画面が表示された場合は、［タスクマネージャ］ボタンをクリックしてください。
② ［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションをクリックする
③ ［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
④ ［Windowsタスクマネージャ］画面で［閉じる］ボタン（ ✕ ）をクリックする

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは再インストールできます。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってアプリケーションを再インストールしてください。

指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう一度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「7章 5 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「7章 5 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

Q 指にケガをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「7章 5 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について 「7章 5 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、他の指で登録してください。

参照 詳細について 「7章 5 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第一関節がくるように置き、スライドするときはゆっくりと一定の速さでスライドしてください。それでも認証できない場合は、指をスライドさせる速さを調整してください。

参照 詳細について 「7章 5 指紋認証を使う」

TPM

＊ TPM搭載モデルのみ

Q 誤ってTPMを初期化してしまった

A 緊急時バックアップアーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルを使用して、TPMの設定を復元してください。

参照 TPM 『Trusted Platform Module取扱説明書』

Q TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、次の項目を実行または確認してください。

- ハードディスクドライブの必要なデータをバックアップにとる
- PSDの内容を、別途外部記憶メディアにバックアップをとる
- ハードディスクドライブに緊急時バックアップアーカイブファイルを作っている場合は、外部記憶メディアにバックアップをとる
- Security Platform初期化ウィザード設定時に作成した緊急時復元用トークンファイルがあるか確認する
- 控えておいた「所有者パスワード」、「緊急時復元用トークン」用のパスワードを確認する

なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。
交換されたり、TPMが初期化された場合、Windowsにログオンした後（ハードディスクドライブには障害や問題がなくWindowsへログオンできる場合)、通知領域の［Security Platform］アイコンにTPMが初期化されていない内容のメッセージが表示されます。
その場合は、緊急時バックアップアーカイブファイル、緊急時復元用トークンファイルを使って、TPMの設定を復元してください。

参照 TPM 『Trusted Platform Module取扱説明書』

保守サービスについては、「10章 4 アフターケアについて」と『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

メッセージ

Q 画面に「Password=」と表示された

A パスワードの入力、またはトークンによる認証が必要です。

次のいずれかの操作を行ってください。

- パスワードを入力し、(ENTER)キーを押す
  あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存しておくと、パスワードを忘れた場合に確認できます。他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。
- あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」で作成したトークンをSDカードスロットに挿入し、認証を行う

上記の方法を実行できない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードについて
「7章 4 パスワードセキュリティ」

Q 電源を入れたとき、「Swipe finger to authorize access, or press BACKSPACE to enter the BIOS password」と表示された

A 指紋認証が必要です。

指紋を登録し、「指紋認証ユーティリティ」でパワーオンセキュリティ機能を有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示される「Passward =」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。
認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、または(BACKSPACE)キーを押すと、「Password =」が表示されます。
指紋認証について詳しくは、「7章 5 指紋認証を使う」または指紋認証ユーティリティのヘルプを参照してください。

Q 「New Password=」と表示された

A 新しいパスワードに登録／変更してください。

「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。

・ユーザパスワードが登録されていない場合
　設定後の1回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
　ユーザパスワードの登録を行ってください。

・ユーザパスワードが登録されている場合
　設定後の起動時の「Password=」で、ユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。

新しいユーザパスワードに変更してください。
「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。
スーパーバイザパスワードについて詳しくは、「7章 4-② スーパーバイザパスワード」を参照してください。

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LEDを確認してください。必要に応じて(SHIFT)＋(CAPS LOCK 英数)キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のまま増設メモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。
次の操作を行ってください。

①電源スイッチを5秒以上スライドし、パソコンを強制終了する
②再び電源スイッチをスライドして、パソコンを再起動する
　「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。
③「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、(ENTER)キーを押す
　Windowsが起動します。

Q 「Check system. Then press [F1] key.」と表示された

A 時計用バッテリが不足しています。

時計用バッテリは、ACアダプタを接続し、電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリについて
「6章 バッテリ駆動で使う」

ACアダプタを接続後、次の手順で、BIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

①(F1)キーを押す
「Enter Date : ..../../..」と表示されます。
②日付を入力し、(ENTER)キーを押す
「Enter Time」と表示されます。
③時刻を入力し、(ENTER)キーを押す
「Enter SETUP press [F1] key, or Load default setting press [F2] key」と表示されます。
④(F2)キーを押す
Windowsが起動します。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Updateやアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について
「1章 1-③-日付と時刻の設定」

Q 休止状態から復帰したとき、「休止モードを準備しています」と表示された

A ［コントロールパネル］の［ユーザーアカウント］→［ユーザーアカウント］→［ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する］の［ようこそ画面を使用する］がチェックされていると、休止状態から復帰したときにメッセージが表示される場合があります。

ログオンしたいユーザ名をクリックしてください。正常にログオンできます。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。

電源を切る前の状態は再現できません。
［復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます］を選択し、(ENTER)キーを押してください。
Windowsが起動します。

Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」
- 「NTLDR is missing
Press any key to restart」

A フロッピーディスクなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。

次のいずれかの操作を行ってください。

- **コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える**
(ALT)+(ENTER)キーを押してください。
- **コマンドプロンプト画面を終了する**
① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
② (ENTER)キーを押す

Q 「パソコン本体の揺れを検出しました。一時的にハードディスクのヘッドを安全な位置に退避します。」と表示された

A パソコン本体に加わった振動・衝撃およびその前兆を検出し、ハードディスクが損傷する危険性を軽減する機能が働きました。

［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じてください。
この機能は東芝HDDプロテクションといい、パソコンの使用状況にあわせて検出レベルを設定できます。

参照 東芝HDDプロテクション
「3章 4-② 東芝HDDプロテクションについて」

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

その他

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

①［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする
②（C：）ドライブをクリックする
③メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする
④［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする
⑤［チェック ディスクのオプション］で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする（☑）
⑥［開始］ボタンをクリックする
チェックには時間がかかります。
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

参照 セーフモードについて
『ヘルプとサポート センター』

Q 「東芝PC診断ツール」で診断したら、ハードディスクに「問題あり」と表示された

A 「東芝PC診断ツール」で「ハードディスク」を診断すると、フォーマットされていない装置は「問題あり」と表示されます。

必要に応じて、フォーマットしてください。

Q パソコン本体からカリカリと変な音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。

パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入した販売店または保守サービスまで連絡してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。
次の方法で調整してください。

- パソコン本体のデジタルボリュームで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照 デジタルボリューム、ボリュームコントロールについて
「3章 6-① スピーカの音量を調整する」

Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

A モジュラーケーブルがテレビ・ラジオの音を拾っている可能性があります。

モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、モジュラーケーブルを延長せずに使用して確認してください。
また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。
それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。契約している電話会社に相談してください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のノイズフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 アプリケーションの強制終了の方法
「本節 アプリケーション -
Q アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

参照 Windows の強制終了の方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき -Q ［シャットダウン］や［終了オプション］から電源が切れない」

強制終了後、パソコン本体の電源を入れてください。

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

ウイルスチェックの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカへお問い合わせください。

参照 アプリケーションの問い合わせ
「本章 5 問い合わせ先」

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて
「本章 1-④ 修理に出す」、
『東芝 PC サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「本章 5 問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 周辺機器の問い合わせ先
『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合とで、廃棄方法が異なります。
また、ハードディスク上のデータを消去する必要があります。

詳しくは、「10 章 5 捨てるとき／人に譲るとき」を参照してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● ACアダプタ

本製品のACアダプタは、100～240Vの電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。
本製品に同梱されているACアダプタは基本的に世界中の国／地域*1で使用できます。

＊1　一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグからACアダプタまでのケーブル）は、日本の法令、安全規格に適合しています。
海外でお使いになる場合は、使用電圧やプラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 ACアダプタ、電源コード、電源プラグについて「1章 1-① 電源コードとACアダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線LAN

国／地域によっては、モデムや無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。本書の「付録」やカタログ、または対応する国／地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。
それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、内蔵モデムや無線LAN機能は使用せず、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用してください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するための変換プラグ（市販品）が必要です。東芝製オプションはありません。各国／地域で法令・規格に適合したモジュラーケーブルや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法「4章 1-②-3 海外でインターネットに接続するときには」

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- Officeパッケージ*1*2
- 保証書

リカバリする必要が生じたときのために、Office Personal 2003*1とOffice OneNote 2003*2のパッケージ一式をお持ちください。本製品はハードディスクからリカバリできますが、これらのアプリケーションは同梱のCD-ROMからリカバリする必要があります。

＊1　Office搭載モデルのみ
＊2　OneNote搭載モデルのみ

参照 リカバリについて「9章 1 リカバリとは」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*1をお持ちください。
ILW（International Limited Warranty）は海外の所定の地域*2でILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書がILWの保証書を兼ねています。
ILWについての詳細は、次のホームページも参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

＊1　保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。
＊2　ILW対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス（ローミングサービス）を行っていれば、通常通りにメール送受信が可能です。
ご出発前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

＜必要な書類など＞

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の該非判定書」という書類が必要な場合がありますが、本パソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合、該非判定書は基本的には必要ありません。ただし、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合には、輸出許可が必要となる場合があります。
また、パソコンを米国政府の定める輸出規制国に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。

パソコンを海外で使用する場合のより詳細な情報は、下記のホームページを参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/export/index_j.htm

5 問い合わせ先

－ OS ／アプリケーション －

＊ 2006 年 7 月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

① OS の問い合わせ先

Windows セキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows XP に関する一般的なお問い合わせは、東芝 PC あんしんサポートになります。

※当社製品で Windows Vista™ をご使用になる上での注意・制限事項を含めた最新情報は、dynabook.com サポート情報（http://dynabook.com/assistpc/）で順次公開をします。

② アプリケーションの問い合わせ先

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

- Adobe Reader
- ConfigFree
- Fn-esse
- Internet Explorer
- Java™ 2 Runtime Environment
- Microsoft Office OneNote
- Outlook Express
- PadTouch
- PC 引越ナビ
- TOSHIBA Recovery Disc Creator
- TOSHIBA Smooth View
- TPM
- Windows Media Player
- Windows Movie Maker 2
- 指紋認証ユーティリティ
- 東芝 HDD プロテクション
- 東芝 HW セットアップ
- 東芝 PC 診断ツール
- 東芝 SD メモリカードフォーマット
- 東芝コントロール
- 東芝省電力
- 東芝パスワードユーティリティ
- 東芝バッテリチェッカー
- 東芝ピークシフトコントロール
- 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ

以上のお問い合わせ先

東芝（東芝 PC あんしんサポート）

全国共通電話番号
：0120-97-1048
（通話料・電話サポート料無料）
おかけいただくと、アナウンスが流れます。
アナウンスに従って操作してください。
技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で(1)をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間
：9:00 ～ 19:00（年中無休）

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC あんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm）にてお知らせいたします。

- Microsoft Office Excel
- Microsoft Office Home Style+
- Microsoft Office Outlook
- Microsoft Office Word

以上のお問い合わせ先

マイクロソフト 無償サポート

〈TEL〉

ＴＥＬ ： 東京：03-5354-4500
　　　 ： 大阪：06-6347-4400

※ 次の情報をお手元に用意してご連絡ください。
郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID
詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。

〈受付時間・お問い合わせ回数〉

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日、日曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます）

回数 ： 指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）

回数 ： 4インシデント（4件のご質問）

無償サポートは4件までです。
あらかじめ、インシデント制などの詳細について、『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL ： http://support.microsoft.com/

※ 電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。

備考 ： マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。

答えてねっと ： http://www.kotaete-net.net/

- ウイルスバスター2006 のお問い合わせ先

トレンドマイクロ ウイルスバスターサービスセンター

受付時間 ：9:30～17:30
TEL ：0570-008326
ホームページ：http://www.trendmicro.co.jp/support/vb/index.asp

- 駅すぱあと のお問い合わせ先

株式会社ヴァル研究所
「駅すぱあと」ユーザーサポートセンター

受付時間 ：9:30～12:00、13:00～17:00
（土・日・祝祭日・指定日を除く）
TEL ：03-5373-3522
FAX ：03-5373-3523
E-mail ：support@val.co.jp
※ ユーザ登録されたお客様が対象になります。
ホームページ：http://ekiworld.net/

- goo スティック のお問い合わせ先

goo 事務局

受付時間 ：10:00～17:00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
TEL ：045-848-4190
E-mail ：info@goo.ne.jp
ホームページ：http://stick.goo.ne.jp/

- 駅探エクスプレス のお問い合わせ先

駅探エクスプレスサポート

受付時間 ：メールのため受付時間の制限はありません。
※ webmasterからの返信は、基本的に平日(10:00～18:00)の対応とさせていただいております。
また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
E-mail ：express-support@ekitan.com
ホームページ：http://express.ekitan.com/

- ゼンリンデータコム デジタル全国地図 its-mo Navi のお問い合わせ先

ゼンリンデータコム　お客様相談室

E-mail ：itsmo_navi@zenrin-datacom.net
ホームページ：http://www.its-mo.net/contactus/index.html

9章

リカバリをする

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリ」について説明しています。リカバリを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

1 リカバリとは

リカバリ（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元する作業です。ハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows ログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

次のような、どうしても他に方法がないときにリカバリをしてください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピュータウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない＊1
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝 PC あんしんサポートに相談した結果、「リカバリが必要」と診断された

＊1 アプリケーションが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

① リカバリをする前に確認すること

パソコンの動作がおかしいと感じたとき、次の方法を実行してみてください。リカバリをしなくても、状態が改善される場合があります。次の方法をすべて試してみても状態が改善されない場合に、リカバリを実行してください。

1 ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

本製品に用意されているウイルスチェックソフトなどを使って、ウイルスに感染していないかどうかを確認してください。ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。その際、ウイルス定義ファイル（パターンファイル）は、最新のものに更新しておいてください。場合によっては、ウイルスチェックソフトで駆除できないウイルスもあります。そのときは、リカバリを実行してください。

2 セーフモードで起動できるか実行してみる

Windows が起動できないときは、次のように実行してみてください。

1 F8キーを押しながら、電源を入れる

2 画面に「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、F8キーから指をはなす

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されずにオペレーティングシステムの選択画面が表示された場合は、もう 1 度F8キーを押すと、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

3 ［セーフモード］を選択し、ENTERキーを押す

最低限の機能で Windows を起動させることができます。これで起動できた場合は、リカバリをする前に「東芝 PC あんしんサポート」にご相談ください。

3 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

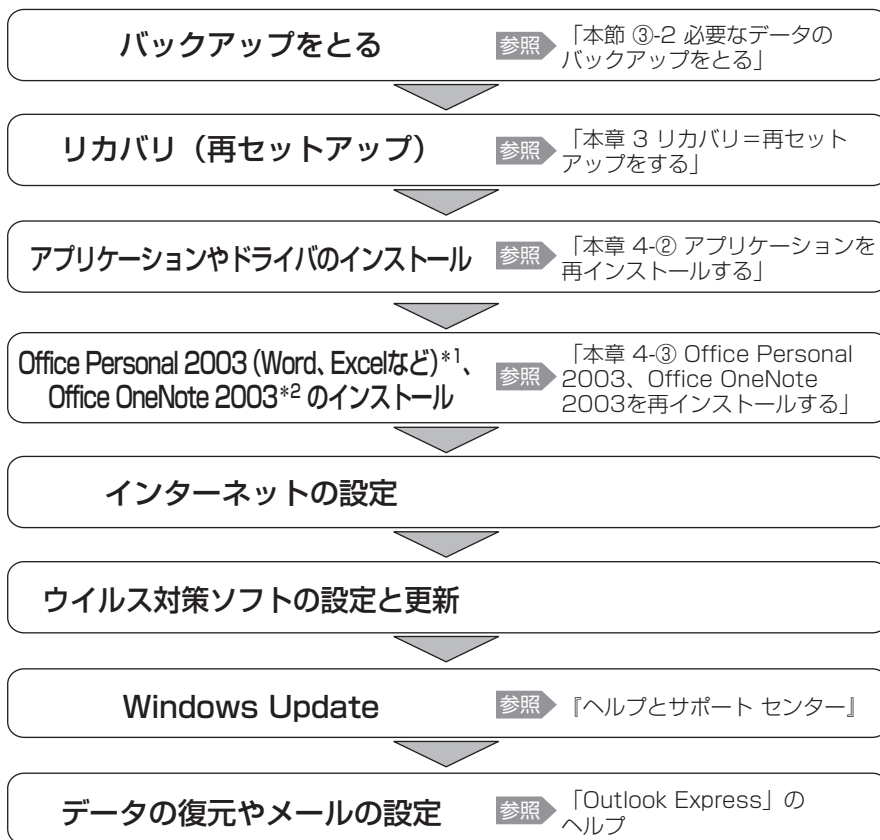
増設メモリや USB 対応機器など、購入後に追加で増設した機器が障害の原因となっている場合があります。それらを取りはずしてから、再度確認してみてください。また、電源関連のトラブルの場合は、バッテリをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してみてください。

参照 機器の取りはずし 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

4 ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、「8 章 パソコンの動作がおかしいときは」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも解消できないときに、リカバリをしてください。

② リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

＊1 Office 搭載モデルの場合
＊2 OneNote 搭載モデルの場合

③ リカバリをはじめる前にしておくこと

リカバリをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

1 準備するもの

- 『取扱説明書』
- 巻末のリカバリ（再セットアップ）チェックシートをコピーしたもの
- リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリする場合）
- リカバリ DVD-ROM（同梱されているモデルの場合）
- CD/DVD ドライブ（リカバリディスク、リカバリ DVD-ROM からリカバリする場合）

2 必要なデータのバックアップをとる

リカバリをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、ハードディスクに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、外部記憶メディア（CDやUSB フラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

- マイドキュメントのデータ
- デスクトップに保存したデータ
- インターネットエクスプローラのお気に入り
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- お客様がインストールされたアプリケーションのデータ
- お客様が作成されたフォルダとファイル

また、リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってからでは、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

3 アプリケーションのセットアップ用メディアを確認する

「Microsoft Office」や、購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンタなどの周辺機器のドライバは、リカバリ後にインストールする必要があります。
これらを再度インストールするためのメディア（CD など）が、お手元にあることを確認してください。

4 各種設定を確認する

インターネットや LAN の設定、Windows ログオン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、有償で購入した認証キーなどがセットアップ時に必要なアプリケーションは、それらの番号を控えておいてください。確認方法は各アプリケーションのヘルプや問い合わせ先にご確認ください。

5 音量を調節する

リカバリ後、Windows セットアップが終了するまで音量の調節はできません。
あらかじめ、デジタルボリュームで音量を調節してください。(FN)＋(ESC)キーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度(FN)＋(ESC)キーを押して元に戻しておいてください。

6 周辺機器をすべて取りはずす

増設メモリや USB 対応機器など、パソコン本体に取り付けている物は、AC アダプタのケーブル以外すべて取りはずしてください。
このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照 機器の取りはずし 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

7 リカバリDVD-ROM同梱モデルの場合

再セットアップには同梱のリカバリ DVD-ROM を使用するため、別売りの CD ／ DVD ドライブが必要です。
本製品では、次のドライブをサポートしています。

- DVD スーパーマルチドライブ　IPCS091A
- CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ　IPCS083B
- DVD-ROM ドライブ　IPCS092B

【 リカバリ DVD-ROM について 】
モデルによっては、リカバリ DVD-ROM が同梱されています。
リカバリ DVD-ROM は再セットアップのときに必要です。絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。また、リカバリ DVD-ROM は、リカバリ DVD-ROM が同梱されている本製品以外のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

リカバリディスクを作る

＊ S30 シリーズで、リカバリ DVD-ROM が同梱されていないモデルのみ

パソコン本体には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。
リカバリディスクがない状態で、リカバリツールが起動せず、リカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。

サポートするドライブ

リカバリディスクの作成には、別売りの CD ／ DVD ドライブが必要です。
本製品では、次のドライブをサポートしています。

- DVD スーパーマルチドライブ　　IPCS091A
- CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ　IPCS083B

リカバリディスクを作成できるメディア

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では、次のメディアを使用できます。
作成するメディアの種類は、[TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面の［ディスク構成］で確認できます

【DVD スーパーマルチドライブの場合】

DVD4.7GB

- DVD-R（DL 除く）
- DVD-RW
- DVD+R（DL 除く）
- DVD+RW

CD

- CD-R
- CD-RW

【CD-R/RW&DVD-ROM ドライブの場合】

- CD-R
- CD-RW

CD メディアは、650MB 以上の容量のものをご使用ください。
あらかじめバックアップ用のメディアを用意してください。[TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

お願い　メディアについて／メディアの使用推奨メーカ

＊使用できるメディアについては、『CD ／ DVD ドライブに付属の説明書』を確認してください。

- 推奨するメーカのメディアを使用してください。
- 書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
- 規格に準拠したメディアを使用してください。

お願い　リカバリディスクの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では DVD-RAM、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R)、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

お願い CD ／ DVD に書き込む前に

リカバリディスクの作成を行うときは、Windows 標準の CD 書き込み機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
リカバリディスクの作成を行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗した CD ／ DVD の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD ／ DVD に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 省電力機能について 「6 章 2 省電力の設定をする」

お願い 書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 CD／DVDドライブを接続する

1 **パソコン本体に、AC アダプタと電源コードを接続する**

2 **CD ／ DVD ドライブを接続する**

接続方法は『CD ／ DVD ドライブに付属の説明書』を確認してください。

2 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツール］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。

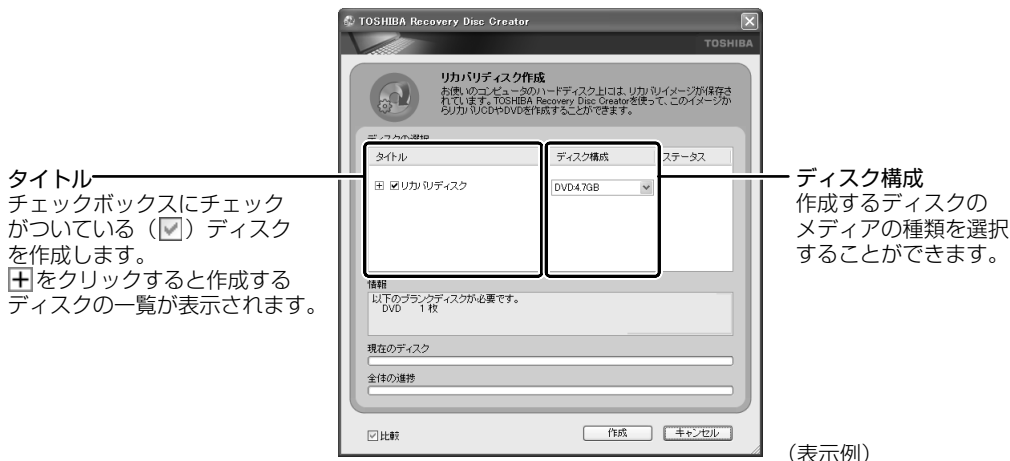
（表示例）

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

3 リカバリディスクを作成する

1 ［ディスク構成］でメディアの種類を選択する

作成するメディアの種類にあわせて、［DVD:4.7GB］または［CD］を選択してください。
選択項目が1種類しか用意されていない場合は、手順1は必要ありません。手順2に進んでください。

2 ［タイトル］で作成するディスクをチェックする（☑）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

3 メディアをセットする

4 ［作成］ボタンをクリックする

DVDメディアの場合は「リカバリDVD 1を作成します。」と表示されます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

リカバリディスクの作成が開始され、［現在のディスク］に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。
ディスクの作成が終了すると、メッセージが表示されます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。
ディスクの作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

6 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスク作成後は、忘れずに「XXXXXX ディスク XX」とレーベルをつけてください。リカバリをするとき、この番号どおりにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにレーベルをつけてください。

7 ［閉じる］ボタン（☒）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。
リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、「本章 3-③ リカバリディスクからリカバリをする」を参照してください。

ヘルプの起動

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツールヘルプ］をクリックする

参照 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」の問い合わせ先 「8章 5 問い合わせ先」

リカバリ=再セットアップをする

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。
本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード「7章4 パスワードセキュリティ」

① いくつかあるリカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

【 リカバリDVD-ROMが同梱されていないモデル 】

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- 作成したリカバリディスクからリカバリをする（S30シリーズのみ）

【 リカバリDVD-ROMが同梱されているモデル 】

- 同梱のリカバリDVD-ROMからリカバリをする

リカバリDVD-ROMが同梱されていないモデルの場合、通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリディスクからリカバリをする場合は、「本章2 リカバリディスクを作る」を確認して、リカバリディスクを用意してください。

② ハードディスクからリカバリをする

＊ リカバリDVD-ROMが同梱されていないモデルのみ

ハードディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■
ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）
パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元■
Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、そこに保存されていたデータは消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、Cドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 パソコンの電源を切る

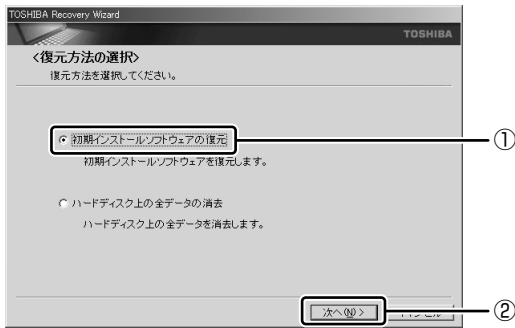
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの（0）（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

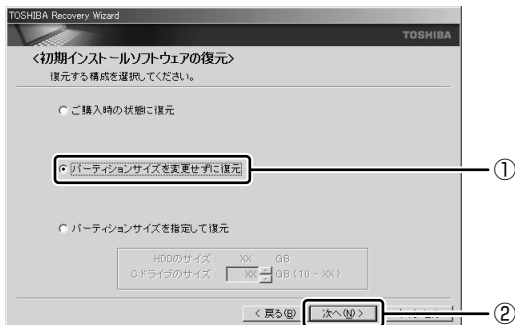
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password= 」と表示されます。
ユーザパスワードを入力して（ENTER）キーを押してください。
メッセージが表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

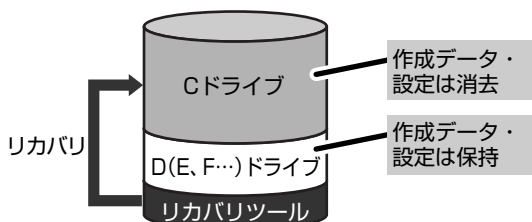
［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について 「10 章 5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・［ご購入時の状態に復元］ ：P.157
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.157

● 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは
「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

C ドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

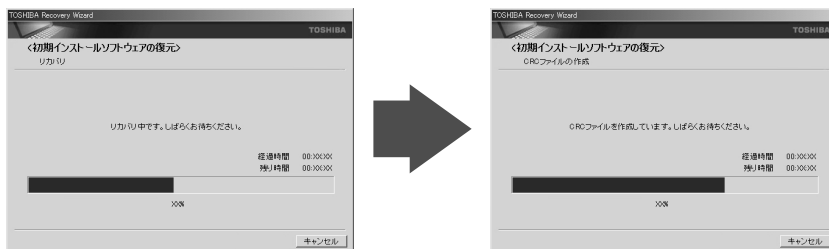
● リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの 100%を使用することはできません。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

9 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について 「1 章 1 Windows を使えるようにする」

● 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

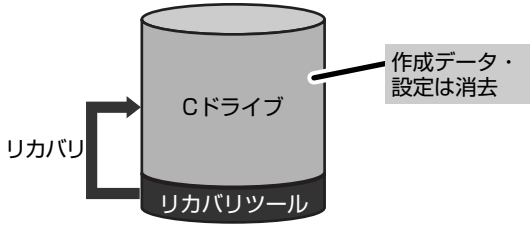
参照 詳細について 「本章 4 リカバリをしたあとは」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

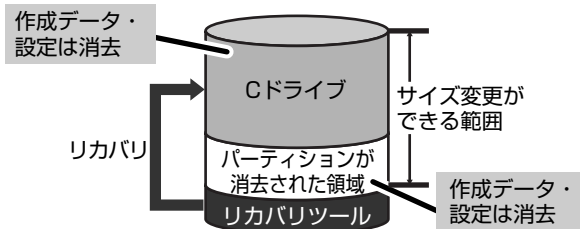
［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本節 ② ハードディスクからリカバリをする」の手順６の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

【 ご購入時の状態に復元 】
パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順６の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

【 パーティションサイズを指定して復元 】
ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。
C ドライブ以外の領域区分（パーティション） は消去され、一つの領域になります。その領域（ ）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理 「本章 4-①-1 パーティションを設定する」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

①［C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
②［次へ］ボタンをクリックする
　手順６の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

③ リカバリディスクからリカバリをする

＊ S30 シリーズで、リカバリ DVD-ROM が同梱されていないモデルのみ

作成したリカバリディスクでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■
ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■ Windows パーティションのみに復元■
ハードディスク全体を 1 つのパーティション（C ドライブのみ）にするため、全領域を使用できるようになります。なお、リカバリツールの領域は消去され、復元されません。購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。また購入後に作成したデータなどは消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■
パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。

■パーティションサイズを指定して復元■
C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は 1 つの領域になり、そこに保存されていたデータとリカバリツールの領域は消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、C ドライブには購入時と同じシステムが復元されます。

1 パソコン本体に、AC アダプタと電源コードを接続する

2 CD ／ DVD ドライブを接続し、リカバリディスクをセットする

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

3 パソコンの電源を切る

4 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる。

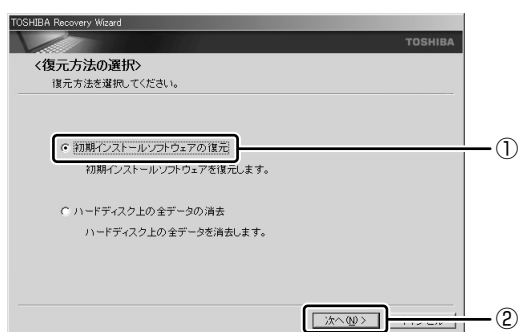
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password= 」と表示されます。
ユーザパスワードを入力して(Enter)キーを押してください。

5 (→)または(←)キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す

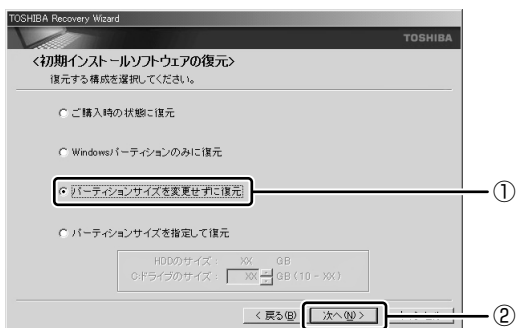
メッセージが表示されます。

6 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

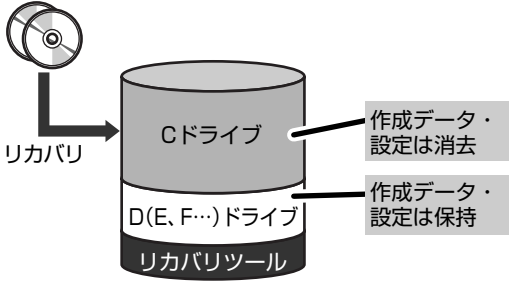
［復元方法の選択］画面が表示されます。

7 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について 「10 章 5- ② -5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

8 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・［ご購入時の状態に復元］ ：P.160
・［Windows パーティションのみに復元］：P.160
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.161

- 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは
  「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

C ドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

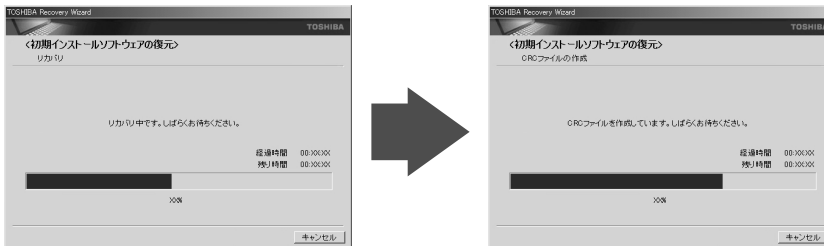
- 「ご購入時の状態に復元」と「パーティションサイズを変更せずに復元」を選択した場合は、リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの 100% を使用することができません。

9 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。
リカバリディスクが複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。

＊ 手順８で［ご購入時の状態に復元］を選択した場合は、最初に［コピーしています。］画面が表示されます。
　長い時間表示される場合もありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

10 **リカバリディスクを取り出し、パソコンからCD／DVDドライブを取りはずしてから、［終了］ボタンをクリックする**

システムが再起動し、［Microsoft Windowsへようこそ］画面が表示されます。

11 **Windowsのセットアップを行う**

参照 詳細について「1章 1 Windowsを使えるようにする」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

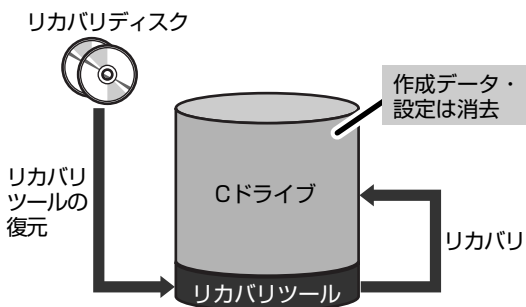
参照 詳細について「本章 4 リカバリをしたあとは」

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

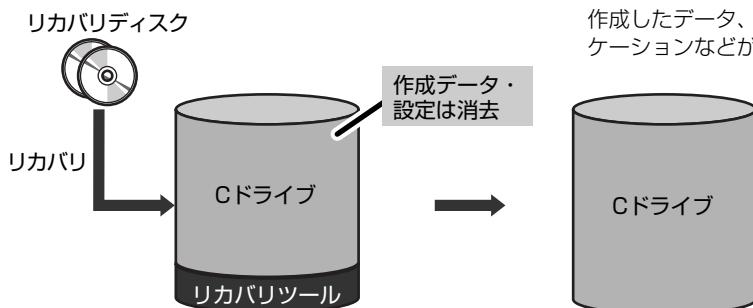
参照 周辺機器の接続「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本節 ③ リカバリディスクからリカバリをする」の手順8の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

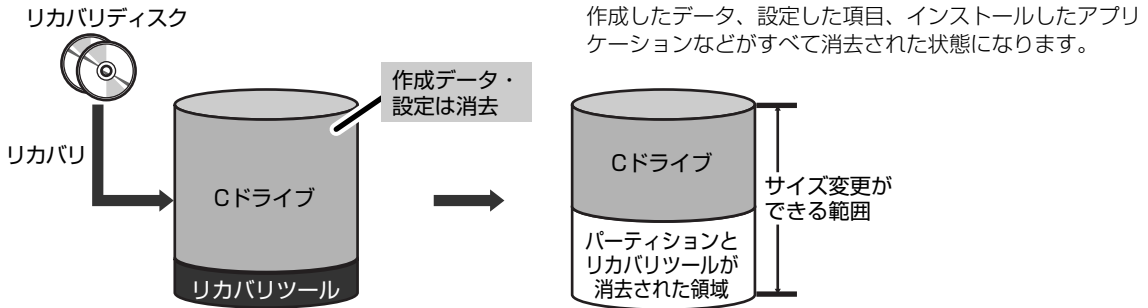
【 ご購入時の状態に復元 】
パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順8の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

【 Windowsパーティションのみに復元 】
ハードディスク全体を1つのパーティションにします。リカバリツールの領域は消去されます。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順8の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

【 パーティションサイズを指定して復元 】
ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。
C ドライブ以外の領域区分（パーティション） とリカバリツールの領域は消去され、一つの領域になります。その領域は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理 「本章 4-①-1 パーティションを設定する」

①［C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
②［次へ］ボタンをクリックする

手順８の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

④ リカバリ DVD-ROM からリカバリをする

＊ リカバリ DVD-ROM が同梱されているモデルのみ

同梱のリカバリ DVD-ROM では、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■
ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）
パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元■
C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、そこに保存されていたデータは消去されます。

- どのメニューを選択しても、C ドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 **パソコン本体に、AC アダプタと電源コードを接続する**

2 **CD ／ DVD ドライブを接続し、リカバリ DVD-ROM をセットする**
リカバリ DVD-ROM が複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

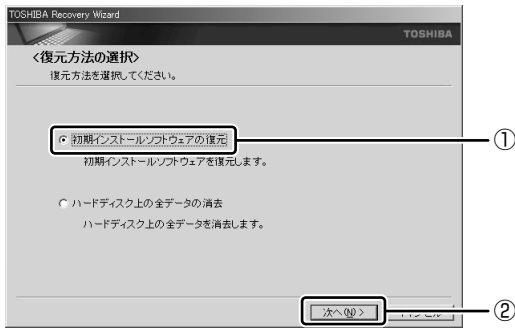
3 **パソコンの電源を切る**

4 **キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる**
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password= 」と表示されます。
ユーザパスワードを入力して ENTER キーを押してください。

5 **→ または ← キーで CD のアイコンにカーソルを合わせ、ENTER キーを押す**
メッセージが表示されます。

6 **画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする**

［復元方法の選択］画面が表示されます。

7 **［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

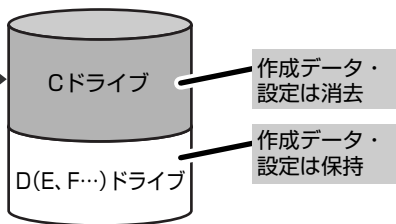
参照 ハードディスクの消去について 「10 章 5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

8 **［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・［ご購入時の状態に復元］　　　　　：P.164
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.164

● 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは

「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

C ドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

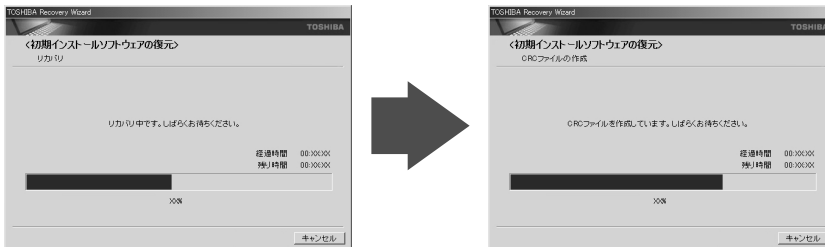
「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

9 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。
リカバリ DVD-ROM が複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

10 リカバリ DVD-ROM を取り出し、パソコンから CD ／ DVD ドライブを取りはずしてから、［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

11 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について 「1 章 1 Windows を使えるようにする」

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について 「本章 4 リカバリをしたあとは」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本節 ④ リカバリ DVD-ROM からリカバリをする」の手順８の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

【 ご購入時の状態に復元 】
パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順８の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

【 パーティションサイズを指定して復元 】
ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。
C ドライブ以外の領域区分（パーティション） は消去され、一つの領域になります。その領域（ □ ）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

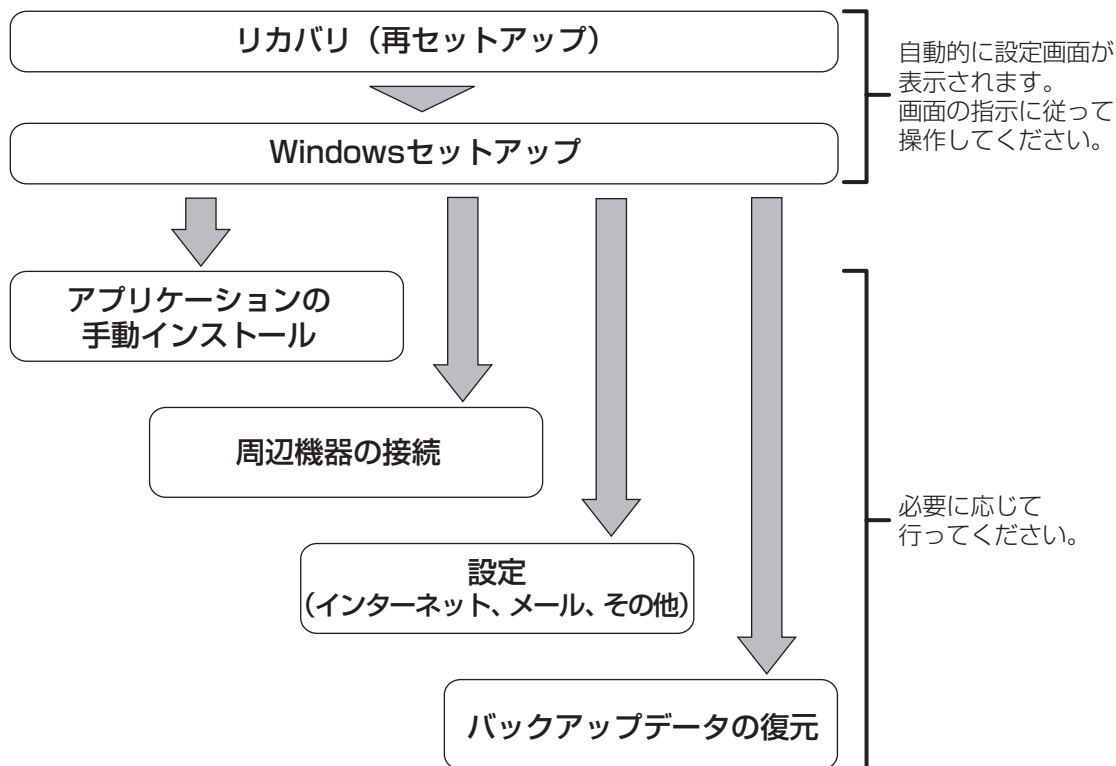
参照 ディスクの管理 「本章 4-①-1 パーティションを設定する」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

①［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
②［次へ］ボタンをクリックする

手順８の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

リカバリをしたあとは

リカバリ後は次の流れで設定を行います。

ここでは次の点を説明します。

- パーティションの設定
- プレインストールアプリケーションの手動インストール
- Office Personal 2003＊[1]、Office OneNote 2003＊[2]の再インストール

＊1　Office 搭載モデルの場合
＊2　OneNote 搭載モデルの場合

① Windows セットアップのあとは

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合のみ、次項「1 パーティションを設定する」の操作を行ってください。

1 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合は、リカバリ後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

- Windows の「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます（リカバリ DVD-ROM が同梱されていないモデルのみ）。このパーティションにはリカバリ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

1 **コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする**

2 **［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする**

3 **［ 管理ツール］をクリックする**

4 **［ コンピュータの管理］をダブルクリックする**

5 **左画面の［ディスクの管理］をクリックする**

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 **［ディスク 0］の［未割り当て］の領域を右クリックする**

7 **表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする**

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 **［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する**

次の項目を設定します。
・パーティションの種類
・パーティションサイズ
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・フォーマット
・ファイルシステム

9 **設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする**

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

【 ヘルプの起動 】
①メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

② アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

【 必要なもの 】
- 『取扱説明書』（本書）

アプリケーションによっては、再インストール時に ID 番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

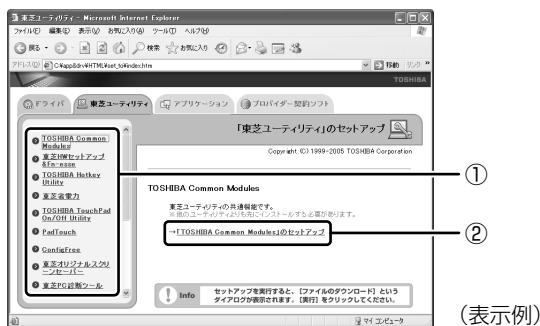
1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

アプリケーションやドライバのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、［ドライバ］タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。
画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。
画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

3 画面左側のアプリケーション名を選択し①、画面右側の「XXX のセットアップ」をクリックする②

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。説明文の下の青い下線の引かれている言葉をクリックしてください。

（表示例）

［ファイルのダウンロード］画面が表示されます。
［情報バー］画面が表示された場合は、次の手順を行ってください。

① ［情報バー］画面の内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする
② タスクバーの［ファイルのダウンロード］をクリックする
　［ファイルのダウンロード］画面がデスクトップ上の最前面に表示されます。

4 ［実行］ボタンをクリックする

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

③ Office Personal 2003、Office OneNote 2003を再インストールする

＊ Office搭載モデル、OneNote搭載モデルの場合

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合はOffice Personal 2003をインストールする必要があります。ここでは、Office Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】
同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式
- Microsoft® Office OneNote® 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote® 2003お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法

詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド』、『Microsoft® Office OneNote® 2003お使いになる前に』を確認してください。

【 Service Pack2について 】
添付のCDからOffice Personal 2003、Home Style+、Office OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack2は組み込まれません。「アプリケーションの再インストール」から再インストールしてください。

参照 アプリケーションの再インストール 「本節 ② アプリケーションを再インストールする」

【 「手書き入力パッド」を使用するとき 】
Office Personal 2003を再インストールした場合、Microsoft Office WordやMicrosoft Office Excelなどのアプリケーションを使用するときに、Microsoft IMEツールバーの［手書き］ボタン→［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。
言語の入力システム（Microsoft IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

10章

登録とケア －廃棄と譲渡－

この章では、パソコンの日ごろのお手入れや、保守や修理に関することを説明しています。
バッテリの廃棄やパソコン本体を捨てるときや人に譲るときの処置について知っておいて欲しいことを説明しています。

お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

① 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
東芝ID（TID）は、複数のデジタル商品、および東芝オンラインショッピングサイト「Shop1048」で共通にご利用いただけるお客様専用IDです。Room1048登録対象の東芝デジタル商品をご購入されたかたが対象で、インターネット経由でご登録いただけます。

「Shop1048」でご購入の際にお手続きのなかで、TIDをご登録いただいたお客様は、あらためてご登録いただく必要はありません。また、TIDをご登録後は、はがきでのご登録は不要です。

【 東芝ID（TID）でご利用いただけるサービス 】
- お客様専用個人ページ「Room1048（ルームトウシバ）」をご利用いただけます。
- PCオンラインによるメールでの技術相談をお受けいたします。
- アンケートなどでご取得いただくポイントで、プレゼントの抽選にご応募いただけます。
- 「Shop1048」でお買い物時には、便利でお得なTID会員メニューをご利用いただくことができます。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

お願い ご登録にあたって

- TID登録には、メールアドレスが必要です（携帯電話のメールアドレスはご遠慮ください）。
- 上記のサービス項目のうち、個人ページおよびポイント制度については、個人のお客様のみ対象となります。
- ご登録住所は、日本国内のみに限らせていただきます。
- この記載内容は2006年7月現在のものです。内容については、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

【 方法1 -［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法 】
インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。
すでにインターネット接続の設定が行われてあり、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

【 方法2 - インターネットからのご登録方法 】
インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
すでにインターネット接続の設定が行われてあり、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

【 方法3 - インターネットにすぐに接続されないお客様 】
まだインターネット接続の予定がないかたは、『お客様登録カード』（はがき）で仮登録を行ってください。後日インターネットで正式なTID登録を行っていただく必要があります。

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。続けてそれぞれの登録方法を紹介します。

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしてある場合に、本製品に添付のアプリケーションを利用して、TID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダ使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

お願い 操作にあたって

あらかじめ、次のことを行ってください。
- コンピュータウイルスへの感染を防ぐために、ウイルスチェックソフトをインストールし、有効状態に設定しておいてください。
- インターネット接続の設定をしておいてください。

参照 「4章 1-② ダイヤルアップで接続する」

- 複数のユーザを登録している場合は、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで操作してください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、「goo スティック」の利用を確認する［東芝 dynabook をご利用の皆様へ］画面が表示されます。「goo スティック」を利用する場合は、［利用規約を表示］をクリックし、利用規約を確認したあと［便利な goo スティックを利用する］をクリックしてください。利用しない場合は、［利用しない］ボタンをクリックし、あとで「goo スティック」をアンインストールしてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。

2 内容を読んで［お客様登録へ進む］ボタンをクリックする

3 ［インターネットアクセス環境をお持ちの方はこちらをクリック］をクリックする

インターネットに接続し、「Room1048」のページが表示されます。

4 ［東芝 ID（TID）新規登録・商品追加登録］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

画面のご案内に従ってください。

- 初めて TID をご登録される方
  ［新規 TID 登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、すぐに TID をご取得、ご利用いただけます。
- すでに他商品で TID を取得された方
  TID、パスワードを入力し、［商品追加登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

2 インターネットからのご登録方法

1 「http://room1048.jp/」にアクセスする

2 ［東芝 ID（TID）新規登録・商品追加登録］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する

［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

画面のご案内に従ってください。

- 初めて TID をご登録される方
  ［新規 TID 登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、すぐに TID を発行いたします。
- すでに他商品で TID を取得された方
  TID、パスワードを入力し、［商品追加登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

3 インターネットにすぐに接続されないお客様

同梱の『お客様登録カード』（はがき）に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝 TID 事務局より、「お客様登録番号」と TID 登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットから TID をご登録ください。
TID はインターネットからのご登録受付になります。

- 初めて TID をご登録される方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、［「お客様番号」をお持ちのお客様］ボタンをクリックし、通知はがきに記載されている「お客様登録番号」と「仮パスワード」を入力して TID 登録を行ってください。
- すでに他商品で TID を取得された方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、「Room1048」にログインしたあと、［登録情報変更］→［ハガキを受け取られたお客様］を選択してください。

お願い

- TID 登録時点でお客様登録番号は無効となります。TID でのサービス・サポートをご利用ください。
- TID をご登録にならない場合は、お問い合わせなどの際にお客様登録番号が必要になることがありますので、はがきをお手元に保管してください。

② その他のユーザ登録

1 その他のアプリケーションのユーザ登録

パソコンに用意されている他のアプリケーションのユーザ登録については、同梱の『ユーザ登録用紙』または各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「8 章 5 問い合わせ先」を確認してください。

快適に使い続けるコツ

パソコンと長くつきあうために、あらかじめ知っておいていただきたい内容を紹介します。
ここで紹介している以外にも、各マニュアル冊子をお読みになり、パソコンを正しくお使いください。

1 使える周辺機器を確認しよう

パソコンには、プリンタやスキャナ、PC(ピーシー)カードなどの周辺機器を接続することができます。周辺機器を接続することによって、より便利にパソコンを活用できます。
ただし、周辺機器はインタフェース（接続方式）が違うと接続できません。
購入するときは、マニュアルで本製品のインタフェースを確認のうえ、本製品で使用できるかどうかを周辺機器の取り扱い元や販売店で確認してください。

参照 周辺機器について
「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

2 お手入れも忘れずに

パソコンはちりやホコリが苦手です。日常の手入れを行ってください。
パソコンは精密機械です。故障や感電を防ぐために、メディアやカードなどを取り出してからパソコンや周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、手入れを始めてください。詳細については、「本章 3 日常の取り扱いとお手入れ」で紹介しています。

3 ちょっとおかしな動作のとき

『安心してお使いいただくために』に、本製品を使用するときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
次のようなトラブルが生じた場合は、手順に従って修理に出してください。
故障した状態のままで使用しないでください。

- パソコンを使用中に煙が出た
- 異常な音がした
- 臭いがした
- 水がかかってしまった
- パソコンを落とした

【 修理に出すまで 】

①すぐに電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜く
②安全を確認して、バッテリパックをパソコン本体から取りはずす
③修理に出す

参照 バッテリパックの取りはずしについて
「6 章 バッテリ駆動で使う」

参照 修理の問い合わせについて
『東芝 PC サポートのご案内』

4 パソコンと上手に付き合おう

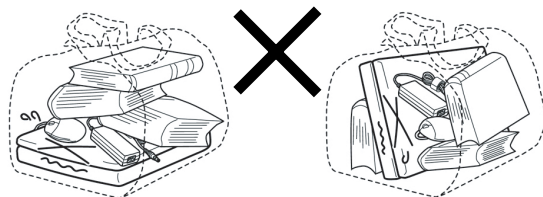
パソコンを長時間使うと、目や肩、首の疲れが気になります。
次のことに注意してください。

- 目を疲れさせないために、ディスプレイ（表示装置）が目の高さより低くなるように置いてください。
- キーボード（入力装置）は肘よりも下にくるよう、椅子の高さを調節してください。
- 前にかがんだり背もたれに寄りかからないよう、姿勢に注意してください。
  特に首や肩の疲れを防ぐため、背中を楽にして入力することが大切です。
  椅子の位置などを調節しておきましょう。
- 長時間、ディスプレイ（表示装置）を見続けないようにしてください。
  15 分ごとに 30 秒ぐらいの割合で遠くを見るようにしましょう。

参照 詳細について 『安心してお使いいただくために』

5 ちょっと待って。持ち運びですか？

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。
  電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
- スイッチ／ボタン ロックをロック側にスライドしてください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。
- 各スロットにメディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。
  セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面がＡＣアダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れかたをしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

日常の取り扱いとお手入れ

> ⚠ 注 意
>
> - お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
>   電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

1 パソコン本体／ACアダプタ／電源コード

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、AC アダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
  あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
  中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。＊1
  温度５～35℃、湿度 20 ～ 80%

  ＊1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリをふき取ってください。

2 キーボード

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

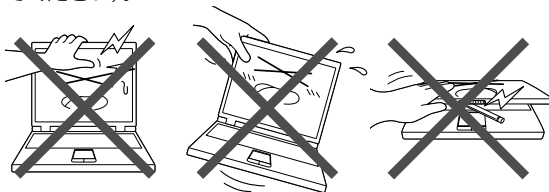
3 タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

4 液晶ディスプレイ

液晶ディスプレイの取り扱いについて

液晶ディスプレイの破損や故障を防ぐために、次のことを必ず守ってください。

- 液晶ディスプレイ表面を押さないでください。
- 液晶ディスプレイ部分をつかんで持ち上げないでください。
- キーボード上にペン等、ものをはさんだ状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。
- 液晶ディスプレイを開閉する際は片手でパームレストを押さえゆっくり開閉してください（無理な力を加えないでください）。

画面のお手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する

参照 スクリーンセーバーの設定
『ヘルプとサポート センター』

- 「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

参照 東芝省電力 「6章 2-① 東芝省電力」

表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

5 SDメモリカード

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布でふいてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

6 指紋センサ

指紋センサ表面が汚れている場合には、認識率が低下する可能性があります。眼鏡ふき（クリーナークロス）などのきれいな柔らかい布で軽くふき取ってからお使いください。
指紋センサ表面を強くこすらないでください。また、洗剤などは使用しないでください。故障するおそれがあります。

7 データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。
バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などにコピーしておくことです。
本製品は次のような場合、スタンバイまたは休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリ交換のとき
- バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

8 デフラグ（ディスクの最適化）について

デフラグとは、ハードディスクにあるファイルを先頭から再配置して、ファイルの分割状態を解消し、連続した空き容量を増やす作業のことです。
このパソコンでは「ディスク デフラグ ツール」を使用して、ハードディスクにある断片化されたファイルやフォルダ、ハードディスクの空き容量を整理統合して、より効率的にファイルやフォルダにアクセスしたり、新しく作成するファイルやフォルダを断片化されないように保存することができます。

「ディスク デフラグ ツール」の起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システム ツール］→［ディスク デフラグ］をクリックする

「ディスク デフラグ ツール」の使いかたについては、「ディスク デフラグ ツール」のヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 ［ディスク デフラグ ツール］画面で、メニューバーの［操作］をクリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- リカバリ（再セットアップ）ツール
- インターネットのお気に入り
- TPM 内部データ
- 自分で作成したデータ　　　　　　　　など

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日に約 8 時間、1ヵ月で 25 日のご使用で約 5 年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、24 時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換(有料)が必要となります。

【 対象品名 】
本体液晶ディスプレイ ＊1、ハードディスクユニット、CD/DVD ドライブ ＊2、フロッピーディスクドライブ ＊2、キーボード、タッチパッド、マウス ＊3、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部（ヒンジ）＊4、AC アダプタ

＊1　工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。
＊2　それぞれ内蔵されているモデルが対象です。
＊3　同梱されているモデルが対象です。
＊4　液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

社団法人 電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

URL：http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503parts/index.html

消耗品について

【 バッテリパック 】
バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックと交換してください。
別売りのバッテリパックと交換する前に、必ず指定の製品（型番）を確認してください。

参照　バッテリパックについて
「6 章 1 バッテリについて」

【 バックライト用 LED について 】
本体液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用 LED が内蔵されています。
バックライト用 LED は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。
表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。
バックライト用 LED のみの交換はできませんので、本体液晶ディスプレイの交換となります。本体液晶ディスプレイは有寿命部品（有償修理）となります。

付属品について

付属品（バッテリパック・AC アダプタなど）については、「東芝パソコンシステム・オンラインショップ」でご購入いただけます。

【 東芝パソコンシステム・オンラインショップ 】
TEL ：043-277-5025
URL：http://shop.toshiba-tops.co.jp

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から 6 年 6ヵ月です。

捨てるとき／人に譲るとき

① バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

Li-ion

【 バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先 】
有限責任中間法人 JBRC
TEL ：03-6403-5673
URL：http://www.jbrc.com

② パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。
（本製品は、一部に鉛を含む部品が使われています）

【 PC リサイクルマークについて 】

リサイクル

PC リサイクルマーク
製品本体の型番を表示しているシール（本体裏面）に印刷表示します。

1 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。
東芝は、PC リサイクルマークが表示されている東芝製パソコンは無料で回収と適切な再資源化処理を実施します。

【 パソコン回収受付窓口 】
東芝 dynabook リサイクルセンタ

【 回収方法 】

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
  URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm
  （24 時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合
  東芝 dynabook リサイクルセンタ
  TEL　　　：043-303-0200
  受付時間 ：10：00 ～ 17：00
  （土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
  FAX　　　：043-303-0202（24 時間受付）

【 回収・再資源化対象機器 】
ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体）、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

＊ 出荷時に同梱されていた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。
ただし、周辺機器（プリンタ他）、マニュアル、CD-ROM などの媒体は回収の対象外です。

2 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PC リサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【 お問い合わせ先 】
東芝パソコンリサイクルセンター
TEL　　　：045-510-0255
受付時間 ：9：00 ～ 17：00
（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX　　　：045-506-7983（24 時間受付）

【 東芝ホームページでご紹介 】
URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、標準添付しているハードディスクデータ削除機能や市販されている専用ソフトウェア、有償サービスの利用や、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認をする必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。

参照 「本項 5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

4 お客様登録の削除について

●ホームページから削除する
東芝 ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。

① インターネットで「http://room1048.jp/」へ接続する
② ［ログイン］ボタンをクリックする
［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。
③ ［東芝 ID（TID）］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする
お客様専用ページにログインします。
④ ページ右上の［登録情報変更］をクリックする
［登録情報変更メニュー］画面が表示されます。
⑤ ［退会］をクリックし、登録を削除する

※ 退会ではなく、商品の削除のみのお客様は「登録情報変更」メニューで、商品削除を行ってください。
※ TID を退会されますと、「Shop1048」での TID 会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

●電話で削除する
「東芝 ID 事務局（お客様情報変更）」までご連絡ください。

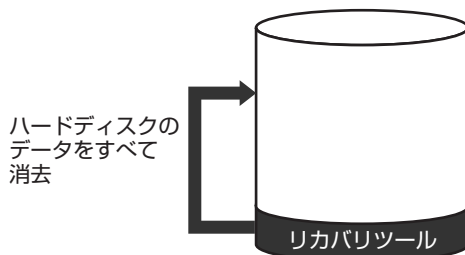
- 東芝 ID 事務局（お客様情報変更）
TEL　　：0570-09-1048
受付時間：10：00 ～ 17：00
（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

法人のお客様の場合は、ログインで表示される画面が異なります。登録情報の変更および退会は「登録情報変更」のメニューで、ご自身で行っていただくことができますが、商品の削除ができませんので、その場合は東芝 ID 事務局までお電話でご連絡くださいますようお願いいたします。

- 詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

5 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（ハードディスクのリカバリツールを使用する場合）

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、次の方法があります。

【 リカバリ DVD-ROM が同梱されていないモデル 】
- ハードディスクのリカバリツールを使用する
- 作成したリカバリディスクを使用する（S30 シリーズのみ）

【 リカバリ DVD-ROM が同梱されているモデル 】
- 同梱のリカバリ DVD-ROM を使用する

ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
作成したリカバリディスクまたは同梱のリカバリ DVD-ROM を使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。

ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクまたは同梱のリカバリ DVD-ROM から行う場合は、手順 1 の前に CD ／ DVD ドライブを接続し、リカバリディスク（ディスク 1）または同梱のリカバリ DVD-ROM をセットしてください。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの 0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

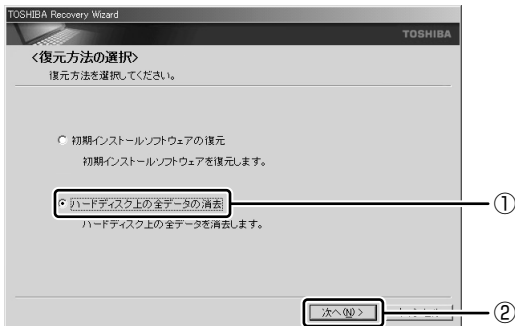
リカバリディスクまたは同梱のリカバリ DVD-ROM をセットしている場合は、キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れます。
その後、→または←キーで CD のアイコンにカーソルを合わせ、ENTER キーを押してください。

ユーザパスワードを設定している場合は、「Password ＝　」と表示されます。ユーザパスワードを入力して、ENTER キーを押してください。

メッセージが表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

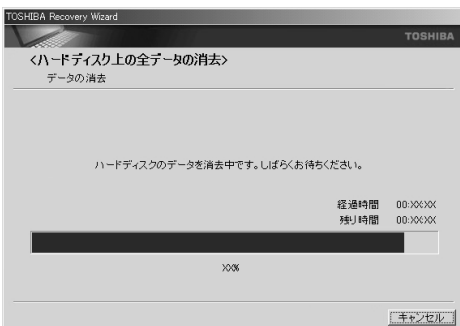
5 ［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

消去方法を選択する画面が表示されます。

6 目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

通常は［標準データの消去］を選択してください。
データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
消去が実行されます。
消去中は、次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

リカバリディスクまたは同梱のリカバリ DVD-ROM から行った場合は、メディアを取り出し、パソコンから CD／DVD ドライブを取りはずしてから、［終了］ボタンをクリックしてください。

TPM の内容を消去する

＊ TPM 搭載モデルのみ

TPM を使用している場合、ハードディスクドライブだけでなく、TPM 内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれているため、必ずデータを削除してください。

参照 TPM について
『Trusted Platform Module 取扱説明書』

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

本製品の仕様

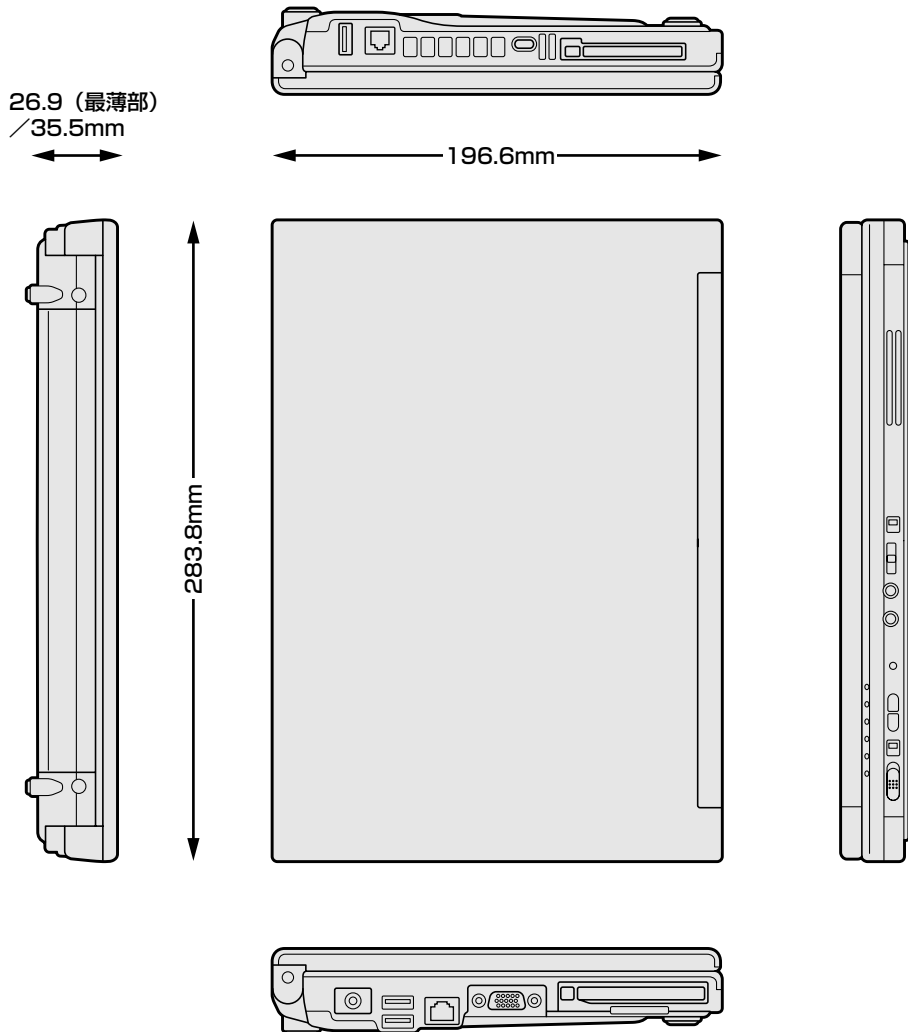
仕様についての詳細は、別紙の『dynabook SS SX シリーズをお使いのかたへ』または『dynabook SS S30 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

1 外形寸法図

＊ 数値は突起部を含みません。

26.9（最薄部）
／35.5mm

196.6mm

283.8mm

2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。
本製品では次のビデオモードをサポートしています。

65,536色			1,677万色		
色数	解像度（ドット）	リフレッシュレート（Hz）	色数	解像度（ドット）	リフレッシュレート（Hz）
16	800 x 600	60	32	800 x 600	60
		75			75
		85			85
		100			100
	1024 x 768	60		1024 x 768	60
		75			75
		85			85
		100			100
	1280 x 800	60		1280 x 800	60
		75			75
		85			85
		100			100
	1280 x 1024	60		1280 x 1024	60
		75			75
		85			85
		100			100
	1600 x 1200	60		1600 x 1200	60
		75			75
		85			85
		100			100
	1920 x 1440	60		1920 x 1440	60
		75			75
		85			85
	2048 x 1536	60		2048 x 1536	60
		75			75

注1）リフレッシュレートは外部ディスプレイのみに適応されます。
注2）本体液晶ディスプレイでは、1280 × 800 を超える高解像度表示は仮想ディスプレイでの対応となります。
注3）1,677 万色はディザリング表示です。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする**

2 **画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする**

3 **調べたい項目をクリックする**

メモリマップ　　　：［メモリ］
I/O ポートマップ　：［I/O］
IRQ 使用リソース　：［IRQ］
DMA 使用リソース：［DMA］

4 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠警告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- **取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに保管すること**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠注意

- **モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後 30 分以上たってから、行ってください。
- **パソコン内部にネジや異物を残さないこと**
  火災、発煙のおそれがあります。

お願い

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTT ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 モデムボードの取り付け／取りはずしの前に 】
次の作業を行ってから、モデムボードの取り付け／取りはずしを行ってください。

①データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
②パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類を取りはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④パソコン本体底面のネジ 8 本を取りはずす
⑤パソコン本体を表面に戻し、ディスプレイを開ける
⑥キーボードホルダとタッチパッドホルダを取りはずす
⑦キーボードを固定しているネジ 2 本を取りはずす
⑧キーボードを持ち上げて、パームレストの上へ裏向きに置く
⑨キーボードケーブルをとめているカバーのネジ 1 本を取りはずし、カバーを取りはずす
⑩メイン基板からキーボードケーブルを取りはずす
⑪キーボードを取りはずす
⑫プラスチックフィルムを 1 箇所はがす
⑬メイン基板から次のケーブルを取りはずす
・タッチパッドケーブルを取りはずす
・指紋認証ケーブルを取りはずす
・開閉センサハーネスを取りはずす
⑭上カバーをとめているネジ 7 本を取りはずす
⑮上カバーをベースカバーから取りはずす

【 モデムの取り付け 】
①モデムボードにケーブルを取り付ける
②メイン基板にモデムボードを取り付け、モデム固定用のネジ 2 本でとめる

【 モデムボードの取りはずし 】
①メイン基板にとめているモデム固定用のネジ 2 本を取りはずし、モデムボードを取りはずす
②モデムボードからケーブルを取りはずす

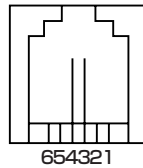
【 モデムボードの取り付け／取りはずしの後に 】
①上カバーをベースカバーにネジ 7 本で取り付ける
②メイン基板に次のケーブルを取り付ける
・タッチパッドケーブルを取り付ける
・指紋認証ケーブルを取り付ける
・開閉センサハーネスを取り付ける

③プラスチックフィルムを１箇所貼る
④メイン基板にキーボードケーブルを取り付ける
⑤キーボードケーブルをとめているカバーをネジ１本で取り付ける
⑥キーボードをネジ２本で取り付ける
⑦タッチパッドホルダとキーボードホルダを取り付ける
⑧ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏面にしてネジ８本を取り付ける
⑨バッテリパックを取り付ける

付録

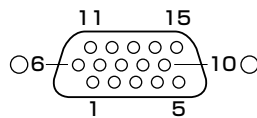
各インタフェースの仕様

1 モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			
654321			

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

2 RGBインタフェース

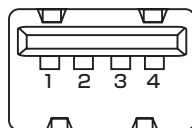
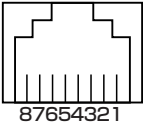
ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O
コネクタ図			

11　15
6　10
1　5

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 LANインタフェース

【 100BASE-TX ／ 10BASE-T 対応の場合 】

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			
87654321			

信号名　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

【 1000BASE-T ／ 100BASE-TX ／ 10BASE-T 対応の場合 】

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（+）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（−）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（+）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（+）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（−）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（−）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（+）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（−）	I/O
コネクタ図			
87654321			

信号名　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

「8章4 Q&A集 その他-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

省電力設定について
「6章2 省電力の設定をする」

高調波対策について

（社）電子情報技術産業協会情報処理機器 高調波電流抑制対策実行計画に基づく定格入力電力値：
同梱のACアダプタの出力電力値が45Wの場合：55W
同梱のACアダプタの出力電力値が60Wの場合：72W

FCC information

Product name : dynabook SS SX series
dynabook SS S30 series
Model number : PPR30* series

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PPR30* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2006年9月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 設定について「4章 1-②-3 海外でインターネットに接続するときには」

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007, AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1. NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
   Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
   The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
   Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
   Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
   Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.
2. The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
   The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
   For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

   NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.
3. The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
   CANADA:4005B-ATHENS

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

無線LANについて

＊ 無線LANモデルのみ

1 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、同梱の『無線LANについて』を確認してください。
IEEE802.11aは、屋内でのみ使用できます。

無線周波数帯	IEEE802.11a	5GHz（5150-5350MHz）
	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11チャネルセット」参照）。
各地域で適用される無線規制については、同梱の『無線LANについて』を確認してください。

【 無線IEEE802.11チャネルセット 】
- IEEE802.11a（5GHz）の場合

周波数帯域		5150-5350 MHz
	チャネルID	
J52	34	5170
	38	5190
	42	5210
	46	5230
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320

付録

J52 ：従来の Ch34（5170MHz）、Ch38（5190MHz）、Ch42（5210MHz）、Ch46（5230MHz）に対応する場合
W52：新たに規定された Ch36（5180MHz）、Ch40（5200MHz）、Ch44（5220MHz）、Ch48（5240MHz）に対応する場合
W53：新たに規定された Ch52（5260MHz）、Ch56（5280MHz）、Ch60（5300MHz）、Ch64（5320MHz）に対応する場合

アクセスポイント側のチャネル（J52/W52/W53）にあわせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● IEEE802.11b/g（2.4GHz）の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	**2457** *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

＊1 購入時、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。
＊2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、同梱の『無線 LAN について』を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

● インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

5 Internet Explorer のバージョンについて

「PC 引越ナビ」でデータを移行するときに必要な、「Internet Explorer」のバージョンの確認方法と、バージョンアップ方法について説明します。

ここでは、システムが Windows 98SE であることを例にして説明します。

参照 「PC 引越ナビ」について 「2 章 2 前のパソコンのデータを移行する」

なお、これらの操作は、「PC 引越ナビ」を使用するときに引っ越し元パソコン（前のパソコン）で行う操作です。

「Internet Explorer」のバージョンの確認方法

「Internet Explorer」のバージョンの確認方法は、次のとおりです。

1 「Internet Explorer」を起動する

2 メニューバーの［ヘルプ］→［バージョン情報］をクリックする

［Internet Explorer のバージョン情報］画面が表示されます。

［Version］が「6.X」、［更新バージョン］が、「SP1」または「SP2」の場合は、バージョンアップする必要はありません。
この他のバージョンの場合は、引き続き、「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップを行ってください。

「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップ方法

「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップは、インターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

1 ［スタート］→［Windows Update］をクリックする

■初めて Windows Update を実行したとき■
「セキュリティ警告」の確認画面が表示されます。［はい］をクリックしてください。

［Windows Update へようこそ］画面が表示されます。

2 ［更新をスキャンする］をクリックする

［インストールする更新の選択］画面が表示されます。

3 ［更新の確認とインストール］をクリックする

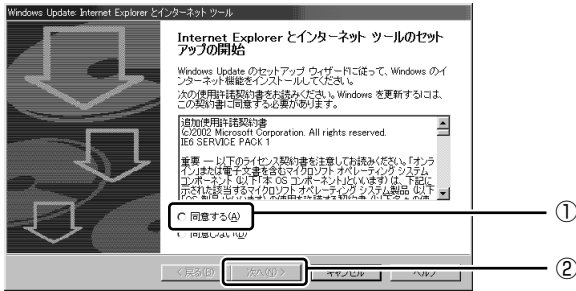
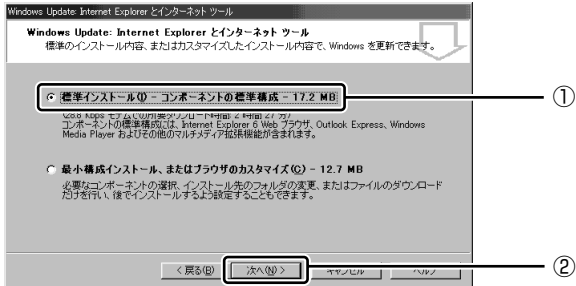
「インターネットへ情報を送信」の確認画面が表示されます。

4 ［はい］をクリックする

5 「Microsoft Internet Explorer 6 Service Pack 1」が表示されていることを確認し、［今すぐインストール］をクリックする

6 ［OK］をクリックする

「使用許諾契約書」が表示されます。

7 ［同意する］をチェックし①、［次へ］をクリックする②

8 ［標準インストール］をチェックし①、［次へ］をクリックする②

「Microsoft Internet Explorer 6 Service Pack 1」のインストールが開始します。
インストールが完了すると、パソコンを再起動する確認画面が表示されます。

9 ［OK］ボタンをクリックする

パソコンが再起動します。

さくいん

記号

A

B

C

D

F

H

L

M

N

P

R

S

T

U

W

イ

エ

オ

カ

キ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

ツ

テ

ト

ナ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

ム

モ

ユ

ヨ

リ

ワ

リカバリ(再セットアップ)チェックシート

リカバリは、本ページをコピーするなどして、次の項目を順番にチェックしながら実行してください。
本ページに記載されている各チェック項目の詳細は、「9 章 リカバリをする」で説明しています。

① リカバリをする前に確認すること

□ ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
□ セーフモードで起動できるかどうか実行してみる
□ 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認してみる
□ 他のトラブル解消方法を探してみる

参照 「8 章 パソコンの動作がおかしいときは」

② リカバリをはじめる前にしておくこと

□ **①準備するもの**
□『取扱説明書』 □ このリカバリチェックシートをコピーしたもの
□ リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリする場合）
□ リカバリ DVD-ROM（同梱されているモデルの場合）
□ CD ／ DVD ドライブ（リカバリディスク、リカバリ DVD-ROM からリカバリする場合）

□ **②必要なデータのバックアップをとる**
バックアップをとることができる場合は、とっておいてください。リカバリをすると、購入後に作成したデータはすべて消失します。
□ マイドキュメントのデータ
□ 購入後にデスクトップに保存したデータ
□ インターネットエクスプローラのお気に入り
□ メール送受信データ
□ メールアドレス帳
□ プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
□ 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
□ 購入後に作成したフォルダやファイル

□ **③アプリケーションのセットアップ用のメディアを確認する**
「Microsoft Office」や、購入後にインストールしたアプリケーションなどは、リカバリ後にインストールする必要があります。リカバリした直後は、お客様がインストールしたソフトなどは復元されません。ご購入されたメディアなどから再度インストールしてください。

□ **④各種設定を確認する**

□ **⑤あらかじめ、音量を調節する**
リカバリ後、Windows セットアップが終了するまで音量の調節ができないためです。

□ **⑥周辺機器をすべて取りはずす**

③ リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

□ リカバリ（再セットアップ）
□ アプリケーションやドライバのインストール*
□ ウイルスチェックソフトのインストール*
□ Office Personal 2003（Word、Excel など）のインストール*
□ 周辺機器（マウス・メモリ・プリンタなど）を取り付けて、設定する
□ インターネットの設定
□ ウイルスチェックソフトの更新
□ Windows Update
□ データの復元やメールの設定

＊ 必要なモデルの場合